

柳之御所遺跡

第65次発掘調査概報

平成20年3月

岩手県教育委員会

序

平泉町に所在する柳之御所遺跡は、平安時代末期の約100年間にわたって北方の王者として繁栄を誇った奥州藤原氏時代の遺跡であり、特別史跡中尊寺境内、特別史跡毛越寺境内、特別史跡無量光院跡と並び、当時の東北地方における政治・経済・文化の中心であった平泉の核をなしていた遺跡の一つであります。

本遺跡は、昭和63年から(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター、平泉町教育委員会が実施した一級河川北上川上流改修一関遊水地事業及び国道4号改修平泉バイパス建設事業に伴う緊急発掘調査により、大規模な掘立柱建物跡・圍池跡・溝跡などが確認され、また、おびただしい量のかわらけ・墨画資料など、質・量ともに内容豊かな遺物が出土しました。これら大量の遺構・遺物から、本遺跡が『吾妻鏡』にみられる「平泉館」であるとの考えが多くの歴史家から指摘されるようになりました。

このような経過のなかで、遺跡に対する建設省(現国土交通省)のひとかたならぬ御理解により、平成5年には遺跡の永久保存が決定し、平成9年3月には「柳之御所遺跡」として国の史跡に指定されました。さらに、本年度、本遺跡を含む平泉の文化遺産を「平泉—浄土思想を基調とする文化的景観」として国連教育科学文化機関の現地調査が行われ、平成20年の世界遺産本登録を目指した取り組みを進めております。

県では、本遺跡が国民共有の貴重な財産であるとの認識から、将来的には史跡公園として整備し、この遺跡を後世に伝えるとともに広く活用していきたいと考え、平成10年度から本格的な発掘調査を実施しております。

本報告書は、平成18年度に実施された第65次発掘調査の成果をまとめたものですが、文化財保護と平泉文化研究発展の一助になれば幸いです。

最後に、発掘調査の実施と報告書作成に当たり、ご指導・ご協力を賜りました平泉遺跡群調査整備指導委員会の委員の方がた、文化庁記念物課、(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター、平泉町教育委員会、国土交通省東北地方整備局岩手河川国道事務所をはじめ関係各位に深く感謝申し上げます。

平成20年3月

岩手県教育委員会
教育長 相澤 徹

例 言

1. 本書は、岩手県教育委員会が平成18年度に実施した柳之御所遺跡整備調査事業に係る、史跡柳之御所遺跡の発掘調査の概要報告である。調査期間は平成18年5月7日から9月30日までである。
2. 本事業は、岩手県教育委員会事務局生涯学習文化課が主体となり、(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センターの協力を得て実施した。

〈岩手県教育委員会事務局〉

生涯学習文化課総括課長 齋藤憲一郎

文化財・世界遺産担当課長 中村 英俊

主任主査(柳之御所担当) 佐藤 嘉広

文化財専門員(柳之御所担当) 吉田 充

文化財調査員(柳之御所担当) 大関 真人

〈(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター〉

所 長 相原 康二

調査第二課長 中川 重紀

文化財調査員 西澤 正晴(担当)

3. 遺構の呼称は、昭和63年度に(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センターが実施した調査時の方法に準拠し、下記の略称を使用した。遺構名の記載については遺構略号の前に調査次数を付してある。なお、複数年次にわたる調査で明らかに同一と認定される遺構については当初の調査時の遺構名を継続して使用した。

SA：塀・柱列 SB：掘立柱建物 SC：道路状遺構 SD：溝・堀 SE：井戸・井戸状遺構

SG：園池 SK：土坑・柱穴の一部 SX：その他 SI：堅穴住居 P：柱穴

例：65SD1 第65次調査の第1号溝・堀跡

4. 図版、写真図版、遺物観察表中の遺物番号は共通である。遺物の実測図については一部を除いて1/3を基本にしておりスケールを図中に表示した。遺構遺物写真については縮尺不定である。なお、建物等の記述に際し、尺の単位を使用する(1尺：30.3cm)。
5. 本書の編集・執筆は生涯学習文化課柳之御所班で協議の上、吉田・西澤が行い、編集は西澤が行った。執筆分担は、I-1～4(1)まで吉田が、それ以外は西澤が担当した。なお、附編については佐藤が作成し、吉田が編集した。
6. 調査成果の一部については、平泉遺跡群調査整備指導委員会等で公表してきたが、本書の内容が優先するものである。
7. 遺構の埋土観察、遺物の色調観察、「新版標準土色帖」を参考にした。
8. 自然科学分析については古代の森研究舎及び岩手県立博物館への分析委託により実施したものである。
9. 後述する平泉遺跡群調査整備指導委員会の各委員をはじめとして、下記の方々・機関の御協力を得た。

(五十音順：敬称略)

前川 佳代(京都造形芸術大学) 宮本長二郎(当時東北芸術工科大学) 吉田 歎(米沢

女子短期大学) 吉田 博行(会津坂下町教育委員会) 岩手県立博物館 奈良文化財研

究所 平泉町教育委員会 平泉町文化財センター 柳之御所資料館

10. 野外調査・室内整理等に從事していただいた方々の御協力で深く感謝いたします。
11. 本事業に係る調査で得られた諸記録及び出土遺物は、岩手県教育委員会が保管している。

目 次

I 序 論	1
1 調査経緯	1
2 平泉遺跡群調査整備指導委員会	2
3 調査計画	2
4 今年度の調査	7
(1) 調査の目的	7
(2) 調査区の位置	7
(3) 調査の方法	9
II 調査成果	10
1 概 要	10
2 調査経過	10
3 検出遺構	11
(1) 建物跡	11
(2) 土 坑	16
(3) 遺 跡	19
(4) 塀 跡	21
(5) 柱穴(ピット)	22
4 出土遺物	22
(1) 数 量	22
(2) かわらけ	22
(3) 国産陶器	23
(4) 輸入陶磁器	23
(5) 木 製 品	23
III 自然化学分析	24
1 土 壤 分 析	24
2 種 実 同 定	29
3 樹 種 同 定	31
4 放射性炭素年代	32
IV 総 括	33

挿図目次

図1	調査区の位置と周辺の遺跡	8
図2	31SB3 平面・断面実測図	11
図3	31SB4 平面・断面実測図	12
図4	31SB5 平面・断面実測図	12
図5	31SB6 平面・断面実測図	13
図6	41SB1 平面・断面実測図	14
図7	41SB2 平面・断面実測図	14
図8	65SK6 遺物出土状況実測図	17
図9	65SK8 遺物出土状況実測図	17
図10	65SK14 遺物出土状況実測図	18

表目次

第1表	整備指導委員会等の協議内容一覧	3
第2表	平泉遺跡詳細調査指導委員名簿	4
第3表	発掘調査年次計画1	5
第4表	発掘調査年次計画2	6
第5表	かわらけ観察表	35
第6表	国産陶器観察表	36
第7表	中国陶磁器観察表	36
第8表	木製品観察表	36
第9表	柱穴一覧表	37

図版目次

図版1	遺構 遺構配置図 (西区)
図版2	遺構 遺構配置図 (北区)
図版3	遺構 31SB3・41SB1 実測図
図版4	遺構 31SB4 実測図
図版5	遺構 31SB5 実測図
図版6	遺構 31SB5 柱穴断面実測図
図版7	遺構 31SB6 実測図
図版8	遺構 41SB2 実測図
図版9	遺構 55SX2 実測図1
図版10	遺構 55SX2 実測図2
図版11	遺構 55SX2 実測図3
図版12	遺構 土坑実測図
図版13	遺構 柱穴・塀・溝跡断面実測図
図版14	遺物 出土遺物実測図 (かわらけ)
図版15	遺物 出土遺物拓本・実測図 (国産陶器)
図版16	遺物 出土遺物拓本・実測図 (国産陶器・中国陶磁器・木製品)
図版17	遺構 1 西区全景写真
図版18	遺構 1 北区全景1
	2 北区全景2

図版19	遺構	1	31SB 5 平面 (1)
		2	31SB 5 平面 (2)
図版20	遺構	31SB 5 ②	1 P146検出
			2 P146断面
			3 P147検出
			4 P147断面
			5 P171検出
			6 P171断面
			7 P181検出
			8 P181断面
図版21	遺構	31SB 5 ③	1 P167検出
			2 P167断面
			3 P180検出
			4 P180断面
			5 P250検出
			6 P250断面
			7 P234検出
			8 P234断面
図版22	遺構	1	65SK 6 遺物出土状況
		2	65SK 8 遺物出土状況 2
図版23	遺構	1	65SK14遺物出土状況
		2	65SK14土層断面
図版24	遺構	1	65SK 2 土層断面
		2	65SK18土層断面
図版25	遺構	1	65SA 1・65SA 3
		2	65SA・65SA 3 (2)
図版26	遺構	1	65SA 3 板痕跡 1
		2	65SA 3 板痕跡 2
		3	65SA 1 検出
		4	65SA 1 土層断面
図版27	遺構	1	55SX 2 P20土層断面
		2	55SX 2 P21土層断面
図版28	遺構	1	55SX 2 P 9 土層断面
		2	55SX 2 P22-23土層断面
図版29	遺構	1	55SX 2 P29-10土層断面
		2	55SX 2 P29-10板材出土状況
図版30	遺構	1	55SX 2 貼り床土層断面
		2	55SX 2 貼り床土層断面 (拡大)
図版31	遺構	1	55SA 1 土層断面
		2	55SA 1 サブトレンチ土層断面
図版32	遺物		出土遺物 (1)
図版33	遺物		出土遺物 (2)
図版34	遺物		出土遺物 (3)
図版35	自然遺物		花粉
図版36	自然遺物		種実

I 序 論

1 調 査 経 緯

県教育委員会では、柳之御所遺跡が平成9年に国の史跡に指定されたことから、当遺跡を史跡公園として整備し保存活用を図るため、文化庁・柳之御所遺跡調査研究指導委員会（現平泉遺跡群調査整備指導委員会）の指導助言を得て、平成10年度から主に未調査区域を対象とした内容確認の発掘調査を計画的・継続的に行っており、三か年を1サイクルとし第I期整備対象区域である堀内部地区を中心として調査を実施している。

平成10年度調査（第49次）は、既往の調査で検出されていた園池・中心建物群を囲む堀跡の追跡に主眼を置いて実施した。北上川に面する東辺の堀跡の追跡を行った結果、緊急調査時点で検出されていた部分から7mほど北に向かい延長することが確認された。しかし、さらなる延長については検出されなかった。

平成11年度調査（第50次）は、既往の調査で確認された園池や大型の建物など、堀で囲まれた中核域の周辺地域での12世紀代の遺構の広がりや密度を確認することを目的として発掘調査を行った。その結果、12世紀代の遺構が現況の河岸線まで分布し柳之御所遺跡の一部が北上川の侵食で失われていることが確認された。また、堀や井戸状遺構の検出、複雑に重複する掘立柱建物などが多数検出され、複数時期にわたって遺跡が営まれたことが明らかにされた。さらに、「磐前村印」と刻印された銅印と器表面全体を漆の沁み込んだ麻布で被覆されたほぼ完形に近い白磁四耳壺が同一の井戸状遺構から出土した。地名を刻印したと推定される銅印の発見は、奥州藤原氏の統治システムを考察する上で貴重な資料となるばかりでなく、本邦の印章史の空白期を埋める資料として注目された。

平成12年度調査（第52次）では、園池周辺域の中心建物群とは異なるエリアから、建物の軸線の異なる大型の建物が検出された。これは、時期を異にして大型の建物で構成される複数の地域が存在したことであり、柳之御所遺跡の遺構の変遷を考えるうえでは重要な課題を提示した。中心域の移動がおこなわれた背景には、平泉あるいは奥州藤原氏内部での何らかの重要な転換期を反映している可能性が考えられる。

また、柳之御所遺跡は従来まで遺跡のピークが三代秀衡の治世12世紀第三四半期にあることが指摘されてきたが、新たに12世紀初頭あるいは前葉に位置づけられる一群の土器群が発見されたことで、当遺跡が12世紀前半代初代清衡の時期まで遡ることが明らかにされた。これは、政庁「平泉館」の性格あるいは、奥州藤原氏の平泉での確立期の状況を推定させる重要な発見である。

平成13年度調査（第55次）は、新たに園池の北側に大規模な建物の存在が明らかとなり、柳之御所遺跡の中核施設の移動が想定されるようになった。また、初代清衡の時代である12世紀初め頃のかわらけがまとまって発見され、柳之御所遺跡の開始年代と遺跡の性格、ひいては平泉奥州藤原氏の成立期の問題を考える上で非常に大きな問題を示唆することとなった。

平成14年度調査（第56次）では、遺跡中核部を囲む2条の堀跡の追跡調査を実施し、遺跡北部より30数基のトイレ状遺構が集中して見つかるなど、当時の生活の様子を具体的に分析できる資料が発掘された。また、平泉では初めてとなる中国南部の吉州窯製の陶器片も出土し、奥州藤原氏の経済基盤の豊かさを知る手がかりとなった。

平成15年度調査（第57次）は、第23次（平成元年度）の調査で造り替えが確認されていた、園池に

ついでの詳細な規模や造成時期の把握及び堀跡の追跡と門跡の確認、高館南側裾部分の遺構分布の確認を目的として調査を実施した。調査の結果、堀跡及び門跡を確認することはできなかったが、高館南側裾部分も北上川の浸食により遺構が失われていること、旧園池の造成時期や北半部の汀線が明らかとなった。

平成16年度調査（第59次）は第3次3か年計画の初年次で、以前から指摘のあった中心建物群の規模や新旧関係の確定を主な目的として調査を行い、建物規模や遺構の切り合い関係などについて一定の見通しを得ることができた。

平成17年度調査（第64次）は①池に架かる橋、②不明瞭だった池南西部の汀線、③園池東側への施設の広がりを確認する目的で実施されました。調査の結果、①橋跡は古段階の園池跡に付随するもので、東西方向に長軸を持ち、桁行き7尺（約210cm）間隔、梁行き10尺（約300cm）の4間×1間の掘立柱によるものであること、②池南西部は岸と見られる小さな盛り上がりと池底の痕跡を確認し、新段階の園池跡は中島を持つ園池であること、③削平のため残りが悪く、井戸2基、土坑2基、柱穴数基が新たに確認された。

平成18年度調査（第65次）は大型建物跡が集中する中心城西側地区で、塀・櫓・門などの連続施設の検出とその付近に位置する掘立柱建物跡の再確認、55SX2の構造把握を目的で実施された。

調査の結果、西側調査区では以前の調査で検出されていた9個の柱穴のほかに8個新たに検出され、5間×2間の総柱建物跡（31SB5）であることが確認された。この建物跡は倉町遺跡（平泉町字倉町所在）で検出された「高屋」と解釈される建物跡と類似することがわかった。

2 平泉遺跡群調査整備指導委員会

当教育委員会では、平成10年度から柳之御所遺跡の内容確認調査を再開するにあたり「柳之御所遺跡調査研究指導委員会」を設置し、柳之御所遺跡及び平泉遺跡群の発掘調査及び調査研究に対して指導助言を得てきた。平成12年に「平泉の文化遺産」が世界文化遺産の暫定リストに追加登録されたことから、会の名称を「柳之御所遺跡調査整備指導委員会」に改め、さらに平成15年度は世界遺産本登録に向けたコアゾーン再検討の必要性から「平泉遺跡群調査整備指導委員会」と改称した。

平成18年度の委員会・専門部会は第1表の通り開催した。

3 調査計画

柳之御所遺跡の調査は3か年ずつ計画を立て進めているところである。今年度は第3次3か年計画の3年目にあたる。第3次3か年計画は遺跡中核と考えられる地区を中心に再発掘調査を行い、既往調査の再検証と整備に関わるデータ収集を主な目的として計画されたものである。堀内部地区のさらに中心と考えられるこれらの地区は整備対象地区でもあることから、再度調査を行って、具体的な情報を得ることが求められている。

本年以降の計画は、堀内部地区周辺の調査を中心に行う予定であり、堀跡や導入施設などを確認することを主な目的としている。この第4次3か年計画で堀内部地区の調査は一掃中断し、以降堀外部地区の調査へと進んでいく予定である。これまでの計画と今後の計画については第3、4表のようになる。

第1表 調査整備指導委員会等の協議内容一覧

月日	委員会・部会名	内 容	
H18. 6. 21	第1回 遺構検討部会 作業部会	○掘 ○道路構成の考え方 ○出土遺物からの行為推定 ○中心域検出遺構の詳細及び類似比較 ○出土壁材の検討状況	
H18. 7. 19～7.20	第1回 調査整備指導委員会	○整備計画 ○H18年度整備 ○H18年度野外調査 ○現地指導	・堀内部の全体構造 ・中心建物遺構詳細 ・出土遺物からみた機能推定 ・ガイダンス施設 ・工事計画 ・園池整備工事 ・全体整備計画 ・県教育委員会 ・市町村教育委員会 ・(財)岩文振埋文セ ・櫓之御所遺跡 ・接待館遺跡 ・瀬原1遺跡ほか
H18. 8. 30	第1回 整備検討部会	○園池修景方法 ○園池等植栽計画	・園池造成・掘削 ・池底に使用する礫 ・芝と石敷きの見切り ・排水 ・修景植栽
H18.10.19	第2回 遺構検討部会 作業部会 第2回 整備検討部会	○建造物復元計画策定にあたっての前提事項整理 ○整備予定遺構の修景表示方法 ○園池周辺植栽等	(遺構) ・遺構表示等 ・土塁 ・55SX 2 ・空間の位置付け (整備) ・建物遺構表示 ・舗装 ・植栽計画
H19. 1. 11	第3回 整備検討部会	○整備の基本的考え方 ○遺構表示の考え方と方法 ○サイン・看板・植栽等 ○園池復元の施工	・遺構及び整備検討 ・植栽検討 ・遺構表示検討 ・サインデザイン案
H19. 1. 31	第2回 調査整備指導委員会	○整備計画 ○整備の考え方と手法 ○ガイダンス施設整備基本設計 ○衣川流域遺跡群埋蔵文化財調査	・H18年度野外調査成果 ・整備対象園池内部地区の構造 ・遺構等の表示方法 ・案内、解説板等の表示方法 ・修景盛土植栽計画 ・県教育委員会 ・奥州市教育委員会
H19. 3. 2	第3回 遺構検討部会 作業部会	○建造物復元計画策定にあたっての前提事項整理	・掘立柱建物の構築時期に関する見直し ・堀内部地区の遺構変遷

第2表 平泉遺跡群調査整備指導委員会名簿（平成20年3月現在）

氏名	役職	専門部会
入間田 寛 夫	東北芸術工科大学教授	整備
遠 藤 セツ子	メビウスの会事務局	整備
岡 田 茂 弘	国立歴史民俗博物館名誉教授	保存・整備
小 野 正 敏	国立歴史民俗博物館教授・副館長	遺構
◎河 原 純 之	元千葉大学教授	
○工 藤 雅 樹	福島大学名誉教授	遺構・保存
齊 藤 利 男	弘前大学教授	遺構
佐 藤 信	東京大学大学院教授	保存・整備
清 水 謙	東京工芸大学教授	遺構
清 水 真 一	東京文化財研究所文化遺産国際協力センター長	遺構
関 宮 治 良	前平泉町商工会議所事務局長	整備
田 中 哲 雄	東北芸術工科大学教授	保存・整備
田 辺 征 夫	奈良文化財研究所長	遺構
玉 井 哲 雄	国立歴史民俗博物館教授	遺構
西 村 幸 夫	東京大学大学院教授	保存

※◎委員長 ○副委員長 遺構：遺構検討部会、保存：保存管理計画検討部会、整備：整備検討部会

第3表 発掘調査年次計画1

年次	調査回数	調査面積	調査期間	予算(千円)	備考	
第1次三ヵ年次計画	平成10年度	第49次	500㎡	5月15日～10月31日	18,211	国庫補助
	平成11年度	第50次	1,800㎡	5月13日～10月31日	32,236	国庫補助
	平成12年度	第52次	2,500㎡	5月15日～11月17日	43,341	国庫補助
第2次三ヵ年次計画	平成13年度	第55次	3,100㎡	5月11日～11月13日	46,103	国庫補助
	平成14年度	第56次	4,000㎡	5月13日～11月29日	62,054	国庫補助 ※整備関係予算を含む
	平成15年度	第57次	4,000㎡	4月14日～10月31日	67,195	国庫補助 ※整備関係予算を含む
第3次三ヵ年次計画	平成16年度	第59次	3,500㎡	5月10日～10月31日	69,317	国庫補助 ※整備関係予算を含む
	平成17年度	第64次	2,500㎡	4月15日～9月30日	141,679	国庫補助 ※整備関係予算を含む
	平成18年度	第65次	1,500㎡	5月8日～10月31日	64,481	国庫補助 ※整備関係予算を含む
第4次三ヵ年次計画	平成19年度	第68次	1,600㎡			
	平成20年度	第69次	1,100㎡			
	平成21年度		1,100㎡			

第4表 発掘調査年次計画2

年次		調査回数	調査内容等
第1次3ヵ年計画	平成10年度	第49次	<ul style="list-style-type: none"> ・堀内部地内の中心建物群、特に最大建物である南北棟4間9間42SB1(28SB4と一部重複)の東側地区の解明。 ・23次調査時の23SB2建物跡の延長確認。 ・23SA3柱列跡、23SA1堀跡の延長確認。 ・48SB1建物跡の延長確認と所屬時期の検討。
	平成11年度	第50次	<ul style="list-style-type: none"> ・池跡及び中心建物群を囲む23SA1堀跡の追跡。 ・4間9間の南北棟の東側の状況及び建物群の伸長。 ・42SD1大溝とされていた道槽の時期及び伸展状況追跡。 ・37次、42次の内容確認調査に確認されていた溝・堀類の時期及び伸展状況の把握。
	平成12年度	第52次	<ul style="list-style-type: none"> ・堀内部地区、中心建物群の西側及び北西側地域の解明。 ・祭祀遺構周辺域の解明。 ・無量光院との対峙地域の解明。 ・堀外部地区から延長すると推定される道路遺構の解明。
第2次3ヵ年計画	平成13年度	第55次	<ul style="list-style-type: none"> ・中心建物群の北側地区の解明。 ・中心建物群を囲むと推定される濠跡の検出。 ・堀外部地区から延長すると推定される道路遺構の解明。 ・現存する微高地状の高まりの性格把握。 ・北上川縁地域の状況把握。
	平成14年度	第56次	<ul style="list-style-type: none"> ・第52次発掘調査の際に検出された大規模な堀(内堀)と張出施設を伴う溝の追跡。 ・北上川右岸縁での大型建物の展開の把握。 ・遺跡を二分する外堀の追跡。
	平成15年度	第57次	<ul style="list-style-type: none"> ・旧池跡の規模と造成時期の把握。 ・遺跡中核を囲う堀の追跡調査及び門跡の確認。 ・高館南側部分未調査地域の遺構分布の確認。
第3次3ヵ年計画	平成16年度	第59次	<ul style="list-style-type: none"> ・中心建物群の規模と新旧関係の解明。 ・園池北部の構造及び規模と造成時期の把握。 ・北上川縁側地域の状況把握。
	平成17年度	第64次	<ul style="list-style-type: none"> ・園池の構造及び規模と造成時期の把握。 ・池跡から東側への建物等の展開状況の確認。
	平成18年度	第65次	<ul style="list-style-type: none"> ・遺跡中核を囲う堀の追跡調査及び門跡及び道路遺構の確認。 ・既調査区の再検証。
第4次3ヵ年計画	平成19年度	第68次	<ul style="list-style-type: none"> ・道路遺構(21SC1)及び堀跡(23SA1)の延長確認。 ・遺跡南端外堀の有無の確認。
	平成20年度	第69次	<ul style="list-style-type: none"> ・遺跡を区画する二重堀の構造や構築時期の特定。 ・既調査で一部確認されている橋跡の追跡調査。
	平成21年度		<ul style="list-style-type: none"> ・堀内部北端堀の構造確認。 ・堀外部地区からの堀内部への導入施設(道・橋等)の確認。

※ 第51次・53次・54次・58次・60～63次調査は平泉町教育委員会が実施。

4 今年度の調査

(1) 調査目的

平成18年度調査（第65次）は大型建物跡が集中する中心域の西側に隣接する部分などで実施した。本調査区の北部分は41次調査の南端部に、その他部分は31次調査の北側部分にあたる（図1）。調査は今後行われる整備復元に必要な情報を得ることを目的とし、あわせて堀・溝・門などの遮蔽施設の検出を試みた。調査の結果、後者の検出はできなかったが、倉町遺跡で検出された総柱建物跡に類似するような掘立柱建物跡が検出された。この建物跡は『吾妻鏡』に記載されている「高屋」の可能性があり、今後慎重な検討が必要となる。

調査は基本的に遺構の内容把握を主目的にしている。遺構の所属時期の確定・遺構の性格等を把握することを最優先しており、検出した遺構すべてを最終的な段階まで精査しているわけではない。なお、半截あるいは完掘した遺構については砂で埋め戻し、遺構面を覆い、可能な限り元の状態に復旧し保存を図っている。

(2) 調査区の位置

柳之御所遺跡は岩手県西磐井郡平泉町平泉字柳御所に所在する。遺跡の背後（北東側）には高館の丘陵、東に北上川、西から南にかけて猫間が淵と呼称される低地によって区切られた河岸段丘上に立地する。遺跡内の標高は南側で25.3m、中心部で27m、北側で32mであり、北東側が高く、南西側に傾斜している。北上川に接しているため遺跡の一部は浸食されたと考えられるが本来どの程度存在していたのか、また、北上川の旧河道がどこなのかは不明である。この土地は調査前には住宅地と田畑があった場所であり、緊急調査後には公有地化が行われている。

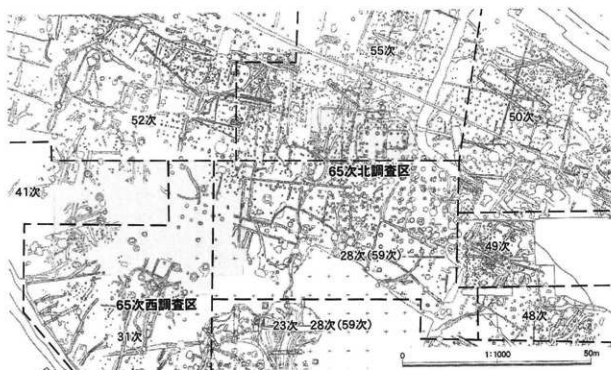
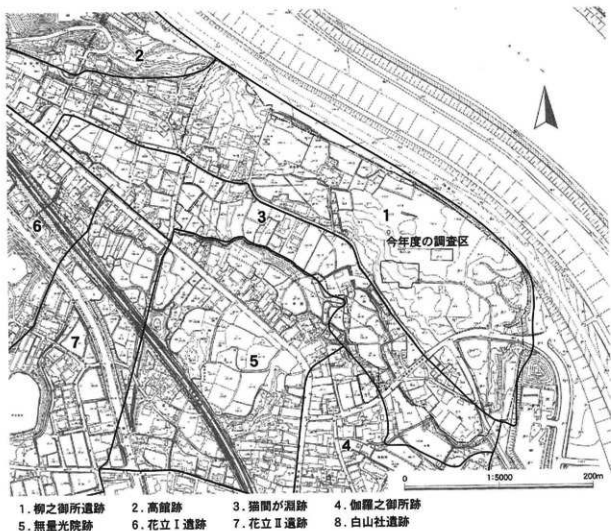
地形図上の位置では国土地理院発行の五万分の一地形図「一関」(NJ-54-14-15)の図幅内にある。遺跡の経度・緯度は遺跡の中央部分で、北緯38度59分28秒、東経141度7分35秒（日本測地系）である。

柳之御所遺跡は平成9年に史跡指定され、以降順次史跡範囲を広げながら現在に至っている。現時点での指定地面積は88,244.49㎡である。

今年度の調査地は遺跡を堀の内外で二分したうち堀内部地区と呼ぶ範囲に位置する。これまでの調査によって圍池跡が発見され、またその周辺には大型の建物が密集することが判明している（中心域と呼ぶ）。そのためこの付近の場所が遺跡の中心地と考えられるようになった。今年度の調査地点はこの中心域の西と北側に相当する。この範囲はこれまで第31次（平成3年）と第41次調査（平成5年）によって（財）岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センターによって調査されている場所でもある。

柳之御所遺跡周辺の遺跡をみると、西には隣接して猫間が淵跡、無量光院跡が位置し、北には高館跡、南には伽羅御所跡が接している。無量光院跡はこれまで17次にわたって調査が行われており、宇治平等院と酷似した内容が確認されている。伽羅御所跡はこれまで17回以上の調査が行われているが、調査面積が少ないため内容は明らかとなっていない。しかし貴重な遺物が出ることから重要な遺跡であることは間違いないと思われる。地名から『吾妻鏡』に記載される伽羅御所に比定されることもあるが、発掘調査によって明らかにされているわけではない。

これらの遺跡はいずれも奥州藤原氏関連の遺跡と想定される遺跡であり、柳之御所遺跡と同時期に存在していた可能性も高い。これらが複合して柳之御所遺跡が機能していたと考えられる。



第1図 調査区の位置と周辺の遺跡

(3) 調査の方法

グリッド 遺構の測量や遺物の取り上げなどの測量作業に際し基準としてグリッドを設定している。このグリッドは(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センターが1988年から始まる緊急調査に際し平泉町教育委員会と協議のうえ設定したものである((財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター1995『脚之御所跡』(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第228集)。平面直角座標第X系(日本測地系)をもとにした5×5mグリッドで、南北方向の基準線に対し真北は、西に0°11′振れる。遺跡範囲の北西端辺りが原点(0, 0)となる。49次調査まではグリッドの呼称をX座標方向、Y座標方向の順にしていたが、50次調査以降、その順を逆転させY座標方向、X座標方向の順で呼称・記載している。本書においてもこの方式を採用し、たとえば66-70(Y-X)グリッドならばX軸方向が70、Y軸方向が66を示している。

表土掘削・遺構検出 今年度の調査区はすべて再調査であったため、前回の調査以降に盛られた保護盛土(下位は砂層・約30~50cm)を除去すると遺構確認面となる。この表土は調査員立ち会いのもと、重機によって砂層の大部分を除去した。その後鍬簾などの道具を使用して遺構確認調査(検出作業)を行っている。

遺構精査・記録 検出作業を確認された遺構については、史跡内であるため基本的には精査を行っていないが、遺構の年代把握や遺物回収のため一部の遺構については精査(半截、土層観察帯残し)を行った。確認された遺構については、観察後あらためて平面図作成を行っている。ただし、北区については55SX2の一部以外については変更点がなかったためあらためて平面図は作成していない。遺構の実測は5mグリッドを分割した1m×1mのメッシュを使用して手作業で行った。写真については6×7版カメラ(モノクロ・リバーサルフィルム)を中心に撮影を行い、適宜35mm版カメラやデジタルカメラを使用して撮影を行った。調査区全景写真撮影に際しては高所作業車を使用して調査員が撮影を行っている。

遺構名称 今次調査における遺構名は新規の遺構については頭に今回の調査回数である65を付して上記遺構略号を使用した(例.65SB○○)、それ以外の遺構については柱穴を除き旧番号(既調査で命名)で統一し、本書においても使用している。

整理作業 野外調査終了後の平成18年11月1日から平成19年3月31日まで行った。遺物は水洗後に注記→接合→実測→トレース→図版作成→写真撮影の順で作業を行った。遺構については点検、合成の後、必要に応じて第2原因を作成し、その後トレース→図版作成の順で作業を行った。

記載内容 今回の調査区内における既発見の遺構については、建物関連の柱穴を除いて平面図の確認および作成のみ行った。新期に発見された遺構はもちろん、既知の遺構においても新たな知見が得られたものや再検討したもののみについては本書に記載している。

普及活動 普及活動の一環として、野外調査の全容がほぼ明らかとなった9月2日に現地説明会を行った。天候にも恵まれて参加者150名を得た。そのほか訪れる観光客などに必要に応じ随時現場を公開している。

Ⅱ 調査の概要

1 全体概要

(1) 調査区・検出遺構について

今年度の調査区は堀内部地区の中央部に位置し、中心建物群の西側と北側の2地区に分かれる。便宜的にそれぞれ西・北区としている。西区は31・41次調査区の一部、北区は55次調査区の一部に相当する(第1図)。再調査の結果あらたに発見された遺構は以下の通りである。

建物跡	計 7棟	うち今回発見 1棟 (既知遺構が建物に変更)
柱穴(ピット)	計379個	うち今回発見206個
溝跡	計 21条	うち今回発見 13条
塀跡	計 4条	うち今回発見 3条
土坑	計 32基	うち今回発見 14基

(2) 基本層序

基本層序はすでに保護盛土が造成されていたため、前回調査時の土層堆積は確認できなかった。そのため調査は保護盛土の下層である山砂を日安に深度を決定して行った。本来の土層堆積はこれまでの報告書を参照されたい。

2 調査経過

5月8日 調査開始。現場設営を行う。

5月上旬 西区にトレンチをいくつか入れ下層の遺構の確認作業を中心に作業を行う。以降試掘トレンチ調査を中心に調査を進める。

5月下旬 試掘の結果を受けて重機による表土掘削を行う。以降、順次西区の遺構検出作業を行っていく。

6月上旬 日形小学校(児童約30名)、文化庁山下調査官視察、専門家国際会議一行など見学や視察が相次ぐ。一回目の粗検出を行っているなかでもいくつかの新規の遺構が発見される。31SB5建物跡では構成する柱穴が増えて、建物として完全に揃うことがこの時点で判明した。

6月下旬 21日に指導委員会作業部会開催。31SB5総柱建物の再検出の結果柱穴が増えることを指導委員に報告する。以降慎重に調査を進める。23日に一部の作業を北区の調査へ移行する。

7月上旬 西区は平面図作成作業を中心に進めるいっぽうで、北区の検出作業を行う。また西区は北側に調査範囲を拡張することにし、重機による表土掘削を行う。

7月下旬 20日に指導委員会が開催されるため、清掃作業を中心に作業が進む。この段階までにおおよその検出が終わり、遺構の内容が判明する。全景写真撮影を行って、検出作業を終える。

8月上旬 検出作業後、遺構精査を行う。柱穴については削平度の目安にするため穴の深さを重視したため、半裁作業を進めた。31SB5については構造と出土遺物の採集のためできるだけ精査を行い情

報の收拾を図った。

8月下旬 学習院大学考古学研究会のメンバーが発掘作業に参加する。西区の一部をさらに拡張する。ひきつづき遺構の精査を中心に作業は進んでいく。

9月上旬 2日土曜日に現地説明会を行う。参加者は約150名にも及んだ。

9月下旬 両調査区とも図面作成作業を中心に作業が進行する。野外調査の大部分は30日にまでに終了する。

10月上旬 一部図面作成作業が残るものの、大部分は土器洗浄作業を中心に作業を進める。

10月下旬 野外作業が完全に終了する。以降、土器洗浄のほかに、土壌の洗浄を行う。31日に撤収作業を行い、作業はすべて終了する。

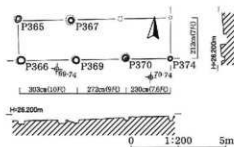
3 検出遺構

(1) 建物跡 (SB・SX)

【掘立柱建物跡】

31SB3 西区73-68~73-70グリッドに位置する。3間×2間の掘立柱建物である(図版3)。東西棟で本来は8個の柱穴より構成されると考えられるが、このうち2個が後世の削平のためか確認できない。31SB4、31SE3、31SK58と重複するが、間接重複のため新旧関係は不明である。調査前には民家が存在していたため、住宅基礎などで多くが破壊されている。

建物規模は現状で東西8.05m、南北2.12mであり(柱心々間の距離、以下同様)、方位はN-6°-Eである。柱間は桁行きが南側柱列で西から300・272・230cmであり、梁行きが212cmに復元できる。北側柱列と南側柱列とは対応せず、寸法もばらつきがある。柱穴の平面形は円形を呈しており、前回の調査(31次)と平面図を比較すると今回の調査では一回り規模が大きくなっている。このため多くの柱穴で調査後に崩落が生じたと判断した。31次調査時点での規模は検出面で26~40cm、深さは12~20cmである。これまで調査された建物跡のなかでは小さい部類である。前回調査の所見によると、検出面で柱痕跡は確認されていないが、断面図から確認できる痕跡が3個ある(P365・366・369)。それから判断すると柱径は約12cmと想定される。平面規模とあわせて、非常に小さい。堆積土は浅黄色系の堆積土が中心である。柱痕跡には灰黄褐色シルトが堆積する場合が多い。柱穴底面状況を見ると25.70~25.75m前後の位置に各柱穴底面がそろっていることがわかる。出土遺物は合計33gのかわらけが出土している(31次調査)。方位、出土遺物、柱間寸法から判断すると12世紀代の時期に位置づけられよう。



第2図 31SB3平面・断面実測図

31SB4 西区南端の69-72-70-72グリッドに位置する(図版4)。4間×1間の掘立柱建物跡である。31次調査において調査された遺構であるため当時の記録と今調査の結果を総合して記載する。東西棟で10個の柱穴から構成されるが、現状では重複のため2個が存在しない。この建物跡も住宅基礎により削平を受けている。31SE3・4・5、65SD10と柱穴が直接重複し、31SK58と空間的に重複している。前回の調査によると31SE4・5より新しく、31SE3、65SD10(平面図上は柱穴を優先)より古いと判断されており、31SE4、31SK58との新旧関係は不明である。

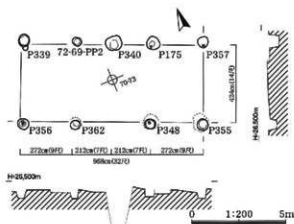
建物規模は東西9.68m、南北4.24mで、建物方位はN-23°-Eである。柱間は桁行きで南北側柱とも西から272・212・212・272cmの9・7・7・9尺に、梁行きは東西とも424cmの14尺に復元した。等間ではないものの規則的な柱配置を採用する。柱穴の平面形は円形を基調とするが現状では一部の柱穴の壁が崩落しており、31次調査当時と規模が異なっている。柱穴の直径は44～58cmでほぼ同規模であるが、P175・340の2個は規模が一回り大きい。あるいは31次調査段階で崩落していたかもしれない。検出面からの深さは40cm～60cm、4個の柱穴から柱痕跡が確認された(P175・382・356・381)。柱痕跡の直径を平・断面図から推測すると16～20cmになる。掘かた堆積土には浅黄色から灰黄褐色の色調を呈するシルト質である。柱痕跡は灰黄色を呈するものが多いが、掘かた堆積土との層界には酸化鉄の集積が認められるものが多い。

柱穴底面の状況は東西・南北列ともに25.60m前後の高さで揃えられており、柱によってばらつきはない。このため、規則的な柱配置とあわせても遺跡の中では比較的整った構造をもつ建物跡であるといえる。

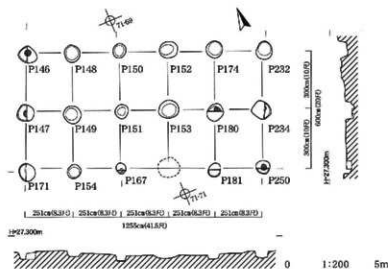
出土遺物は計2,690gのかわらけと漚美片が1点出土している。時期は遺構の特徴および手づくねかわらけの出土から12世紀中葉前後以降に位置づけられよう。

31SB5 西区東部の69-69-72-70グリッドに位置する(図版5・6)。5間×2間の掘立柱建物と復元している。東西棟で総柱の構造をもち、南側柱列の柱穴1個が削平により消失し、計17個の柱穴で構成される。31次調査において調査されていたが今回あらたに9個の柱穴が発見されたものである。建物を構成する柱穴(P153)において65SA3と重複するが新旧関係は、この柱穴がすでに完掘されていたこと、65SA3が認識されていなかったことから今回の調査時点では不明となっている。全体的に現代の住宅により削平を受けており、遺存状態はあまり良くない。

建物規模は東西12.55m、南北6.0mで、方位はN-23°-Eである。柱間は桁行きで251cm(8.3尺)の、梁行きで300cm(10尺)の等間と復元できる。柱穴の平面形は円形から楕円形を呈し、検出面での規模は長軸60～100cm(平



第3図 31SB4平面・断面実測図



第4図 31SB5平面・断面実測図

均90cm)、深さが30~70cmである。検出された柱あたり(検出面上での痕跡)では柱径が約30cmである。堆積土は堀かたが浅黄色を呈する色調のものが多い。抜き取り痕のなかには灰黄色や暗褐色を呈するシルト~粘質土が堆積している。

柱痕跡が一部でも確認できる柱穴にはP149・250・180・234があり、その他の多くは抜き取りと考えられる断面痕跡が残る。柱穴底面の状況を見ると東西列、南北列ともに26.1m前後の標高で統一されているようであるが、東西列の両端の柱穴は若干浅くなる傾向がある。南側に位置する柱穴はいずれも浅くなっているが、柱穴底面レベルはほぼ一定であることから、南側柱列付近は削平が強及んでいることがわかる。

この建物跡の柱穴は規模的には通常のものよりも大きく、中心建物群に準じる規模のものであり、柱穴も深いことからある程度高さのある建物が推定できる。加えて遺跡内では数少ない総柱構造を採用することから、通常の建物跡とは異なった機能・性格が想定される。

遺物はかわらけ1,413g、国産陶器7片が出土している。時期については建物方位、手づくねかわらけの出土から12世紀中葉前後以降が想定される。

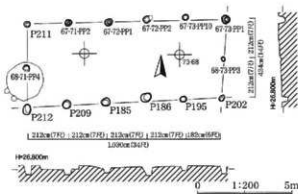
31SB6 西区71-67-73-67グリッドに位置する(図版7)。東西5間×南北2間の東西棟の掘立柱建物である。14個の柱穴より構成される。52SB25・31SK76・28SA1・31SD52と重複し、28SA1よりも古く(68-73-PP3)の柱穴が28SA1により切られていると原図に記載)、31SK76より新しい。52SB25・31SD52とは直接重複していないため新旧関係は不明である。

建物の規模は東西10.3m、南北4.24mであり、方位はN-0°-Eである。柱間は桁行き・梁行きともに212cmの7尺等間に復元できるが、南側柱列の東から1間は6尺であり、1尺短い。桁方向の柱列と梁方向の柱列とはきれいに直交せず、また柱筋の通りが悪くいびつな平面形になる。柱穴の平面形は円形~楕円形を呈しており、不整形なものが多い。検出面での規模は長軸20cm~50cmで、検出面からの深さは20~40cmである。検出できた柱痕跡は8個あり(うち断面図から3個)、柱径は12~14cmである。堆積土は堀かたが浅黄色を呈するシルトが主体であり、柱痕跡には灰黄褐色を呈するものが多い。

柱穴底面の標高は26.60~26.70mの高さにあるものが多いが、東から2列目に柱穴は2個とも他よりも浅く構築されている。また、南側柱列の柱穴底面は北側柱列よりも約10cm低い26.50m前後の標高に揃うものが多い。このため、12世紀の柱穴構築時の地表面は北から南へと傾斜していた可能性が考えられる。

建物全体の形状や各柱穴などをみると整然とした配置ではなく、また柱穴規模も小さい。出土遺物はかわらけが1,590gと中国陶器片が1点出土している。遺構の特徴や手づくねかわらけの出土から12世紀の中葉を前後する時期に位置づけられよう。

41SB1 西区西端の71-63~71-64グリッドに位置する(図版3)。今回の調査では建物の一部の



第5図 31SB6平面・断面実測図

みが調査区内に位置しているが、過去の調査所見によると身舎が3間×2間で、北・東に庇が付設される掘立柱建物跡である。東西棟であり、本来なら20個の柱穴から構成されると復元できるが、現状では5個の柱穴が攪乱によって削平されていると考えられ残存しない。41SD 14、65SD 7、41SK 1やその他の柱穴と重複している。柱穴以外の遺構とは直接切り合いがないため新旧関係は不明である。また、前回調査以前には住宅が立地していたため、その基礎によってかなりの範囲が削平されている。

建物規模は東西7.72m、南北5.36mで、建物方位はN-2°-Eである。柱間は桁行きが西から212・212・212・136cm(7・7・7・4.5尺)、梁行きが北から136・200・200cm(4.5・6.6・6.6尺)と復元でき、桁行きと梁行きで寸法が異なるものの規則的に配置されている。しかし、桁行きと梁行きの柱穴は直交せず斜行することからあまり設計精度は高くはないと想定される。庇の出は4.5尺と身舎間よりもかなり狭い。

柱穴の平面形は円形を呈する。規模は身舎を構成する柱穴で40cm前後、庇を構成する柱穴で30cm前後と一回り小さい。深さは調査を行っていないため不明である。柱あたりは4個の柱穴で確認される。想定される柱径は身舎で約20cm、庇で約12cmである。

二面庇をもつ構造を有する建物跡で、柱間が比較的規則的であるにもかかわらず配置がやや乱れている。庇の出も短いことと合わせてこの遺構の特徴となっている。

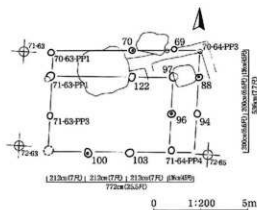
出土遺物は調査を行っていないため出土していない。時期は建物方位や遺構の特徴から12世紀代と位置づけられよう。

41SB 2 西区西側65-69グリッドから65-71グリッドに位置する(図版8)。3間×2間の掘立柱建物跡である。南北棟で10個の柱穴から構成される。西側柱列のP63は現代の溝によって大部分が削平されており、痕跡がわずかに残る程度のものである。全体的に現代の住宅によって削平されており、異存状態は悪いと言える。重複関係は、P31において41SE 1と重複している。現状では41SE 1の方が新しいと判断できそうであるが、調査時には41SE 1がすでに完掘されていたため新旧関係は不明と言わざるを得ない。前報告書においても記載がなく判然としない。

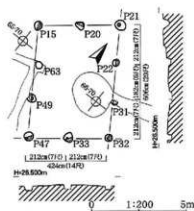
今回検出の10個のうち9個の柱穴において断ち割りを行っているが、半截のため完掘は行っていない。

建物規模は南北6.06m、東西4.24mで、建物方位はN-34°-Wである。柱間は桁行きが北から212・181・212cm(7・6・7尺)で、梁行きが西から212・212cm(7・7尺)と復元した。この寸法は規則的といえるものの、構造線は全体的に歪んでおり、柱筋の通りも悪い。

柱穴の平面形は円形～楕円形を基調とするがいびつなものが多い。平面規模は長径で35～50cm前後であり、各柱穴によって大きさにまとまりはない。5個の柱穴で柱あたりが確認されたが、断ち割りの結果、柱痕跡と判断するに至らなかった。P15からは平面で確認できなかったが、断ち割り後に断



第6図 41SB1平面・断面実測図



第7図 41SB2平面・断面実測図

面で柱痕跡を確認している。それから推定される柱径は18cmである。柱穴の堆積土は灰黄褐色からにぶい黄橙色を呈する色調の粘質土が多い。

本建物跡は規模的にも小さく、個々の柱穴の構造や柱筋などをみるとあまりまとまりがなく、正確に設計された建物とは考えにくい。

柱穴底面の状況を見ると、桁行きでは標高25.75m前後でそろえられているが、梁行きでは東側ほど底面標高が若干高い傾向にある。

遺物はP21からかわかけの細片が2点(11g)が出土しているのみである。図示できるものはない。

時期は建物方位がその他の建物とは大きく異なり西側に大きく傾いていることから異質であるといえる。したがって12世紀の範疇に収まらない可能性もあるが、遺物や柱間寸法からここでは一応12世紀代の建物として捉えておきたい。

【竪穴建物跡】

55SX2 北区80-64-82-65グリッドに位置する(図版9-11)。南北12.5m、東西13.4mの規模を有する竪穴建物である。近世に所属すると想定される55SB4・55SB7・55SB26と55SK1と重複し、これらよりも本遺構が古い。掘り込み面は上部が削平されているため不明であるが、検出は他の遺構と同様の地山面で行っている。柱穴は半截のみにとどめているため完掘していない。55次調査で調査を行った遺構である。

平面形は凸型を呈する部分と東側に方形の部分とが合体した形態をもつ。床面の柱穴を基準にする方位はN-2°-Eである。北側の張り出しは約3.5m、東側の張り出しは約6m×5mである。北側は55SA1と重複あるいは近接するが、その付近は削平や12世紀以前の堆積土があるため不明瞭である。サブトレンチをいれたがこの状況は変わらず、前後関係は不明のままとなった。

北側の張り出しは途中で段差をもち、北壁から1.7mの付近で二つの部分に分けられる。北壁寄りの部分の方が浅い。東側の張り出し部分も凸型の部分より一段高くなっており、構造的に異なっていることが想定される。

床面までの深さは検出面から約80cmである。床面の状況は中央部分がゆるやかにくぼんでいることが観察されたが、今回あらたに床面の一部を断ち割ることによって貼り床と判断した。断ち割りをを行った断面をみると細かな灰褐色粘質土のブロックが混じり遺物も包含しており、堆積土の残存とも思われたが、柱穴がこの層を掘り込んでいることから貼り床と判断した。したがって、貼り床が施されているものの現状では平坦につくられたわけではない。

床面には柱穴が計32個設置されている。今回あらたに1個が追加されたが調査は行っていない。柱穴は総柱状に配置される。これらの柱穴が重複する場合が2箇所確認される(P29と10、P22と23)。平面形はいずれも円形～楕円形を呈する。規模はP1-9-20-21が長径100～110cm、その他が長径50～70cmである。床面からの深さはP1-9-20-21が100～110cmであり、平面規模と同値である。その他は60～80cmと前者よりも浅い。このうち前者の柱穴は中央部に配置され、かつ規模が他よりも大きいことからこの建物の主柱穴を構成する柱穴と考えられる。南北方向の柱間寸法は西から2列目をみると、北から242・182・182・272・182・121cm(8・6・6・9・6・4尺)、東西方向は北から4行目をみると、182・272・182・182・182・182cm(6・9・6・6・6・6尺)と復元でき、6尺を多用する。主柱穴間は9尺と大きい。総長は、南北1,181cm(39尺)、東西1,182cm(39尺)とほとんど等しい値となっている。

柱あたりは多くの柱穴で床面上に確認されるが、P1-15-20-26・27・28の6個のみは検出面、断面においても柱痕跡が確認されない。確認された柱痕跡は断面から計測するP1-9-20-21では30～40cm、

平面では約50cm、その他の柱穴では約20cmとなり、前者は柳之御所遺跡から計測された柱痕跡のなかでもっとも太い。柱穴畑かたの堆積土の多くは地山層である浅黄褐色粘質土～シルト層に類似するが、褐色系等の粘質土ブロックや炭化物を包含する点で異なる。また、柱痕跡との境界に酸化鉄が凝集する傾向が多くこの点では見分けが付きやすい。

柱穴底面の状況は、多くの柱穴ではおおむね標高25.50m前後で統一されるが、主柱穴と想定される4個の柱穴は25.20m前後と深く、逆に北部の張り出し部分の柱穴(P2・3)は26.50m前後と浅い。このような状況はP1・9・20・21が主柱穴を構成することを裏付けるかもしれない。

柱穴の底面状況と、底面の状況、柱穴の重複等を考慮すると、凸型の部分を基本構造とし、北と東に張り出しが付設される構造とすることができる。東部の張り出しは柱穴の新旧関係から後に拡張された可能性がある。上部構造は柱の配置から凸型部中央に配置される4個の大型主柱穴を中心とすることが推定される。

遺物は今年度の調査からは柱穴から少量のかわらけのみが出土しているが、前回の調査では床面を中心にかわらけが多量に出土している。報告書によると総重量は547,940gである。種別はかわらけ(546,570g)、渥美産陶器(198g)、瓦(1,172g)などであるが、かわらけ以外は極端に少ない。

時期は遺構の方位や手づくねかわらけの出土から12世紀中葉前後以降に位置づけられよう。

(2) 土坑(SK)

先に触れたように今回の調査区内で確認した土坑は合計32基ある。そのうち新たに発見したものは14基で、さらに今回一部調査を行ったものは11基ある(図版12)。うち65SK1・65SK4については出土遺物から近代以降の時期と判断したため以下では記述を省略する。なお、65SK3、65SK9、65SK10、65SK17、65SK20については、過去の調査で完掘されていたものの名称が登録されていなかったためあらためて命名を行ったが、詳細な情報は不明であるためここでは記述していない。

65SK2 調査区西側64-69(y-x)グリッドに位置する。調査は半截のみにとどめており完掘は行っていない。平面形は径0.62mの円形を呈し、深さは検出面から0.94mである。堆積土は4層あり、1層には多量の円礫が含まれていた。また最下層に黒褐色で粘性の強い土層が堆積しているのが特徴である。したがって厕所状遺構であることを疑い、この層の理化学分析を行ったが顕著な数の寄生虫などを含んでいなかった(詳細はⅢ-1を参照)。この土坑は厕所状遺構というよりは有機質の生活廃棄物を埋めた廃棄土坑としての性格が想定されよう。出土遺物はかわらけが548gあり、3点(239.6g)を図化している(図版14-2・3・30)。

65SK5 63-68グリッドに位置する。65SK6と重複し、本土坑の方が新しい。西側の一部は調査区外になり、平面形は不明である。今回の調査では検出作業のみを行った。

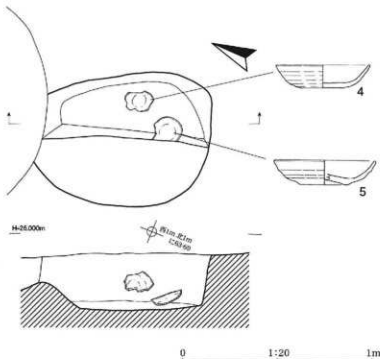
65SK6 63-69グリッドに位置する。65SK5と重複し、本土坑の方が古い。調査は半截のみにとどめており完掘は行っていない。平面形は楕円形を呈し、大きさは0.9×0.7m、検出面からの深さは28cmである。堆積土は4層に分けた。褐色系系の粘質土で自然堆積している状況が確認できる。1と3層には地山ブロックが混入し、2層にはかわらけ片が含まれている。出土遺物はかわらけが295gあり、うち2点(262.2g)を図化している(図版14-4・5)。

65SK 7 67-71グリッドに位置する。平面形は楕円形を呈し、大きさは0.85×0.6mである。今回は検出作業のみ行った。

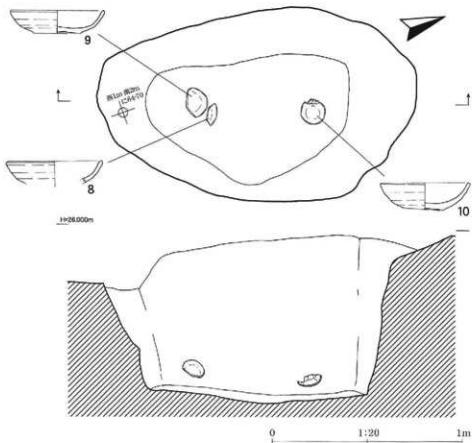
65SK 8 調査区西側64-69 (y-x) グリッドに位置する。遺構との重複はないが、現代の生活道路の地下にあったため上部は削平を受け攪乱されている。調査は半截のみにとどめており完掘は行っていない。平面形はいびつな楕円形を呈し、大きさは1.2×1.0m、検出面からの深さは0.8mである。堆積土は調査中に上層帯(セクションベルト)が崩壊したため記録をとることができなかったが、最下層は緑灰色シルト(10YR 5

／6)で黒褐色粘質土(10YR 3／1)ブロックを多く含む層が堆積していた。また、上層には直径10~20cm前後の円礫が多量に含まれていた。遺物は計1,415g(かわらけ1,307g、国産陶器68g、土甎40g)出土している。そのうち5点(579.6g)を図化した(図版14-6~10)。

65SK11 70-68グリッドに位置する。P218と重複しており、本土坑の方が古い。調査は



第8図 65SK6遺物出土状況実測図



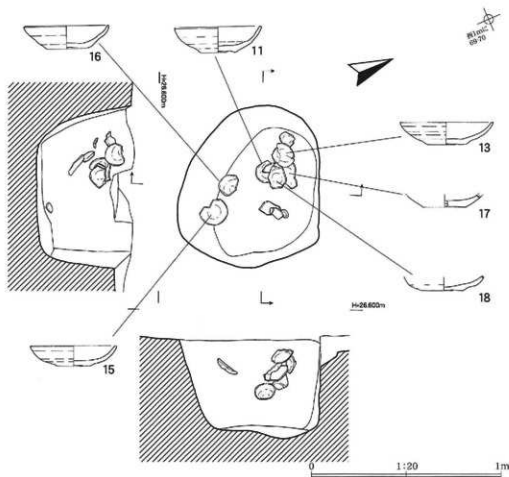
第9図 65SK8遺物出土状況実測図

半載のみにとどめており完掘は行っていない。平面形は長楕円形を呈し、大きさは2.0×0.84m、確認面からの深さ0.4mである。堆積土は1層のみ確認できる。淡黄橙色の粘質土であり、かなりしまりの強い堆積土である。遺物は出土しなかった。形態的には縄文時代の土坑に類似するが判然としない。

65SK12 70-67グリッドに位置する。調査区内では一部のみ確認した。したがって形状、大きさ等は不明である。今回は検出作業のみ行った。

65SK13 63-68グリッドに位置する。西側一部は調査区外に広がっており、全容は不明である。平面形は2本の溝が合流した「Y」字状を呈すると推定される。大きさは、調査区内では長さ1.5m、幅0.4mで、深さは確認面から0.2mである。堆積土は単層で、粘性のない黒褐色粘質土が堆積していた。通常の間形を基調とする土坑とは形態、堆積土など異なっている。付近の遺構の状況からすると溝跡（雨裂溝も含む）の可能性もある。遺物の出土はなかった。

65SK14 69-70グリッドに位置する。北東側に65SK18が接して位置するが重複関係にはない。平面形は東側がやや突出する楕円形を呈し、大きさは0.9×0.8m、確認面からの深さが0.5mである。堆積土は4層に分けた。最上層は遺構の範囲を超えて広がっていたことから整地層の可能性も想定できる。それ以下の層は褐灰色系の自然堆積土で、とくに2層に遺物が多量に含まれていた。出土状況か



第10図 65SK14遺物出土状況実測図

ら、これらの遺物は本土坑がある程度埋没した後に北方向から廃棄されたことがわかる。遺物はかわらけ1,843gが出土し、そのうち12点 (1,183.1g) を図化した (図版14-11~18、32~35)。

65SK15 66-68グリッドに位置する。平面形は径0.4mの円形を呈し、確認面からの深さは0.2mである。本土坑は陶器甕の埋設用堀かたと想定できる。甕の内部には絡まりのない黒褐色粘質土が堆積していた。出土遺物は埋設用の陶器甕 (近代以降) のみである。

65SK16 65-67グリッドに位置する。調査は半載のみにとどめており完掘は行っていない。平面形は径0.8mの円形を呈し、確認面からの深さは0.16mである。堆積土は2層に分けた。深さがなく堆積の状況は確認できないが、地山に似た褐色系のシルト層が堆積している。出土遺物はなく、したがって時期も不明である。

65SK18 69-70グリッドに位置する。65SK14と隣接しているが重複関係はない。調査は半載のみにとどめており完掘は行っていない。平面形は楕円形を呈し、大きさは1.9×1.5m、確認面からの深さは0.6mである。井戸跡の可能性を疑い底面をさらに掘り下げたが地山が続くのみであり、単なる土坑と判断した。堆積土は3層に分けた。全体的に径10~20cm程度の円礫が包含されている。とくに2層には集中していたが、規則的に並んでいるわけではない。廃棄された礫群かもしれない。遺物はかわらけを中心に882g出土している (かわらけ566g、国産陶器310g、中国産陶器7g)。そのうちかわらけ1点70g、国産陶器2点310g、中国産陶器1点7gの計4点を図化した (図版14-29、15-44、16-67・68)。

65SK19 69-67グリッドに位置する。攪乱により一部壊されている。調査は半載のみにとどめており完掘は行っていない。平面形は不整形な楕円形を呈しており、大きさは1.2×1.1m、確認面からの深さは0.46mである。堆積土は6層に分けた。1層は方形の堀込みのように見えるが攪乱の可能性がある。堆積土上位層には褐色の粘質土が、中位層以下には地山系の淡黄色シルトが自然堆積している。遺物はかわらけ244gが出土しているが、細片のため図化していない。

65SK21 71-73グリッドに位置する。南端は調査区外に広がっており、全容は不明である。調査は一部サブレンチを入れたのみであり完掘は行っていない。平面形は調査区内における形状を見る限り長楕円形を呈すると推定される。大きさは調査区内で0.98×0.6m、深さが確認面より0.4mである。堆積土は2層に分けたが草層に近い堆積状況である。遺物はかわらけ120g出土しているが、細片のため図化していない。

(3) 溝跡 (SD)

今回の調査区 (西区) 内で確認された溝跡は21条あり、あらたに発見されたものは13条ある。以下ではこれらを中心に説明するが、うち8条についてはこれまでの調査で完掘されていたが名称が付されていなかった溝 (65SD 3、7、8、9、10、15、16、17) であり、今回命名したのみであるため記述を省略する。また、既知の溝跡8条のうち4条については今回一部調査を行っている。したがって今回分の溝跡5条と既知調査分の4条合わせて9条について以下では説明を行う (図版13・付図)。な

お31次調査で確認された31SD35、36、38、40、41については位置と直線的な構造・住宅地図との合成から調査前の住宅の基礎と判断した。65SD 6、7、12、13は欠番とする。

65SD 1 63-67-69グリッドに位置する。やや東に降っているがほぼ南北方向にゆるやかに蛇行しながら延びている。両端とも調査区外に位置するため本来の長さは不明であるが、調査区内では直線にして長さ14.5m、幅が0.5-0.7mであり、深さが確認面から深いところでも0.1mと非常に浅い。堆積土は基本的には単層で灰黄褐色粘質土が堆積している。地点によってはやや黄味の強いにおい黄褐色を呈することもある。遺物はかわらけを中心に1,084g（かわらけ705g、国産陶器384g、白磁片6g、土壘19g、鉄製品2g）出土し、そのうち国産陶器4点（384g）、白磁1点（6g）を図化した（図版15-52-54、65、71）。

65SD 2 64-68グリッドに位置する。北西から南東方向に3.7mにわたり検出した。西側は65SD 1と重複し、本遺構のほうが古い。東側は現代の生活道路によって破壊されている。幅は0.4m前後、深さは確認面より0.1m程度である。単純な層のため断面図は作成していないが、堆積土は65SD1と同様であった。遺物はかわらけが66g出土しているが、近代以降の陶器も出土している。したがって、この溝跡の時期は近代以降と推定できる。

65SD 4 63-69グリッドに位置する。北西から南東方向2.8mにわたり検出した。西端は調査区外へ延びており、東端は現代の生活道路によって破壊されている。65SD 4と重複し、本遺構の方が古い。幅は0.3m、深さが0.1mである。65SD 2と同様に断面図は作成していないが、65SD 1と同様の堆積土である。遺物は出土していない。

65SD11 68-67、69-68、70-68グリッドに位置する。北西から南東方向に11mにわたり検出した。北端は調査区外へ延びるが、南端は水道管埋設用の溝によって破壊されている。31SD54、P304と重複し、前者よりは新しく、後者より古い。堆積土は3層に分けられる。下層は地山起源と想定される初期堆積土があり、中層に黒褐色粘質土が、上層に褐灰色粘質土が堆積する。遺物はかわらけを中心に1,221g出土した（かわらけ1,084g、国産陶器85g、中国陶磁器13g、鉄製品36g）。そのうち国産陶器3点（85g）を図化した（図版15-40・41・59）。

65SD14 63-67グリッドに位置する。南西から北東方向に延びる溝跡である。南端は一端とぎれてはいるが、北端は調査区外へつづく。65SD 1と重複するが、本遺構の方が新しい。幅は最大で1.5m、深さは0.2mである。堆積土は単層で褐灰色の粘質土である。遺物はかわらけ134gが出土している。

31SD52 72-67-68グリッドに位置する。南西から北東方向へ延びる溝跡である。長さ4.6mにわたり検出した。31次調査によって発見された溝跡であるが、今回一部を掘り下げた。幅は0.35m前後と一定しており、確認面からの深さ0.1mと非常に浅い。跡跡を疑ったが、明確な痕跡は確認できなかった。堆積土は単層で、灰白色粘質土が堆積していた。他の溝跡の堆積土とは異なるものである。遺物は調査したのが一部のため出土しなかった。

31SD54 69-68-70-68グリッドに位置する。すでに一部調査されていたが、今回あらためて調査した。北西から南東方向にゆるやかに屈曲しながら延びる溝跡である。西端を65SD11と、東端で31SD

53と重複する。前者より古いが後者との新旧関係は不明である。堆積土は褐灰色粘質土の単層である。

遺物はかわらけ、国産陶器が中心に815g出土し、そのうちかわらけ2点(158.2g)、国産陶器4点(146g)を図化した(図版14-1・21、15-36-39)。

41SD14 63-64-71グリッドに位置する。北東から南西方向にはほぼ直線的に延びる。調査区内での長さは3.5m、幅0.2m、深さ0.2mである。堆積土は褐灰色粘質土の単層である。

直線的で堀跡の可能性を想定したが明確には出来なかった。遺物はかわらけ31g出土している。

41SD15 64-71グリッドに位置する。長さ1.6m、幅0.4mの大きさで確認した。すでに41次調査で確認されていたが、今回の調査結果から南側を風倒木と判断し、残りを41SD15溝跡とした。断面図は作成していないが、堆積土は41SD14と同様である。遺物はかわらけ294g出土している。

(4) 堀 跡

調査区内(西区)で確認した堀跡は4基である。このうち今回新たに発見されたものは3基、すでに調査されたもの1基(28SA1)である。以下では、今回発見の堀跡3基を中心に説明する(付図・図版13)。

65SA1 67-70-72-72グリッドに位置する。北西から南東方向の堀跡として検出した。すでに一部が調査されていたが原因、報告書等には記載されていなかった。今回あらためて一部を調査したところ、攪乱として排除すべき痕跡は確認できず、むしろ堀跡として登録すべきと判断した。P170、P173、28SE15と重複するが、すでにこれらの遺構は完掘されていたため新旧関係は不明である。ただし、これらの遺構が先に調査されていたことから、本堀跡はこれらの遺構よりも古いかもしれない。西端は現代の住宅基礎によって破壊され、東端は途切れながらも調査区外へ延びるようである。北側3.8mのところ65SA3がほぼ平行して位置する。調査区内で確認した長さは26m、幅は上部で0.4m、下部で0.2mである。深さは確認面から0.2mである。堀かた断面は上部が漏斗状に広がっているため、調査で一部掘りすぎたところがある。堆積土は単層で黒褐色粘質土が主体であり、地山起源である淡黄色ブロックを含んでいる。板状の痕跡は平面、断面ともに確認できなかったが、堀かた形状から板堀の可能性が高い。なお今回の調査では出土遺物はなかった。

65SA2 69-69-67-70グリッドに位置する。東西方向の堀跡として検出した。すでに一部が調査されていたが原因、報告書等には記載されていなかった。今回あらためて一部を調査したところ、65SD1と同様に攪乱として排除すべき痕跡は確認できず、むしろ堀跡として登録すべきものと判断した。

31SB5、28SA1と重複しているが、これらの遺構はすでに完掘されていたことや本堀跡が認識されていなかったと予想されるため新旧関係は不明である。

西端は69-69グリッド内で途切れているが、削平のためであろう。東端は28SA1と重複するが、28SA1を越えた東側では検出できなかった。調査区内での長さは18.2m、0.25m、深さは0.2mである。断面形は65SA1と同様に上部が広い漏斗状を呈している。堆積土は褐灰色の粘質土や淡黄色粘質土(地山系)が堆積している。一部を調査したに過ぎないが、平面に板状の痕跡が確認されたことから板堀と判断している。なお今回の調査では出土遺物はなかった。

65SA3 68-69から71-71グリッドに位置する。北西から南東方向に延びる堀跡として検出した。他の堀跡と同様にすでに一部が調査されていたが原因、報告書等には記載されていなかったため、今回あらためて調査をしたところ、攪乱として排除すべき痕跡は確認できず、むしろ堀跡として登録すべきものと判断した。遺構との重複はないが、一部攪乱により大きく破壊されている。西端はこの攪乱で、東端は削平のためか途切れている。調査区内で確認できる長さは20.5m、幅が0.18m、深さ0.15mである。板の痕跡は幅20～30cm、厚さ5cm程で、褐灰色～灰黄褐色を呈する粘質土として観察される。堀かたの堆積土は地山系の淡黄色シルトである。平面および断面で板状の痕跡が確認できたことから、板葺と推定される。なお、今回の調査では遺物の出土はなかった。

(5) 柱穴 (小穴)

今回調査区内で確認された柱穴は379個である。これらはすでに確認されていたものや調査された柱穴がほとんどであるがいくつかの柱穴はあらたに発見されたものである。新たに発見した柱穴を使用して建物を復元できたものは1棟のみであり、その他多くの柱穴については建物復元にまでは至らなかった。

調査を行った柱穴は建物以外で17個である。とくに底面の標高の情報を得るために調査を行った。これらの情報は今後とくに削平度を検討する際に貴重なデータとなるものである。

4. 出土遺物

(1) 数量

68次調査から出土した遺物はコンテナにして2箱、重量にして23.13kg出土した。大半が12世紀代の奥州藤原氏の時代に該当する遺物である。今回の調査は再調査であることや今回新たに発見された遺構は一部しか調査していないため、面積の割に遺物量が少なくなっている。したがって、今年度の出土遺物はこの調査範囲内から出土した遺物のすべてではなく、これと既調査分をあわせたものが出土量全体となる。既調査分についてはここでは含めていない。以下では、種別ごとに遺物の概要を記述する。

(2) かわらけ

かわらけは3,139片(14,590g)出土している。遺構出土遺物を中心に35点を図化した。

1～20、29・30は製作時にロクロを使用したもので、いわゆるロクロかわらけと呼ばれるものである。21～28、31～35は手づくね成形のいわゆる手づくねかわらけである。

1は31SD54出土で、器厚、口縁端部の成形など比較厚いつくりである。2・3はSK2出土で、2は器高が4.8cmと高く、底径も4.8cmと小さく図示したかわらけのなかでは占相の特徴を示している。3は底部破片であるが、厚さが2cm以上あるのが特徴的である。4・5はSK6の出土である。いずれも口径が15～16cmと大きい特徴がある。4は底部の突出度が少なく体部から底部にかけての段差がない形態を呈する。6～10はSK8の出土である。6は底部が比較的多く突出し、体部と底部とが明瞭に区別される形態をもつ。器高も若干高く古い様相を示す。7・8・9は同じような形態を呈し、計測値も同様の傾向を示す。10は形態的にやや異なるが計測値的には同じような値である。11～18はSK14出土のかわらけである。形態的には14・16のように口縁部が内彎傾向にあるものがある。器高は4cm前後のものが多いが、12・15のように3.2cmとかなり低いものもある。19・20は55SX2内の柱穴か

ら出土したかわらけである。P21から出土したものは口径14.6cm、底径9cmと大きい。

21～28は手づくねかわらけの大皿である。21・22はそのなかでも小さい部類であるが、小皿とは区別される。27・28のように明瞭な2段ナデが認められるものは少なく、1段ナデのものが多い。全体的に摩滅しており、調整痕が明瞭に観察しにくい。

29・30はロクロかわらけの小皿、31～35は手づくねかわらけの小皿である。形態的にはいくつかのバリエーションがあるがここでは細かい分類を行っていない。

(3) 国産陶器

国産陶器は遺構内外を含めて32点が出土し、すべて図化している。

36～51は常滑窯産の陶器片である。39は片口鉢の、46は甕の口縁部片であるが、それ以外は甕の体部片である。36～39は31SD54から、40～41は65SD11から42・43は65SK4から、44はSK18から、45はP332からの出土である。46は31SB5の柱穴P147から出土したもので、この建物の時期決定に重要な遺物となろう。47～51については遺構外からの出土であり、グリッド別に取り上げているものである。多くは細片のため詳細は不明である。

52～64は瀬美窯産の陶器である。すべて細片であるが図化した。52～54は65SD1から、55・56は65SD7から、57は65SK8から、58は65SD19から、59は65SD11からの出土である。60～64は遺構外からの出土である。

65～67は須恵器系陶器片である。65は65SD1からの、66はSK4（近代）からの出土である。外面には細かなタタキが施されている。67は壺口縁部片である。珠洲産の可能性もあるが断定できなかった。SK18からの出土である。

(4) 中国産陶磁器

今回の調査から磁器が3点、陶器が2点出土している。

磁器は白磁2点、青白磁1点が出土している。70・71は白磁壺類の胴部破片である。70は31SD54からの出土で、黄色味があり、光沢のある釉が施されている。内外面ともに釉が施されているが、釉潤などから大宰府分類のⅡ類に相当すると考えられる。71は61SD1からの出土である。色調は暗緑色系を呈し、内面にも釉が掛かる。大宰府分類のⅢ類に属すると考えられる。72は青白磁碗の底部破片である。高台のみ残存する。表面は二次焼成のためか焼けただけである。P131からの出土である。

68・69は中国産陶器の破片である。69は細片のため器種が不明であるが、灰褐色の釉がかけられている。70は褐釉陶器の四耳壺片である。内外面ともに褐釉が施されている。

(5) 木製品

製品としては1点(73)が出土した。片面には長軸側に斜行して細かな線の痕跡が残存している。何らかの使用痕と考えられるが詳細は不明である。柱穴からの出土であるため礎板の可能性も考えたが、出土位置が底面ではないことから他の用途に使われたと考えられる。柱抜き取りの後に入ったものかもしれない。材質はクリである(Ⅲ-3)。

Ⅲ 自然化学分析

1 土 壤 分 析

は じ め に

柳之御所遺跡は、平泉町の北上川西岸の標高約25mに位置し、「吾妻鏡」に書かれた「平泉館」ではないかと考えられている。第65次調査ではトイレ遺構とみられる土坑(65SK2)が検出された。ここではSK2土坑内より採取された堆積物の花粉、寄生虫卵、大型植物化石(種実類)の検討を行い、トイレ遺構の可能性について検討した。なお、土坑の形状と試料採取層準等については関係する項を参照されたい。

(1) 試料と方法

分析試料は、SK2土坑内より採取された試料を用いた。堆積物は、オリーブ黒色に灰色よりのオリーブ黒色が混じる有機質泥質細粒砂ないし有機質砂質泥よりなる。以下に分析方法を示す。

1) 花粉分析と寄生虫卵分析

花粉化石の抽出は、試料1.5gを秤量し体積を測定後、10%KOH(湯煎約15分)処理後に、傾斜法により粗粒砂を取り除き、48%HF(約15分)、重液分離(比重2.15の臭化亜鉛)、アセトリシス処理(濃硫酸1:無水酢酸9の混液で湯煎5分)の順に処理を行った。プレパラート作製は、残渣を適量に希釈しタッチミキサーで十分攪拌後、マイクロピペットで取り重量を測定(感量0.1mg)しグリセリンで封入した。また、堆積物の性質を調べるために、花粉分析層準において有機物量、泥分(シルト以下の細粒成分)、砂分量、及び生業の指標となる微粒炭量について調査した。微粒炭量は、デジタルカメラでプレパラートの顕微鏡画像を取り込み、画像解析ソフトのImageJで微粒炭の積算面積を測定した。

寄生虫卵は、花粉の同定、計数と平行して行い、それとは別に2%KOH、HFを短時間処理した試料についても検討した。

2) 大型植物化石分析(種実類)

試料約150ccを0.25mm目の篩で水洗し、残渣から双眼実体顕微鏡下で同定可能な部位を選別し、分類群を同定、部位・出土状況別に計数した。産出した種実はガラス瓶に60%アルコール液浸標本として保管されている。

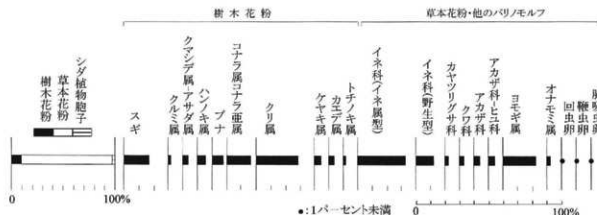
(2) 結 果

1) 花粉分析と寄生虫卵分析

出現した分類群のリストとその個数を第5表に、主要花粉分布図を第11図に示す。出現率は、樹木は樹木花粉数、草本孢子は花粉孢子数を基数として百分率で算出した。図表中で複数の分類群をハイフンで結んだのは、分類群間の区別が明確でないものである。また、図版に示したAFR.MY番号は単体標本の番号を示し、これら標本は古代の森研究舎に保管してある。

分析試料の堆積物の特性は、砂が42%、シルト以下の細粒細分が40%、有機物が18%である。

花粉化石群は、草本花粉が88%と大半を占め、樹木花粉は10%と低率である。樹木ではクリ属やコ



第11図 SK2土坑内堆積物の主要花粉分布図

(出現率は樹木は樹木花粉数、草本・他のパルノモルフは花粉粒数を基数として百分率で算出した)

ナラ亜属、スギが比較的多く出現し、ブナやハンノキ属、ケヤキ属、カエデ属、トチノキ属、クマシデ属-アサダ属などを伴う。草本ではイネ科（イネ属型）が33%と高率に出現し、イネ科（野生型）やゾモギ属が比較的多く産出し、アカザ科、アカザ科-ヒユ科、クワ科、オナモミ属、ペニバナ属などを伴う。微粒炭は1504 $\mu\text{m}^2/\text{cm}^2$ と夥しい量が含まれていた。

寄生虫卵は、回虫卵と肺吸虫卵が僅かに検出された。1 cm^2 あたりの個数は回虫卵が245個、肺吸虫卵が175個、肺吸虫卵が35個である。

2) 大型植物化石分析

同定結果を第6表に示す。破損種実はイネ類、ヒユ属種子、エゴマ果皮をやや多く出土し、ほかにメロン仲間種子、アワ類、キビ類、エゴノキ内果皮を検出した。炭化種実はイネ胚乳とキブシ種子を1個ずつ出土した。完形種実はスゲ属、シロザ近似種、ヒユ属、ホタルイ属、キブシをやや多く、エゴマ、ナス属、ナデシコ科、イボクサ、キジムシロ属など、及びコナラ属、フジ属の芽も出土している。以下に特筆すべき種実の形態記載を行う。

アワ：類は黄褐色で幅の広い紡錘形、表面には縦に筋があり、波状のしわがある。

キビ：類は灰褐色でやや長い紡錘形、表面はたてに筋があるが平滑で光沢がある。

ヒユ属：完形種子は円形で扁平、一端に髻を横から見たような形のへそがあり、表面は黒色で細かいしわがあるか、平滑で強い光沢がある。破損種子は潰されて裂けた状態の種子である。種子は食用や薬用とされる。

シロザ近似種：完形種子は円形で扁平、一端にへこんだへそがあり、へそから種子の中心に向かってやや長い筋がある。表面は黒色で光沢がなく平滑である。種子はかつて食用のほか解熱、駆虫剤など薬用に用いられていたとされるが、本遺跡では破損種子は確認されていない。

エゴマ：完形種子はほぼ球形で基部がやや突出し、一文字状のへそがあり、表面は比較的大きな網目があり光沢がない褐色である。

メロン仲間：完形であれば水滴形で基部は尖り、表面は黄褐色で縦方向に揃った網目がある。キュウリ仲間は網目の縦横比が3よりも大きく、メロン仲間は2よりも小さく正方形寄りである。出土した破片は完熟した種子である。

第5表 柳之御所遺跡のSK2土坑より産出した花粉化石の一覧表

	和名	学名	SK2
樹木			
	トウヒ属	<i>Picea</i>	1
	マツ属複雑管束亜属	<i>Pinus</i> subgen. <i>Diploxylon</i>	1
	マツ属(不明)	<i>Pinus</i> (Unknown)	2
	スギ	<i>Cryptomeria japonica</i> (L. fil.) D. Don	18
	イチイ科-ヒノキ科-イヌガヤ科	Taxaceae - Cupressaceae - Cephalotaxaceae	
	ヒノキ型	<i>Chamaecyparis</i> type	1
	サウダグミ属	<i>Pterocarya</i>	1
	クルミ属	<i>Juglans</i>	2
	クマシタ属-アサダ属	<i>Carpinus</i> - <i>Ostrya</i>	4
	カバノキ属	<i>Betula</i>	1
	ハンノキ属	<i>Alnus</i>	6
	ブナ	<i>Fagus crenata</i> Blume	8
	コナラ属コナラ亜属	<i>Quercus</i> subgen. <i>Lepidobalanus</i>	17
	クリ属	<i>Castanea</i>	30
	ケヤキ属	<i>Zelkova</i>	5
	カエデ属	<i>Acer</i>	4
	トチノキ属	<i>Aesculus</i>	2
	ウコギ科	Araliaceae	1
草本			
	オモダカ属	<i>Sagittaria</i>	1
	イネ科(イネ属型)	Gramineae (Oryza type)	345
	イネ科(野生型)	Gramineae (Wild type)	129
	カヤツリグサ科	Cyperaceae	26
	クワ科	Moraceae	35
	クワ科-イラクサ科	Moraceae - Urticaceae	2
	イヌナギ属	<i>Persicaria</i>	2
	アカサ科	Chenopodiaceae	45
	アカザ科-ヒユ科	Chenopodiaceae - Amaranthaceae	49
	ナデシコ科	Caryophyllaceae	4
	カラマツソウ属	<i>Thalictrum</i>	1
	他のキンポウゲ科	other Ranunculaceae	1
	アブラナ科	Cruciferae	2
	バラ科	Rosaceae	2
	セリ科	Umbelliferae	2
	オオバコ属	<i>Plantago</i>	2
	ベニバナ属	<i>Carthamus</i>	2
	ヨモギ属	<i>Artemisia</i>	237
	オナモミ属	<i>Xanthium</i>	27
	他のキク亜科	other Tubuliflorae	5
	タンポポギ亜科	Liguliflorae	1
シダ植物			
	ゼンマイ属	<i>Osmunda</i>	4
	単条型胞子	Monoletic spore	6
	三条型胞子	Trilete spore	18
他のバリノモルフ			
	回虫卵	<i>Ascaris</i>	7
	鞭虫卵	<i>Trichuris</i>	5
	肺吸虫卵	<i>Paragonium</i>	1
樹木花粉		Arboreal pollen	104
草本花粉		Nonarboreal pollen	920
シダ植物胞子		Fern spores	28
花粉・胞子数		Pollen and Spores	1052
不明花粉		Unknown pollen	8
樹木花粉量(粒/ml)			3644
微粒炭量(ml/cdl)			1504

第6表 SK2土坑より出土した大型植物化石

	分類群	部位		
破損種実	イネ	<i>Oryza sativa</i> L.	穎破片	51
	ヒユ属	<i>Amaranthus</i>	破損種子	32
	エゴマ	<i>Perilla frutescens</i> (Linn.) Britton var. <i>japonica</i> (Hassk.) Hara	果皮破片	16
	メロン仲間	<i>Cucumis melo</i> L.	種子破片	3
	アワ	<i>Setaria italica</i> Beauv.	穎片	2
	キビ	<i>Panicum miliaceum</i> L.	穎片	1
	エゴノキ	<i>Styrax japonica</i> Sieb. et Zucc.	内果皮破片	1
炭化種実	キブシ	<i>Stachyurus praecox</i> Sieb. et Zucc.	炭化種子	1
	イネ	<i>Oryza sativa</i> L.	炭化胚乳	1
完形種実				
	スゲ属	<i>Carex</i>	果実	34
	シロザ近似種	<i>Chenopodium cf. album</i> L.	種子	16
	ホタルイ属	<i>Scirpus</i>	果実	14
	ヒユ属	<i>Amaranthus</i>	種子	12
	キブシ	<i>Stachyurus praecox</i> Sieb. et Zucc.	種子	11
	エゴマ	<i>Perilla frutescens</i> (Linn.) Britton var. <i>japonica</i> (Hassk.) Hara	果実	7
	ナス属	<i>Solanum</i>	種子	7
	ナデシコ科	Caryophyllaceae	種子	3
	キイチゴ属	<i>Rubus</i>	核	2
	ワジ属	<i>Wisteria</i>	芽	2
	イボクサ	<i>Aneilema keisak</i> Hassk.	種子	2
	サナエタテ近似種	<i>Polygonum cf. scabrum</i> Moench	果実	2
	ギシギシ属	<i>Rumex</i>	果実	2
	キジムシロ属	<i>Potentilla</i>	核	2
	コナラ属	<i>Quercus</i>	芽	1
	サンショウ	<i>Zanthoxylum piperitum</i> (Linn.) DC.	内果皮	1
	カナムグラ	<i>Humulus scandens</i> (Lour.) Merrill	果実	1
	イヌタテ近似種	<i>Polygonum cf. longiseta</i> (De Bruyn) Kitag.	果実	1
	オヤブヅラミ	<i>Torilis scabra</i> (Thunb.) DC.	果実	1
シロネ属	<i>Lycopus</i>	果実	1	

(3) 考 察

SK2土坑は、土坑内堆積物から出現した植物化石群や寄生虫卵に基づくと、生活ゴミが堆積した状況を呈しトイレ遺構に限定するほどの状況証拠はない。すなわち、回虫卵と鞭虫卵、肺吸虫卵が検出されたが、1ccあたり数百個以下と少ない。金原(2004)は堆積物1cc中に1000個以上の密度の寄生虫卵が得られると糞便堆積物と判断することができるとした。しかし、夥しい量の寄生虫卵が検出される場合は疑う余地はないであろうが、トイレを利用しているヒトの状況等により寄生虫卵量が大きく変動することは容易に想定され、単純に寄生虫卵量で糞便堆積物を特定することはできないであろう。一方、出土した破損種子のうちヒユ属やメロン仲間を経口利用が推測される部位であるが、イネ類、アワ、キビ、エゴマ、エゴノキは直接口に入れる部位ではない。また、完形種実で多いのはスゲ属、ホタルイ属、キブシなどの非有用植物であり、木本の芽なども出土している。スゲ属やホタルイ

属は抽水植物で、イネ属型花粉も多量に含まれることから、イネの収穫時に混じって採取されたことが想定される。また、ヒユ属種子は食用、解毒剤のほかにも目薬として用いるとされ、排泄物としての廃棄のみとは限らない。破損種実の多くが非食用部位であること、利用しない種実が多く出土していることから、周辺に生育している植物から供給された種実と生活ゴミがともに堆積したと考えられる。また、花粉ではイネ属型以外では目だって食用植物の花粉が多いわけでない。つまり、SK2土坑には生活ゴミと周辺に生育する植物の各部位、及び糞便が混入している状況と推定され、トイレ遺構に限定する状況証拠はない。なお、回虫卵と鞭虫卵はヒトが手指や野菜などに付着した幼虫包蔵卵を経口摂取すると感染し、肺吸虫卵は淡水産のカニ類の生食により感染する(吉田,1996)。また、SK2土坑が埋積された頃には、クリやナラ類を主とし、ブナ、クマシダ属-アサダ属、ハンノキ属、ケヤキ属、カエデ属、クルミ属、トチノキ属、キブシ、エゴノキなどの落葉広葉樹に針葉樹のスギを混じえた植生が広がっていたと推定される。

(古代の森研究舎 吉川昌伸・吉川純子)

引用文献

- 金原正明.2004. 寄生虫卵分析.「環境考古学ハンドブック」(安田喜憲編),419-429. 朝倉書店.
吉田幸雄.1996. 図説人体寄生虫学.293 p. 南山堂.

2 種実同定

(1) 試料と方法

柳之御所遺跡は平安時代12世紀後半を中心とする藤原氏に関連する史跡である。本遺跡の第65次発掘調査において、大型の堅穴建物跡（55SX 2）の柱穴、および総柱建物跡（31SB 5）の柱穴から検出された種実の同定を行った。なお、試料のうち55SX 2のP10とP16、31SB 5のP181からは同定可能な植物部位を出土しなかった。

(2) 同定結果

同定結果を第7表に示す。55SX 2の柱穴からは、炭化種実はヒエが1個のみ、乾燥種実はサナエタデ近似種、ヒユ属、ヒユ類破片をやや多く出土し、イネ、スズメノヒユ属、イネ科、スゲ属、ヤナギタデを出土した。31SB 5の柱穴からは、炭化種実はイネとマメ科を出土し、乾燥種実はオオケタデ、イヌタデ近似種をやや多く出土し、タラノキ、イネ、ヒユ、スズメノヒユ属、イネ科、スゲ属、ギシギ

第7表 柳之御所遺跡建物跡柱穴より出土した種実

大型堅穴建物跡（55SX 2）柱穴		出土部位	P 9	P20	P21	P29
分類群						
炭化種実						
ヒエ	<i>Echinochloa utilis</i> Ohwi et Yabuno	炭化種子		1		
乾燥種実						
イネ	<i>Oryza sativa</i> L.	穎破片		1		
ヒエ	<i>Echinochloa utilis</i> Ohwi et Yabuno	穎		5	1	
スズメノヒユ属	<i>Paspalum</i>	穎		1		1
イネ科	Gramineae	果実			1	
スゲ属	<i>Carex</i>	果実	1			
サナエタデ近似種	<i>Polygonum cf. scabrum</i> Moench	果実	8	1	1	4
ヤナギタデ	<i>P. hydropiper</i> Linn.	果実				2
ヒユ属	<i>Amaranthus</i>	破損種子	8			

総柱建物跡（31SB 5）柱穴

分類群		出土部位	P146	P147	P167	P171	P180	P234	P250
炭化種実									
イネ	<i>Oryza sativa</i> L.	炭化胚乳破片		2	1	1			
マメ科	Leguminosae	炭化種子		1					
乾燥種実									
タラノキ	<i>Aralia elata</i> (Miq.) Seemann	内果皮						1	
イネ	<i>Oryza sativa</i> L.	穎破片							
ヒエ	<i>Echinochloa utilis</i> Ohwi et Yabuno	穎							
スズメノヒユ属	<i>Paspalum</i>	穎							1
イネ科	Gramineae	果実	1				1	2	
スゲ属	<i>Carex</i>	果実							
ギシギシ属	<i>Rumex</i>	果実					1		
オオケタデ	<i>Polygonum orientale</i> L.	果実			1		1	2	
ヤナギタデ	<i>P. hydropiper</i> Linn.	果実							
イヌタデ近似種	<i>P. cf. longisetum</i> De Bruyn	果実	2						4
ヒユ属	<i>Amaranthus</i>	破損種子					3		
オヤブジラミ	<i>Torilis scabra</i> (Thunb.) DC.	果実		1					

シ、ヤナギタデ、ヒユ属、オヤブジラミを出土した。以下に特筆すべき種実の形態記載をおこなう。

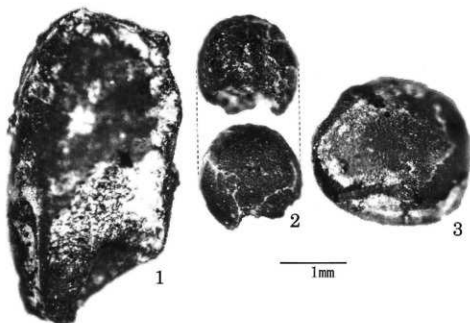
ヒユ：炭化種子はやや角張った球形で基部に小さい楕円形の胚がある。

マメ科：種子は円形で扁平、径4.9mmで大変薄いため栽培種ではなく自生のマメである。

(3) 考 察

炭化種実は、竪穴建物跡(55SX2)からはヒユを、総柱建物跡(31SB5)からはイネと野生とみられるマメ科を出土した。平安時代の平泉ではイネと雑穀のヒユを利用していたと考えられるが、出土個数が極端に少ないためそれぞれの利用頻度などは不明である。マメ科種子は栽培種ではないため収穫時に混入したものであろう。一方で、試料からは乾燥種実も出土しているがこれらの保存は極めて良く、平安という時代から推測すると炭化していない種実が保存良く残っている可能性は低い。また、江戸初期に帰化したとされるオオケタデも産出していることから、乾燥種実は後世の混入種実である可能性が高い。こうした状況であることから乾燥種実についての考察は控える。

(古代の森研究舎 吉川純子)



第12図 柱穴より出土した炭化種実

1. イネ、炭化胚乳(P147) 2. ヒユ、炭化種子(P20) 3. マメ科、炭化種子(P147)

3 樹種同定

(1) 試料と方法

柳之御所遺跡は平安時代12世紀を中心とする藤原氏に関連する史跡である。本遺跡の第65次発掘調査では大型の竪穴建物跡(55SX2)の柱穴から礎板とみられる板片を検出した。この試料から剃刀で横断面、放射断面、接線断面の3方向の切片を採取し、封入剤ガムクロラルにてプレパラートを作成し、生物顕微鏡で観察・同定を行った。

(2) 同定結果と考察

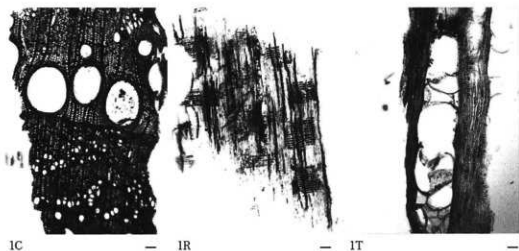
建物跡55SX2のP23柱穴から出土した礎板はクリ(*Castanea crenata* Sieb. et Zucc.)であった。クリ材の木材解剖学的特徴は、年輪はじめに大きな道管が2~3列並び、その後徐々に径を減じながら小さい管孔が火炎状に配列する環孔材で、放射組織は同性で単列、道管の穿孔板は単一で道管内にチロースが充填することが多い。

クリは耐久性があり、古来より建物の柱や根太、礎板などの建築材や土木材として利用されてきた。岩手県内の平安時代においては、水沢市胆沢城跡や矢巾町徳丹城跡といった大型建物で構造部材にクリが頻繁に利用されており(山田1993)、大型建物に適したクリの太い材が調達しやすい状況にあったと考えられる。

(古代の森研究会 吉川純子)

引用文献

山田昌久, 1993. 日本列島における木質遺物出土遺跡文献集成—用材から見た人間・植物関係史. 植生史研究特別第1号. 植生史研究会, 1-244.



第13図 柳御所遺跡より出土した礎板の顕微鏡写真

1. クリ C:横断面 R:放射断面 T:接線断面 スケールは0.1mm

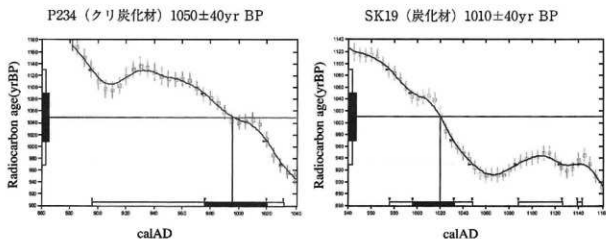
4 放射性炭素年代測定

放射性炭素年代測定は、P234と65SK19遺構より採取された2試料について行った。測定試料は、P234が炭化材(クリ)、65SK19が炭化材(散孔材)である。測定は地球科学研究所を通じてベータアナリティック社に依頼し、AMS法(前処理は酸-アルカリ-酸洗浄)により測定した。

放射性炭素年代測定結果を第8表に、炭素年代から暦年への校正図を第14図に示す。P234のクリ炭化材で 1050 ± 40 yr BP (cal AD 980-1020)、SK19の炭化材で 1010 ± 40 yr BP (cal AD 1000-1030)の年代値が得られた。

第8表 柳之御所遺跡試料の放射性炭素年代測定結果

試料	未補正 ¹⁴ C年代 *1 (yr BP)	$\delta^{13}\text{C}$ *2 (permil)	¹⁴ C年代 *3 (yr BP)	暦年代 *4 ()内の%は確率	測定番号
55SXP234 炭化材(クリ)	1100 ± 40 AMS法	-27.9	1050 ± 40	cal AD 100 (cal BP 950) 2 σ (95%): cal AD 900-1030 (cal BP 1050-920) 1 σ (68%): cal AD 980-1020 (cal BP 970-930)	Beta-227080
65SK19 炭化材(散孔材)	1040 ± 40 AMS法	-27.1	1010 ± 40	cal AD 1020 (cal BP 930) 2 σ (95%): cal AD 980-1050 (cal BP 970-900) 2 σ (95%): cal AD 1090-1130 (cal BP 860-820) 2 σ (95%): cal AD 1140-1140 (cal BP 810-810) 1 σ (68%): cal AD 1000-1030 (cal BP 950-920)	Beta-227081



第14図 放射性炭素年代から暦年への校正

- *1 未補正¹⁴C年代 (yr BP)、(同位体分別未補正): 試料の¹⁴C/¹²C比から、単純に現在(西暦1950年)から何年前(BP)かを計算した年代。半減期としてはLibbyの5568年を用いた。
- *2 $\delta^{13}\text{C}$ (permil): 試料の測定¹⁴C/¹²C比を補正するための¹³C/¹²C比。この安定同位体比は、下式のように標準物質(PDB)の同位体比からの千分偏差(‰)で表現する。

$$(\text{‰}) = \left(\frac{^{13}\text{C}/^{12}\text{C}}{\text{試料}} - \frac{^{13}\text{C}/^{12}\text{C}}{\text{標準}} \right) \times 1000$$

$$(\text{‰}) = \left(\frac{^{13}\text{C}/^{12}\text{C}}{\text{標準}} - 0.0112372 \right) \times 1000$$
- *3 ¹⁴C年代 (yr BP)、(同位体分別補正): 試料の炭素安定同位体比(¹³C/¹²C)を測定して、試料の炭素の同位体分別を知り、¹⁴C/¹²Cの測定値に補正値を加えた上で算出した年代。試料の¹⁴C値を-25(‰)に基準化することによって得られる年代値で、暦年代を得る際にはこの年代をもちいる。
- *4 暦年代: 過去の宇宙線強度の変動による大気中¹⁴C濃度の変動に対する補正により、暦年代を算出する。それは年代既知の樹木年輪の¹⁴Cの測定、サンゴのU-Th年代と¹⁴C年代の比較により補正曲線を作成し、暦年代を算出する。
(古代の森林研究)

Ⅳ 総 括

第65次調査の調査範囲は、園池跡とその北側に位置する大型建物群が重複する範囲を中心域と呼称しているが、その西側と北側の2箇所及び。西側はおもに31次調査によって調査された範囲であるが再度区画施設などの検出を、北側は現在行われている史跡整備において復元対象候補となる55SX2堅穴建物について必要となるデータの収集をおもな目的として調査を行ったものである。

ここでは今年度おこなった調査のうちあらたに明らかとなった点を中心に項目ごとにまとめておきたい。

建物跡

今年度の調査範囲からは合計6棟の掘立柱建物跡と1棟の堅穴建物が検出された。これらはいずれもすでにこれまでの調査によって調査されていたところであるが、今回新たに明らかになった点を中心に触れておく。

31SB2は1間×3間の東西棟の建物跡である。ただし、報告書には文章記載がないが、今回の調査では北側柱列の東から1、2列目の柱穴が検出されなかった。したがって、現状ではこの2個の柱穴は存在しないことになる。これはおそらく、住宅によって削平されていたものと考えられる。梁間1間型の構造の小型建物跡である。

31SB4は1間×4間の東西棟建物である。この建物跡は梁間が1間であり、遺跡内では数少ない構造を有する。柱穴配置も比較的正確であり、規模もある程度大きいという特徴がある。31SB5とはほぼ同じ軸方向をもち、さらに同一直線上に並ぶ、柱穴列もある。両者は規模や構造に違いがあるものの、軸方向から同時期に存在していた可能性が高く、位置関係から密接に関連した機能を持つ建物と想定できる。

31SB5は従来構成される柱穴が足りないため建物状の遺構として認識されていたが、8個の柱穴が新たに発見されるに及んで1棟の完成された建物跡として把握できることになった。この建物跡の構造は桁行5間、梁行2間の東西棟である。総柱構造で、各柱穴規模が1m前後と遺跡内でも比較的大型の柱穴から構成される。この建物跡の時代は詳細な時期決定は難しいもの手づかぬかわらけが出土することを重視すれば12世紀中頃前後以降に廃絶されたと考えられる。こういった特徴的な構造をもつ建物跡は平泉拠点遺跡群にある倉町遺跡からも発見されている。この建物跡は5間×2間の総柱構造で、約1mの柱穴規模をもちこの特徴が31SB5と非常に良く類似している。異なる点は、倉町遺跡の建物跡周辺からは輸入陶磁器が多く出土することと柱間寸法が若干大きいことのみである。ほぼ同一規格といってもよいであろう。特徴的な建物跡が他遺跡から発見されることは今後建物の機能や時期などを検討する上で非常に重要になってくるであろう。また、倉町遺跡のそれは、『吾妻鏡』文治五(1189)年九月十七日条に記載される「高屋」と想定されている(平泉町教育委員会2004『倉町遺跡第4次発掘調査報告書』岩手県平泉町文化財調査報告書第88集)。『吾妻鏡』にはまた、平泉館内にも「高屋」が存在していたことを記述しており(文治五年八月二日条)、今後こういった建物跡の検討を通して、5間×2間の総柱構造の特徴を持つ建物跡が「高屋」であること、また、「高屋」の存在から柳之御所遺跡の具体的性格など明らかになる可能性がある。ただ、ここへ向かうには前提となる仮定も多く、さらなる検討が必要となる。

31SB6は、北側柱穴列(桁行側)の一部が調査区外に位置するが、31次調査の図面と合成して本

書では掲載している。これと今回の調査結果をあわせて検討した結果、5間×2間の東西棟の建物として復元した。これは従来の報告と同様の結果であるが、柱間寸法の計測値が若干変更になっている。南側柱列と東側柱列がそれぞれ他の柱穴列と直交せず斜行しているが、柱配列の一定の規則性から建物跡としたものである。このため、柱穴（ひいては柱）の小ささとも相俟って規格性の高くない建物跡といえる。園池を中心とする中心域のすぐ周辺にこのような建物跡が配置される意味は今後検討しなければならない。

41SB1も一部（西側柱列）が今年度調査区の外に位置しているため、41次調査の原因から合成して掲載している。いくつか存在しない柱穴があるが、現代の住宅による削平など原因が説明できるため、今回は建物跡と復元している。4間×3間の東西棟で北側と西側に庇がつくと想定できる。前回と同様柱穴の精査を行っていないため、その他の情報は不明であるが、柱間寸法、建物方位、柱配置などを考慮すると12世紀の建物の可能性が高い。

41SB2は前回の調査ですでに建物跡として認識されていたものであるが、検出作業のみの調査であった。今回は一部の柱穴を断ち割って（半載）調査を行った。その結果、柱穴からかわらけの細片が出土していることから12世紀代の建物跡の可能性が高いことがわかった。また、建物の平面形は平行四辺形を呈しており、この建物も規格性の低い建物跡となる。

その他の遺構

その他の建物跡に堅穴建物跡（55SX2）がある。55次調査によって検出・調査された遺構である。調査の結果、床面の柱穴数が1個増加したものと（P27b）、柱穴P20・21の掘かた規模が変更になった点が新たに判明した事実となる。この結果、P1・9・20・21はいずれも直径1mを超える大型の柱穴となり、底面の高さ（深さ）も同様な規模となることがわかった。したがって、これら4個を主柱穴とする構造として復元できることになった。不明であった上部構造の解明に向けて一歩前進できたことは重要な成果となろう。

塀跡は3基新たに発見された。いずれも一部の調査を行ったのみであるが、板状の痕跡を確認でき、板塀であったことが予想される。とくに、65SA1・65SA3はほぼ平行して存在するため、塀と塀の間は通路として利用されていた可能性が高い。また、この塀の軸方向は、31SB4や31SB5と類似した方向であり、同時期に存在していた可能性が高いことも類推できる。

以上簡単に今回判明した新事実を中心に触れてきた。新事実の判明は、遺跡の解釈のために重要な証拠の一つが加えられた半面、あらたに検討課題が増えたという面もある。今後はこうした解釈も含めて様々な問題に取り組んでいかなければならない。

第5表 かわらけ観察表

観測No	登壇No	出土遺構	層位	種類	部位	残存率 (%)	計測値				色調	胎土
							口径 (mm)	器高 (mm)	底径 (mm)	重量 (g)		
1	65R0k23	31SD54	一括	ロクロ大	口~底	50	14.0	4.2	6.4	142.6	5YR8/4淡黄	骨針少量、砂粒多く含む。
2	65R0k1	65SK2	下層(黒褐色土)	ロクロ大	口~底	40	13.2	4.7	4.5	105.1	外:2.5Y6/1黄 内:2.5Y4/1黄	磁器、骨針少量含む。
3	65R0k2	65SK2	下層(黒褐色土)	ロクロ大	底部	破片	-	-	4.8	117.4	10YR8/1灰白	骨針多く含む。
4	65R0k4	65SK6	一括	ロクロ大	口~底	80	14.6	3.6	6.4	170.5	10YR8/2灰白	骨針少量含む。
5	65R0k5	65SK6	一括	ロクロ大	口~底	40	15.6	3.8	7.6	91.7	2.5Y8/4淡黄	骨針少量含む、砂粒多い。
6	65R0k6	65SK8	一括	ロクロ大	口~底	95	13.6	4.5	6.4	209.5	5Y8/3淡黄	磁器、骨針少量含む。
7	65R0k9	65SK8	一括	ロクロ大	口~底	20	14.2	3.6	5.0	41.3	2.5Y8/3淡黄	磁器、石英・砂粒も少量含む。
8	65R0k8	65SK8	一括	ロクロ大	山縁部	破片	14.6	-	-	36.9	7.5YR8/2灰白	骨針極少量、砂粒多く含む。
9	65R0k10	65SK8	一括	ロクロ大	口~底	60	14.7	3.6	7.3	85.0	2.5Y8/3淡黄	磁器、骨針・砂粒少量含む
10	65R0k7	65SK8	一括	ロクロ大	口~底	95	13.7	4.3	5.8	206.9	10YR8/1灰白	骨針多量に含む。
11	65R0k12	65SK14	2~3層	ロクロ大	口~底	80	13.4	4.1	5.3	145.0	5Y8/2灰白	磁器、骨針少量含む。
12	65R0k14	65SK14	一括	ロクロ大	口~底	90	14.0	3.2	7.2	108.9	10YR8/2灰白	骨針少量含む。
13	65R0k15	65SK14	2~3層	ロクロ大	口~底	60	14.4	3.6	6.2	117.7	2.5Y8/3淡黄	磁器、骨針少量含む。
14	65R0k19	65SK14	2~3層	ロクロ大	口~底	60	12.6	4.1	6.2	145.9	5YR7/4に広い	骨針含む。砂粒多い。
15	65R0k20	65SK14	3層	ロクロ大	口~底	70	13.2	3.2	5.2	110.7	2.5Y8/2灰白	骨針少量、雲母含む。
16	65R0k21	65SK14	2~3層	ロクロ大	口~底	90	13.2	3.7	6.5	131.8	2.5YR7/6黄	砂粒多く粗い。赤色粒・骨針少量含む。
17	65R0k22	65SK14	2~3層	ロクロ大	底部	破片	-	-	6.8	138.6	5YR8/2灰白	骨針少量含む。
18	65R0k13	65SK14	2~3層	ロクロ大	口~底	80	-	-	6.5	146.1	5YR8/4淡黄	骨、骨針・砂粒も少量含む。
19	65R0k34	55SX2P27b	横断面	ロクロ大	口~底	70	12.6	3.5	6.9	122.4	7.4YR8/3淡黄橙	骨針少量、砂含む。
20	65R0k27	55SX2P21	柱状断内	ロクロ大	口~底	50	14.2	4.2	8.0	163.0	7.5YR8/2灰白	粗い。骨針少量、雲母含む。
21	65R0k24	31SD54	一括	手づくね大	口縁部	破片	11.8	(1.8)	-	15.6	7.5YR8/3淡黄橙	磁器。
22	65R0k25	65SD7	上層	手づくね大	口~底	20	12.6	-	-	13.8	7.5YR8/3淡黄橙	密。白色粒を含む。
23	65R0k31	55SX2P10	柱状断内	ロクロ大	口~底	20	14.0	-	-	36.0	7.5YR8/1灰白	磁器。赤色粒を含む。
24	65R0k33	55SX2P10	柱状断内	手づくね大	口~底	25	12.0	3.8	-	33.0	7.5YR8/1灰白	密。砂粒を少量含む。
25	65R0k29	55SX2P10	柱状断内	手づくね大	口~底	40	12.6	3.1	-	55.0	2.5Y8/2灰白	密。
26	65R0k28	55SX2P20	柱状断内	手づくね大	口~底	100	12.9	3.5	-	134.6	7.5YR8/3淡黄橙	磁器。
27	65R0k30	55SX2	柱状断内	手づくね大	口~底	30	14.6	(2.5)	-	38.7	2.5Y8/2灰白	密。白色粒を含む。
28	65R0k32	55SX2P27b	横断面	手づくね大	口~底	40	13.4	3.4	-	101.1	10YR8/3淡黄橙	磁器。
29	65R0k11	65SK18	3層(庭面付近)	ロクロ小	口~底	80	9.5	1.6	6.7	69.5	5YR8/2灰白	骨針・砂粒少量含む。
30	65R0k3	65SK2	上層(1層)	ロクロ小	口~底	20	(7.4)	1.9	(5.7)	17.1	10YR8/4淡黄橙	磁器。骨針・赤色粒を含む。
31	65R0k26	65SD7	上層	手づくね小	口~底	20	7.0	1.3	-	9.0	7.5YR8/3淡黄橙	磁器。
32	65R0k17	65SK14	2層	手づくね小	口~底	30	9.2	1.5	-	14.2	7.5YR8/3淡黄橙	骨針極量に含む。
33	65R0k16	65SK14	2層	手づくね小	口~底	20	8.4	1.8	-	12.2	7.5YR8/2灰白	磁器。
34	65R0k18	65SK14	3層	手づくね小	口~底	30	8.8	1.6	-	14.5	2.5Y8/3淡黄	密。骨針・砂粒を少量含む。
35	65R0k35	65SK14	2層	手づくね小	口~底	50	8.0	1.9	-	28.0	7.5YR8/2灰白	磁器。

第6表 国産陶器観察表

掲載No	登録No	出土遺跡	層位	種類	器種	部位	重量 (g)	色調	胎土・特徴など
36	65R0t42	31SD54	一括	常滑	壺	体部	29	10YR 5/1 黒灰	密。砂粒を含む。
37	65R0t43	31SD54	一括	常滑	甕	頸部	24	10YR 5/1 黒灰	砂粒を含む。外面に自然釉。
38	65R0t44	31SD54	一括	常滑	壺	頸部	45	7.5YR 3/1 黒褐	砂粒を多く含む。
39	65R0t45	31SD54	一括	常滑	片口罎	口縁部	48	5Y 6/灰	砂粒を含む。
40	65R0t48	65SD11	一括	常滑	壺	体部	29	7.5Y 4/2 灰オリーブ	密。砂粒を含む。
41	65R0t47	65SD11	一括	常滑	壺	体部	17	7.5Y 4/3 暗オリーブ	砂粒を多く含む。外面に自然釉。
42	65R0t50	65SK 4	一括	常滑	甕	体部	19	2.5Y 3/1 黒褐	砂粒を多く含む。内外面に自然釉が分かる。
43	65R0t49	65SK 4	一括	常滑	甕	体部	26	10YR 3/1 黒褐	密。硬質な焼成。
44	65R0t55	65SK18	上層	常滑	甕	体部	44	7.5YR 4/2 灰褐	密。砂粒を含む。硬質な焼成。
45	65R0t58	P322	上層	常滑	壺	体部	59	K21黒	やや粗い。外面に釉層が厚い。
46	65R0t77	31SB 5 P147	掘りかた一括	常滑	壺	体部	100	7.5Y 4/3 暗オリーブ	やや粗い。砂粒をやや多く含む。外面に薄層、自然釉。
47	65R0t61	69-69	検出	常滑	甕	体部	15	5YR 7/3 に近い橙	密。焼成弱い。外面に押印。
48	65R0t69	69-71	再検出時	常滑	甕	体部	10	2.5YR 2/1 赤黒	やや粗い。砂粒を含む。
49	65R0t65	68-70枚裏側	カタラン	常滑	甕	体部	35	7.5YR 3/1 黒褐	密。砂粒を含む。
50	65R0t60	67-71枚裏側	カタラン	常滑	甕	体部	39	7.5YR 3/1 黒褐	粗密。砂粒をほとんど含まない。
51	65R0t56	69-66	検出	常滑	甕	体部	53	7.5YR 3/1 黒褐	砂粒を多く含む。
52	65R0t35	65SD1	一括	瀬美	甕	体部	100	10YR 5/1 黒灰	粗密。砂粒をほとんど含まない。内外面無釉。
53	65R0t36	65SD1	一括	瀬美	甕	体部	91	10YR 5/1 黒灰	粗密。砂粒をほとんど含まない。外面に押印。
54	65R0t37	65SD1	一括	瀬美	甕	体部	47	10YR 4/1 黒灰	粗密。硬質な焼成。外面に剥落した自然釉が分かる。
55	65R0t41	65SD7	上層	瀬美	甕	体部	17	7.5YR 4/2 灰褐	粗密。黒・白色粒を含む。
56	65R0t40	65SD7	上層	瀬美	甕	体部	26	10YR 3/1 黒褐	粗密。ほとんど砂粒含まない。
57	65R0t53	65SK 8	一括	瀬美	甕	体部	55	7.5Y 3/2 オリーブ黒	粗密。ほとんど砂粒含まない。やや硬質。
58	65R0t39	65SD19	一括	瀬美	甕	体部	40	10YR 6/2 灰黄褐	粗密。やや軟質な焼成。2次焼成を行う。
59	65R0t46	65SD11	一括	瀬美	甕	体部	42	10YR 6/1 黒灰	粗密。やや軟質な焼成。
60	65R0t59	63-69	検出	瀬美	甕	体部	20	5YR 5/3 に近い赤褐	粗密。ほとんど砂粒含まない。
61	65R0t63	68-70枚裏側	カタラン	瀬美	甕	体部	55	7.5Y 4/3 暗オリーブ	粗密。ほとんど砂粒含まない。外面に自然釉。
62	65R0t64	68-70枚裏側	カタラン	瀬美	甕	体部	71	5YR 4/2 灰褐	粗密。ほとんど砂粒含まない。
63	65R0t70	西区出土	表土	瀬美	甕	体部	72	10YR 4/1 黒灰	粗密。墓地の掘り込み痕が見える。外面に押印。
64	65R0t71	出土	表土	瀬美	甕	体部	37	7.5YR 4/1 黒灰	粗密。ほとんど砂粒含まない。
65	65R0t38	65SD1	一括	須恵器系	甕	体部	146	10YR 4/1 黒灰	密。白・黒色粒を含む。内面に黒い痕、外面にタタキ。
66	65R0t51	65SK 4	一括	須恵器系	甕	体部	24	10YR 7/1 灰白	粗密。黒色粒を多く含む。外面にタタキ。
67	65R0t57	65SK18	3層	須恵器系	片口罎	口縁部	265	NS1灰	密。白色粒を多く含む。

第7表 中国陶磁器観察表

掲載No	登録No	出土遺跡	層位	種類	器種	部位	重量 (g)	色調	特徴
68	65R0t 56	65SK18	層土	中国陶磁	壺	体部	7	2.5Y 7/1 灰白	黄褐色。外面に釉の剥離痕が見える。
69	65R0t 62	66-70枚裏側	カタラン	中国陶磁	皿	体部	75	5YR 3/4 暗赤褐	粗密。外面に耳部の痕跡が見える。
70	65R0t 73	31SD54	層土	白磁	壺	体部	13	7.5Y 8/1 灰白	大牟田分層目録
71	65R0t 72	65SD1	層土	白磁	壺	体部	7	7.5Y 6/2 灰オリーブ	大牟田分層目録
72	65R0t 74	P131	上層	青白磁	甕・壺	底部	13	2.5Y 7/1 灰白	2次焼成を受ける

第8表 木製品観察表

掲載No	登録No	種類	出土遺跡	層位	計測			特徴
					長さ	幅	厚さ	
73	65R 976	板材	65SX 2	P29	47.6	11.7	3.0	加工された板材。片面に掘り傷のような痕跡が見える。溝・窪を患った痕跡もみられる。

第9表 柱穴一覧表

番号	長径×短径	深さ (cm)	底面標高 (m)	建物名	その他	
1	24×17				未調査	新規
2	17×15				未調査	新規
3	50×39	10.1	25.814		完掘済	新規
4	18×16				未調査	新規
5	20×18				未調査	新規
6	21×19				未調査	新規
7	32×30				未調査、柱痕跡	新規
8	22×18				未調査、柱痕跡	新規
9	26×25				未調査、柱痕跡	新規
10	26×23				未調査、柱痕跡	新規
11	42×38				未調査、柱痕跡	新規
12	33×24				未調査	新規
13	30×22	8.0	26.210		一部調査、柱痕跡	
14	67×43	19.6	25.825		完掘済	
15	46×38	5.0	25.965	41SB 2	一部調査、柱痕跡	新規
16	25×19				未調査	
17	29×27				未調査、柱痕跡	新規
18	24×24				未調査	
19	26×25				未調査	
20	44×35	14.6	25.968	41SB 2	一部調査	
21	58×53	35.3	25.917	41SB 2	一部調査、柱痕跡	
22	35×34	26.7	25.880	41SB 2	一部調査	
23	24×20				未調査、柱痕跡	
24	32×26				未調査、柱痕跡	
25	29×27				未調査	新規
26	43×43	35.6	25.873		一部調査、柱痕跡	新規
27	20×20				未調査	新規
28	52×46	25.5	25.953		一部調査	
29	53×50				未調査	新規
30	39×33				柱痕跡、未調査	
31	43×22	8.3	25.840	41SB 2	柱痕跡	
32	38×33	24.7	25.818	41SB 2	柱痕跡	
33	50×45	22.0	25.860	41SB 2	柱痕跡	
34	27×27				未調査、柱痕跡	
35	25×22				未調査、柱痕跡	
36	33×30				未調査、柱痕跡	
37	22×19				未調査、柱痕跡	
38	20×19				未調査、柱痕跡	
39	34×32				未調査、柱痕跡	
40	25×20				未調査、柱痕跡	
41	23×23				未調査	
42	30×26				未調査、柱痕跡	
43	18×18				未調査	
44	23×17				未調査、柱痕跡	
45	20×20				未調査、柱痕跡	
46	22×20	7.0	25.960		一部調査	
47	50×43	27.4	25.760	41SB 2	一部調査、柱痕跡	
48	22×16				未調査、柱痕跡	新規
49	49×44	16.9	25.837	41SB 2	一部調査、柱痕跡	
50	19×18				未調査、柱痕跡	新規
51	18×17				未調査、柱痕跡	
52	19×15				未調査、柱痕跡	
53	17×16				未調査	新規
54	53×42				完掘済、レベル無	新規

番号	長径×短径	深さ (cm)	底面標高 (m)	建物名	その他	
55	37×27	11.5	26.090		完掘済	新規
56	42×34				未調査、柱痕跡	新規
57	25×25				未調査	
58	15×15				未調査	新規
59	17×15				未調査、柱痕跡	新規
60	33×17				未調査、柱痕跡	新規
61	27×25				未調査、柱痕跡?	新規
62	32×28	10.7	25.810		一部調査、柱痕跡	
63	46×45			41SB 2	未調査	新規
64	23×20				未調査、柱痕跡	
65	65×38				完掘済、レベル無	新規
66	38×30				未調査、柱痕跡	新規
67	28×21				未調査、柱痕跡	新規
68	20×20				未調査、柱痕跡	
69	24×18			41SB 1	未調査	
70	34×28			41SB 1	未調査、柱痕跡	
71	17×10				未調査	
72	19×19				未調査	
73	17×11				未調査	
74	17×12				未調査	
75	28×27				未調査	
76	25×17				未調査	
77	13×12				未調査	新規
78	38×37	16.3	25.652		完掘済	
79	43×36	18.0	25.696		完掘済	
80	28×28				未調査、柱痕跡	新規
81	20×19				未調査、柱痕跡	新規
82	27×23				未調査、柱痕跡	新規
83	41×35	26.0	25.780		一部調査、柱痕跡	新規
84	23×20				未調査、柱痕跡	
85	47×33				未調査、柱痕跡	新規
86	81×63	49.6	25.110		完掘済	新規
87	25×22				未調査、柱痕跡	新規
88	36×30			41SB 1	未調査、柱痕跡	
89	25×23				未調査、柱痕跡	新規
90	26×21				未調査、柱痕跡	新規
91	33×28				未調査	
92	28×22				未調査、柱痕跡	
93	27×25				未調査、柱痕跡	
94	32×31			41SB 1	未調査	
95	33×31				未調査、柱痕跡	新規
96	44×36			41SB 1	未調査、柱痕跡	
97	50×43			41SB 1	未調査	
98	26×25				未調査、柱痕跡	新規
99	27×27				未調査、柱痕跡	新規
100	43×40			41SB 1	未調査、柱痕跡	新規
101	23×22				未調査、柱痕跡	
102	20×18				未調査、柱痕跡	
103	43×41			41SB 1	未調査	
104	22×18				未調査	新規
105	18×18				未調査	
106	25×21	7.0	25.735		完掘済	
107	23×20				未調査	
108	48×27			41SB 1	未調査	
109	28×21				未調査	

番号	長径×短径	深さ (cm)	底面標高 (m)	建物名	その他	
110	27×26	12.5	25.308		完掘済	
111	38×32	18.4	25.160		完掘済	
112	27×26	29.3	25.348		完掘済、柱痕跡	
113	23×23	22.3	25.361		完掘済	
114	26×23	9.3	25.512		完掘済	
115	48×32				未調査	新規
116	22×21				未調査	新規
117	23×21				未調査、柱痕跡	新規
118	22×17				未調査、柱痕跡	新規
119	23×18				未調査	新規
120	19×18				未調査	
121	35×28	12.1	25.630		完掘済 (31次)	
122	57×50			41SB 1	未調査	
123	16×12				未調査	
124	34×32	14.3	25.272		完掘済 (31次)	
125	24×23				未調査	新規
126	38×34				未調査	新規
127	22×22				未調査、柱痕跡	新規
128	28×25				未調査、柱痕跡	新規
129	26×21				未調査	新規
130	20×20				未調査	新規
131	43×43				未調査	新規
132	30×27				未調査	新規
133	38×37				未調査、柱痕跡	新規
134	31×25				未調査	新規
135	23×16				未調査	新規
136	36×25				未調査	新規
137	24×22				未調査、柱痕跡	新規
138	47×44				未調査、柱痕跡	新規
139	52×38				未調査	新規
140	26×22				未調査	新規
141	18×15				未調査	新規
142	52×45				未調査	新規
143	37×16				未調査	新規
144	34×30				未調査	新規
145	23×20				未調査	新規
146	96×81	42.0	26.431	31SB 5	一部調査、柱痕跡	新規
147	91×90	43.7	26.175	31SB 5	一部調査、柱痕跡	新規
148	91×82	56.2	26.286	31SB 5	完掘済	
149	95×91	42.1	26.247	31SB 5	完掘済	
150	75×71	64.8	26.170	31SB 5	完掘済	
151	76×65	51.1	26.057	31SB 5	完掘済	
152	101×86	67.9	26.186	31SB 5	完掘済	
153	110×91	46.3	26.174	31SB 5	完掘済	
154	77×74	35.2	26.188	31SB 5	完掘済	
155	33×30				未調査	新規
156	30×30				未調査	新規
157	29×29				未調査	新規
158	28×17				未調査	新規
159	31×22				未調査	新規
160	25×20				未調査	新規
161	49×34	16.5	26.377		一部調査	新規
162	33×18				未調査	新規
163	(65)×58	20.1	26.338		一部調査	新規
164	40×35				未調査	新規

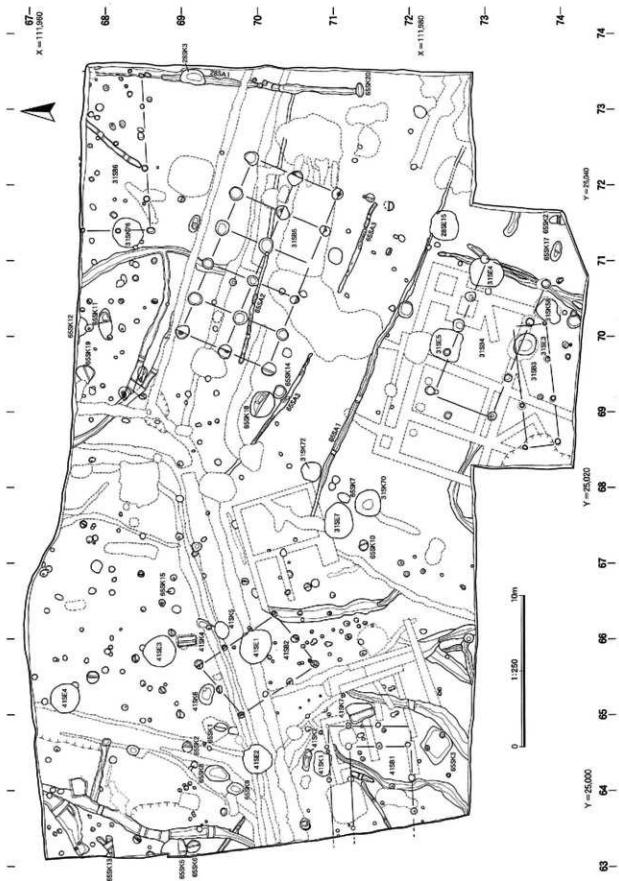
番号	長径×短径	深さ (cm)	底面標高 (m)	建物名	その他	
165	36×21				未調査	
166	52×45				未調査	新規
167	60×51	38.3	25.983	31SB 5	一部調査、柱痕跡	新規
168	42×38				未調査	新規
169	50×39				未調査	新規
170	23×20				未調査	新規
171	94×84	31.0	26.245	31SB 5	一部調査	新規
172	65×38				未調査	新規
173	108×93	34.4	25.940		完掘済	新規
174	92×85	68.0	26.140	31SB 5	完掘済	
175	71×64	63.0	25.720	31SB 4	完掘済	
176	32×27				未調査	新規
177	39×38				未調査	新規
178	37×30				未調査、柱痕跡	新規
179	18×15	17.8	26.932		完掘済	
180	97×77	51.2	26.024	31SB 5	一部調査	新規
181	75×60	25.2	26.116	31SB 5	一部調査、柱痕跡	新規
182	35×28	35.6	26.684		完掘済	
183	35×26	41.5	26.550		完掘済	
184	35×28				未調査	新規
185	43×37	49.1	26.374	31SB 6	一部調査	
186	47×38	38.8	26.480	31SB 6	完掘済	
187	30×26	15.1	26.798		完掘済	
188	23×21	12.6	26.842		完掘済	
189	46×36	23.8	26.700		完掘済	
190	40×33	27.3	26.755		完掘済	
191	33×28	25.6	26.754		完掘済	
192	53×48	17.2	26.828		完掘済	
193	20×15	11.7	25.830		完掘済	
194	48×32	20.8	26.784		完掘済	
195	29×24	19.5	26.715	31SB 6	完掘済	
196	35×31	29.2	26.595		完掘済	
197	40×30	18.8	26.770		完掘済	
198	42×38	24.0	26.760		完掘済	
199	32×24	34.4	26.579		完掘済	
200	22×19	14.4	26.784		完掘済	
201	28×24	22.5	26.590		完掘済	
202	33×27	35.0	26.540	31SB 6	完掘済	
203	47×27	9.3	26.795		完掘済	
204	28×24	20.1	26.608		完掘済	
205	39×32	21.1	26.604		完掘済	
206	37×32	24.9	26.554		完掘済	
207	60×31	47.9	26.635		完掘済	
208	47×35	18.9	26.909		完掘済	
209	45×41	26.8	26.527	31SB 6	完掘済	
210	46×40	27.5	26.475		一部調査	新規
211	28×19	45.0	26.655	31SB 6	完掘済	
212	50×36	43.8	26.566	31SB 6	完掘済	
213	34×32				未調査、柱痕跡	新規
214	20×20				未調査	新規
215	24×20				未調査	新規
216	21×14				未調査、柱痕跡	新規
217	46×25				未調査	新規
218	35×28				未調査	新規
219	38×31				未調査	新規

番号	長径×短径	深さ (cm)	底面標高 (m)	建物名	その他
220	35×34	62.6	26.499		一部調査、柱痕跡 新規
221	42×42	62.9	26.454		一部調査 新規
222	48×36				未調査 新規
223	29×28				未調査 新規
224	33×28				未調査 新規
225	41×30	39.9	26.560		一部調査、柱痕跡 新規
226	18×18				未調査 新規
227	31×27				未調査、柱痕跡 新規
228	61×39				未調査 新規
229	62×34				未調査 新規
230	55×40				未調査、柱痕跡 新規
231	9×6				未調査、柱穴？
232	95×69	51.3	26.382	31SB 5	完掘済
233	27×27				未調査
234	120×87	46.0	26.016	31SB 5	一部調査、柱痕跡 新規
235	27×25				未調査 新規
236	28×25				未調査 新規
237	41×35	14.2	26.773		完掘済
238	38×38	10.3	26.982		完掘済 新規
239	22×13				未調査 新規
240	27×26				未調査
241	22×16				未調査 新規
242	26×20				未調査 新規
243	29×24				未調査 新規
244	90×75	45.5	26.439		一部調査 新規
245	33×26				未調査、柱痕跡 新規
246	57×36				未調査 新規
247	44×30				未調査、柱痕跡 新規
248	53×29				未調査 新規
249	27×17				未調査 新規
250	75×68	38.5	26.177	31SB 5	一部調査、柱痕跡 新規
251	38×29				未調査 新規
252	58×44				未調査、柱痕跡
253	35×22				未調査 新規
254	28×23				未調査、柱痕跡
255	37×35				未調査
256	32×25				未調査
257	26×20				未調査
258	24×20				未調査
259	48×43	30.9	26.431		一部調査、柱痕跡
260	53×44				未調査、柱痕跡 新規
261	42×40				未調査、柱痕跡
262	16×14				未調査
263	45×38				未調査、柱痕跡
264	40×31				未調査
265	82×67				未調査 新規
266	52×43				未調査 新規
267	90×74				未調査 新規
268	32×31				未調査 新規
269	40×19				未調査
270	55×31				未調査
271	38×35				未調査、柱痕跡 新規
272	42×30				未調査 新規
273	53×45	62.8	25.922		一部調査、柱痕跡
274	26×21				未調査、柱痕跡 新規

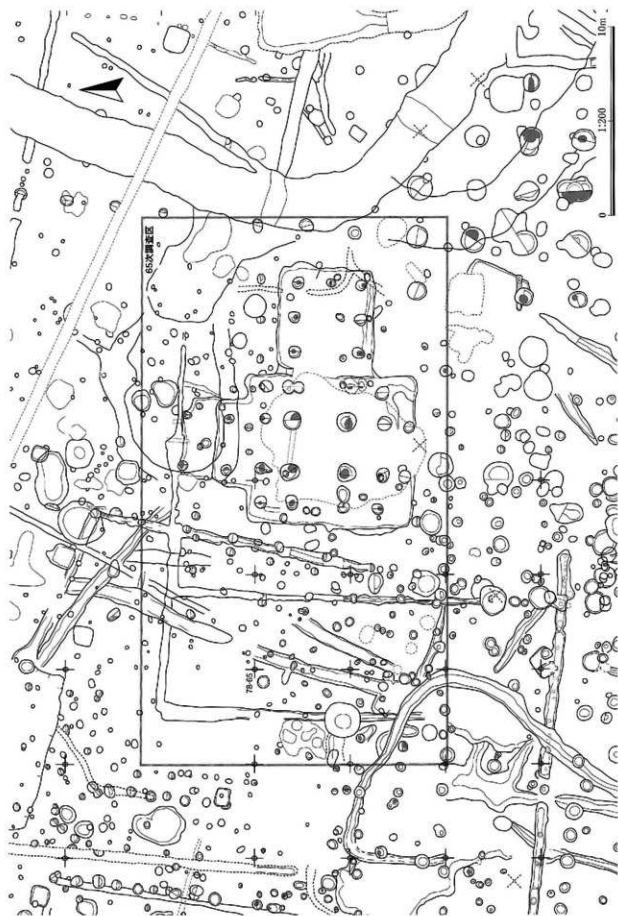
番号	長径×短径	深さ (cm)	底面標高 (m)	建物名	その他	
275	29×24				未調査	新規
276	57×50				未調査	新規
277	27×26				未調査	新規
278	41×36				未調査	
279	25×22				未調査	
280	35×35				未調査、柱痕跡	新規
281	23×14				未調査	
282	49×36				未調査、柱痕跡	新規
283	40×36				未調査、柱痕跡	新規
284	39×38				未調査	新規
285	41×37				未調査、柱痕跡	新規
286	43×38				未調査	新規
287	25×23				未調査	新規
288	25×22				未調査	新規
289	34×31				未調査	
290	26×23				未調査、柱痕跡	新規
291	34×26				未調査	新規
292	38×34				未調査	
293	43×40				未調査、柱痕跡	
294	44×42				未調査	
295	34×19				未調査	新規
296	38×36				未調査、柱痕跡	
297	42×38				未調査	
298	38×35				未調査	新規
299	35×29				未調査	新規
300	27×27				未調査	
301	16×15				未調査	
302	43×42	37.1	26.029		一部調査	新規
303	21×20				未調査	新規
304	50×32	33.0	26.519		一部調査	新規
305	40×31				未調査、柱痕跡	
306	38×32				未調査	
307	33×21				未調査	新規
308	27×23				未調査、柱痕跡	新規
309	26×25				未調査、柱痕跡	新規
310	22×22				未調査	新規
311	31×25				未調査、柱痕跡	新規
312	25×20				未調査	新規
313	28×25				未調査、柱痕跡	新規
314	14×8				未調査	新規
315	22×18				未調査	新規
316	29×26				未調査	新規
317	36×33				未調査	
318	40×30				未調査	
319	31×26				未調査	新規
320	55×50	30.0	25.736		一部調査	新規
321	49×30				未調査	
322	37×34				未調査	
323	59×54	30.8	26.258		一部調査	新規
324	48×42	16.5	26.240		一部調査	新規
325	26×20				未調査、柱痕跡	新規
326	20×18	14.5	26.445		一部調査	新規
327	57×47	15.5	26.005		完掘済	新規
328	78×62	36.6	26.758		完掘済	新規
329	40×38				未調査	新規

番号	長径×短径	深さ (cm)	底面標高 (m)	建物名	その他	
330	42×38				未調査	新規
331	36×36				未調査	新規
332	15×11				未調査	新規
333	20×12				未調査	新規
334	54×20	14.7	25.878		完掘済	新規
335	51×44				未調査	新規
336	58×53				未調査	新規
337	25×25				未調査	新規
338	26×15				未調査	新規
339	68×53	57.8	25.650	31SB 4	完掘済	
340	87×70	48.3	25.711	31SB 4	完掘済	
341	23×18	8.9	25.834		完掘済	新規
342	33×28				未調査	新規
343	40×32				未調査	新規
344	46×46	18.8	26.369		完掘済	新規
345	30×13	13.6	26.848		完掘済 (59次)	
346	17×14				未調査	
347	45×38				未調査	新規
348	86×78	44.9	25.665	31SB 4	完掘済	
349	65×60	27.2	25.176		完掘済	
350	43×32	9.6	26.214		完掘済	新規
351	65×60	19.4	26.172		完掘済	新規
352	50×32				未調査	新規
353	55×43	13.0	26.058		完掘済	新規
354	31×(15)				未調査	新規
355	100×77	53.0	25.600	31SB 4	完掘済	
356	62×49	43.8	25.642	31SB 4	完掘済	
357	(65)×(60)			31SB 4	未調査	
358	108×55	35.1	26.537		完掘済	
359	21×20	1.5	26.800		完掘済	
360	35×(21)	20.7	25.904		完掘済	新規
361	33×28				未調査	
362	65×55	44.0	25.590	31SB 4	完掘済	
363	35×27				未調査	新規
364	40×35				未調査	新規
365	37×32	26.5	25.670	31SB 3	完掘済	
366	42×40	16.7	25.728	31SB 3	完掘済	
367	50×48	24.2	25.707	31SB 3	完掘済	
368	38×34	17.8	25.716		完掘済	新規
369	43×40	18.1	25.734	31SB 3	完掘済	
370	47×43	19.0	25.870	31SB 3	完掘済	
371	38×30	32.5	25.750		完掘済	
372	45×40	25.1	25.854		完掘済	
373	20×15	11.0	25.945		完掘済	
374	26×25	26.0	25.870	31SB 3	完掘済	
375	30×30	25.1	25.870		一部調査 (31次)	
376	92×91	26.9	25.859		完掘済	
377	45×40	43.0	25.698		完掘済	
378	34×25	22.0	25.818		完掘済	新規
379	26×(20)				未調査	新規
70-61-PP3	24×20			41SB 1	未調査	
71-64-PP4	35×32			41SB 1	未調査	
72-69-PP2	50×44	20.5	25.646	31SB 4	一部調査 (31次)	
68-71-PP4	30×(30)	26.0	26.683	31SB 6	一部調査 (31次)	

圖 版

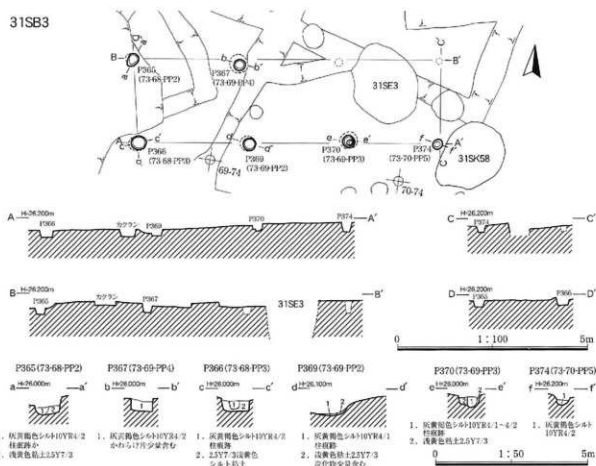


遺構配置図 (西区)

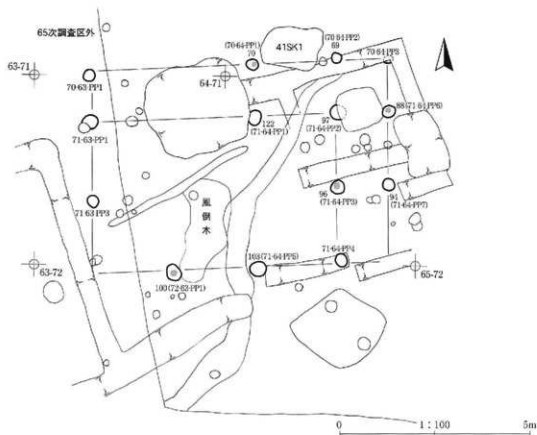


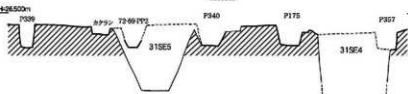
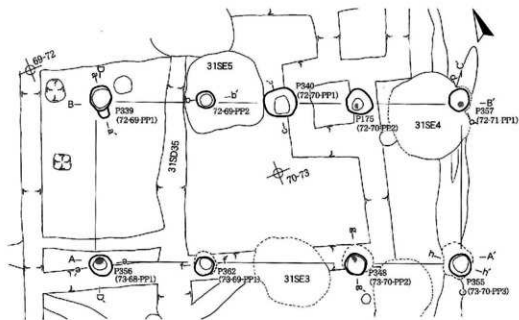
遺構配置図 (北区)

31SB3



41SB1





0 1 : 100 5m

P339 (72-69-PP1)
a ±28,500m —a'



72-69-PP2
b ±28,000m —b'



P340 (72-70-PP1)
c ±28,500m —c'



P357 (72-71-PP1)
d ±28,200m —d'



P356 (73-69-PP1)
e ±28,200m —e'



P362 (73-69-PP1)
f ±28,200m —f'



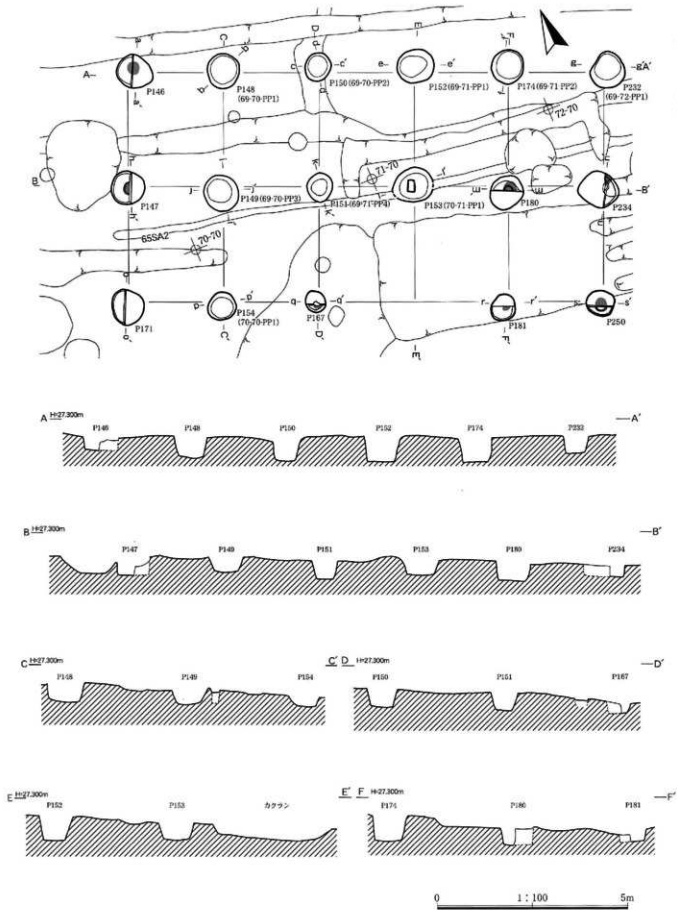
P348 (73-70-PP2)
g ±28,500m —g'

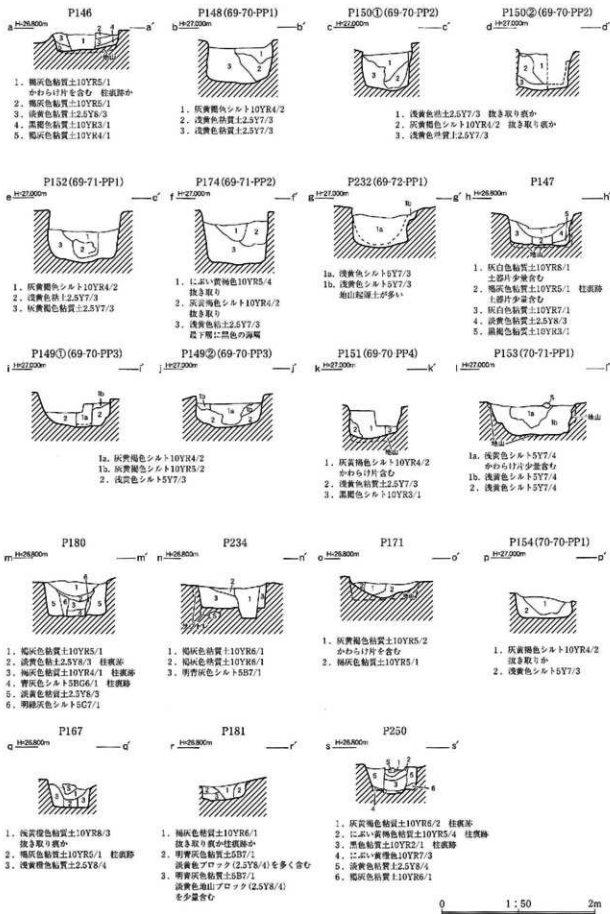


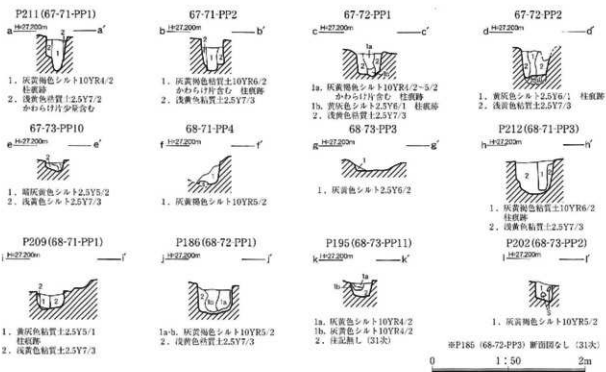
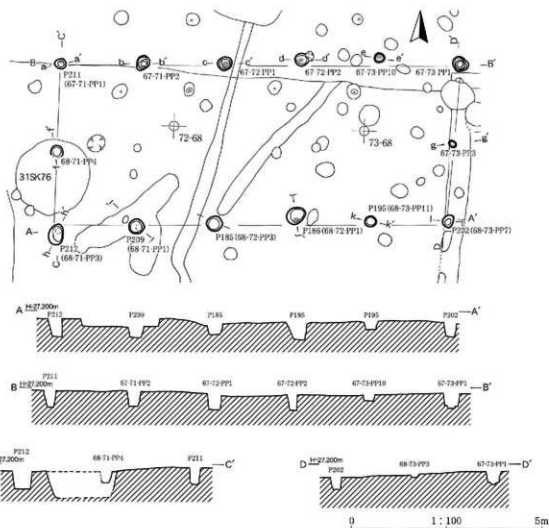
P355 (73-70-PP3)
h ±28,400m —h'

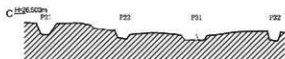
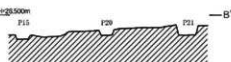
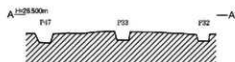
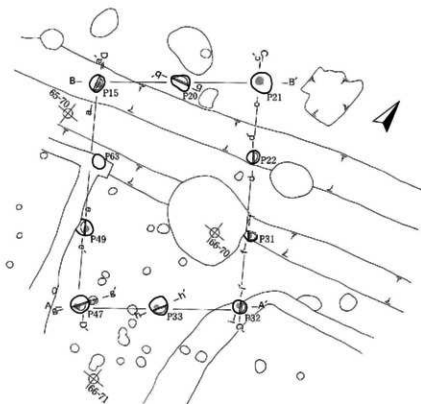


0 1 : 50 2m

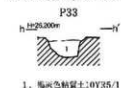
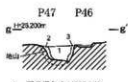
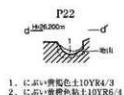
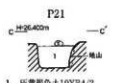
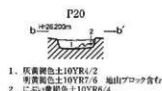
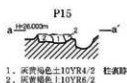




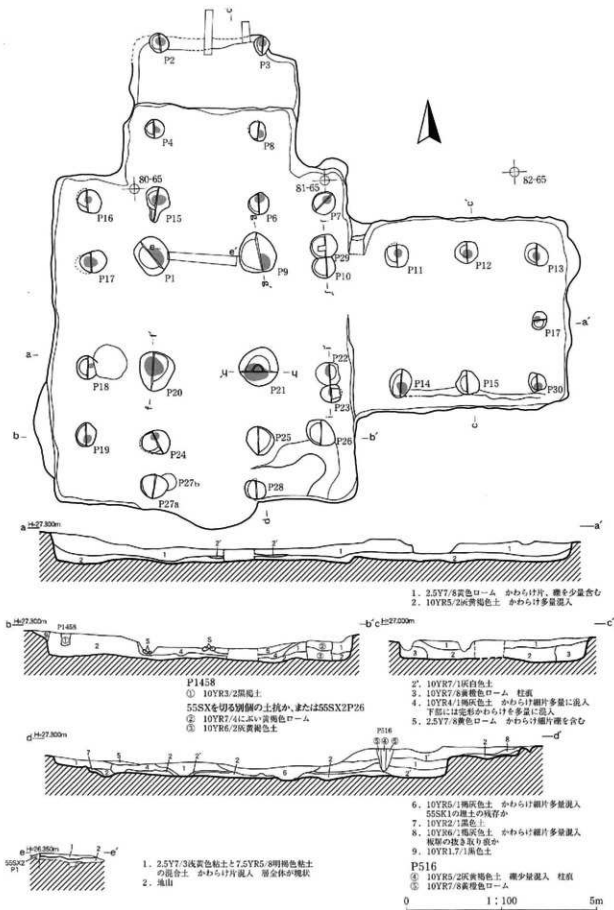




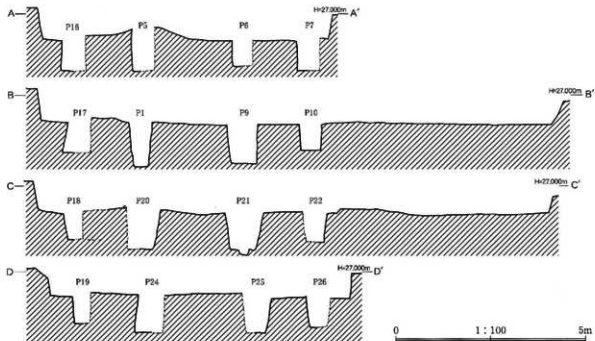
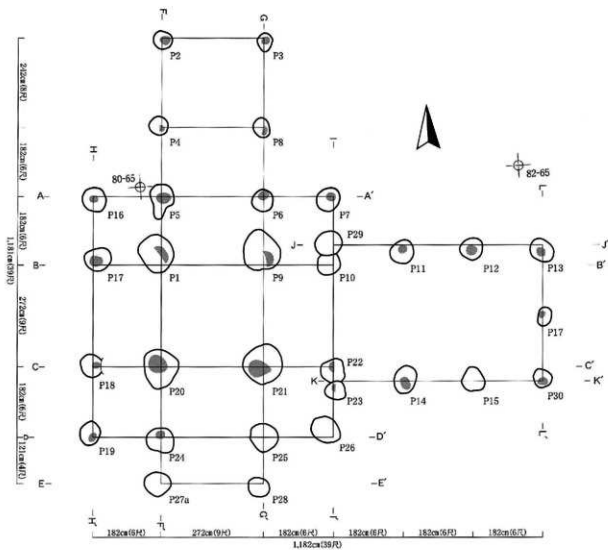
0 1:100 5m



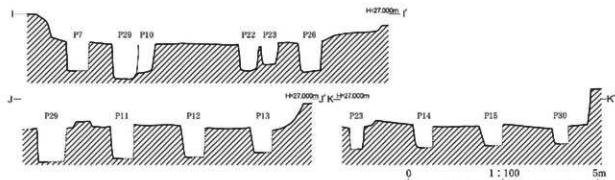
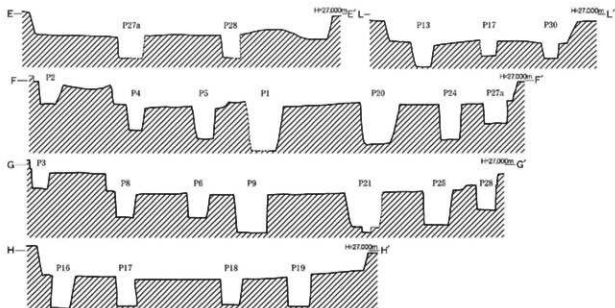
0 1:50 2m



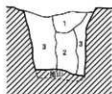
55SX 2 実測図 1



55SX 2 実測図 2

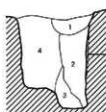


1:26,500m P20 —f



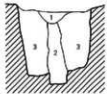
1. 褐色粘質土10YR5/1 かわらけ片多量含む
2. 褐色粘土10YR6/1 かわらけ片少量含む
粒砂層
3. 浅黄色粘質土2.5Y7/3

1:26,500m P9 —g'



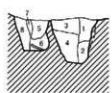
1. 深灰色シルト2.5Y8/3
2. 褐色粘土10YR6/1 浅黄褐色ブロック多量に含む 黒褐色ブロック含む
3. 褐色粘土10YR6/1 黄灰色ブロック少量含む
4. 浅黄褐色シルト10YR8/4

1:26,500m P21 —h'



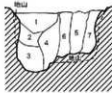
1. 褐色粘質土10YR5/1 かわらけ片多量含む
2. 浅黄色粘質土2.5Y7/4 かわらけ片少量含む 断面に定形かわらけあり
3. 深灰色粘土2.5Y7/3 かわらけ片微量含む

1:29,500m P23 P22 —f'



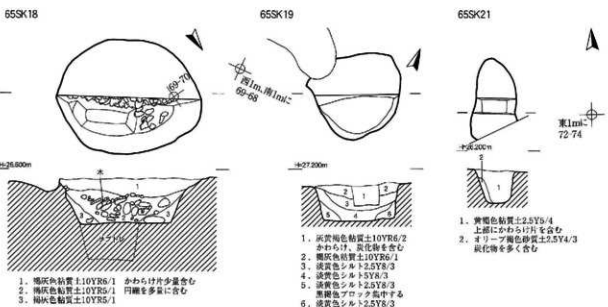
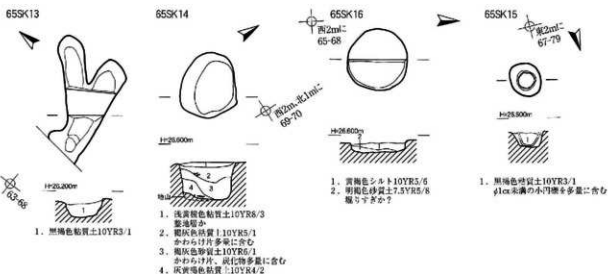
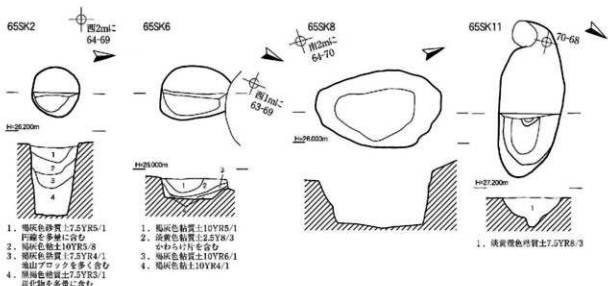
1. にんべん黄褐色粘質土10YR7/2 かわらけ片含む
2. 褐色粘土10YR5/1 礫、かわらけ片含む 粒砂層
3. 深灰色シルト2.5Y8/3
4. 褐色粘土10YR6/1
5. 灰白色砂質土10YR7/1 かわらけ片含む
6. 灰白色粘質土10YR7/1 浅黄色ブロック、褐色色ブロック多量に含む 礫層を含む
7. 深灰色粘土2.5Y8/3
8. 浅黄色シルト2.5Y8/3 褐色色ブロック少量含む

1:26,500m P29 P10 —f'

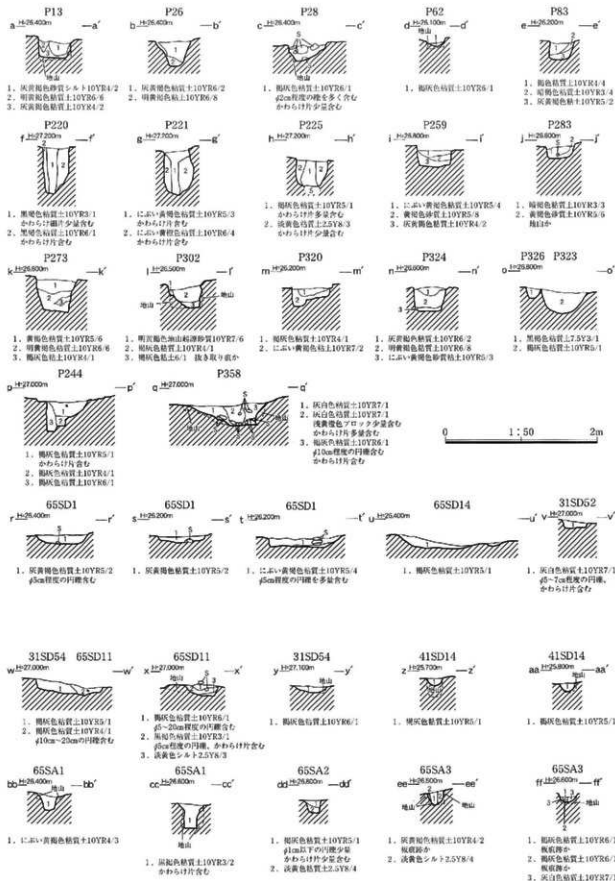


1. 浅黄色シルト2.5Y8/3
2. 浅黄色シルト5Y8/3 下部に黒色ブロック少量混じる
3. 浅黄色シルト5Y8/3 黄褐色ブロック少量混じる
4. 灰白色粘土5Y7/1
5. にんべん黄褐色粘質土10YR7/2 かわらけ片多量に含む 粒砂層含む
6. 浅黄色シルト2.5Y8/3 褐色色 (10YR6/1)、黒褐色粘質土 (10YR3/1) 混在 円礫少量含む
7. 浅黄色シルト2.5Y8/3 褐色粘質土ブロックが多い

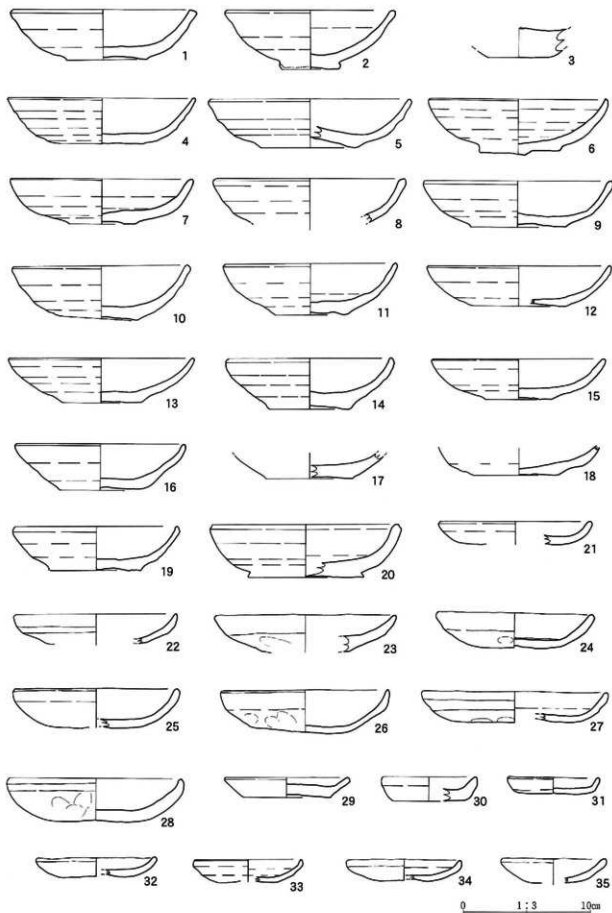
0 1:50 2m



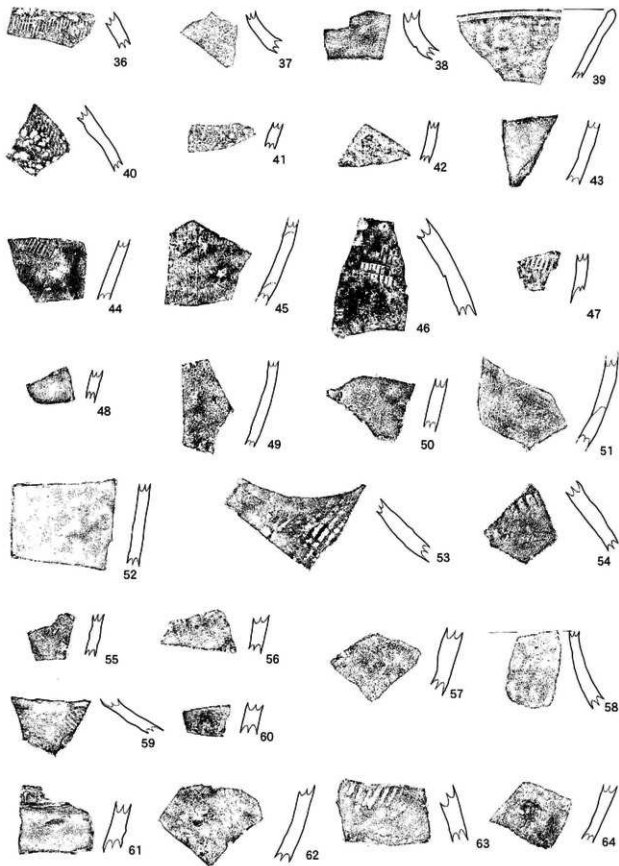
0 1:50 2m



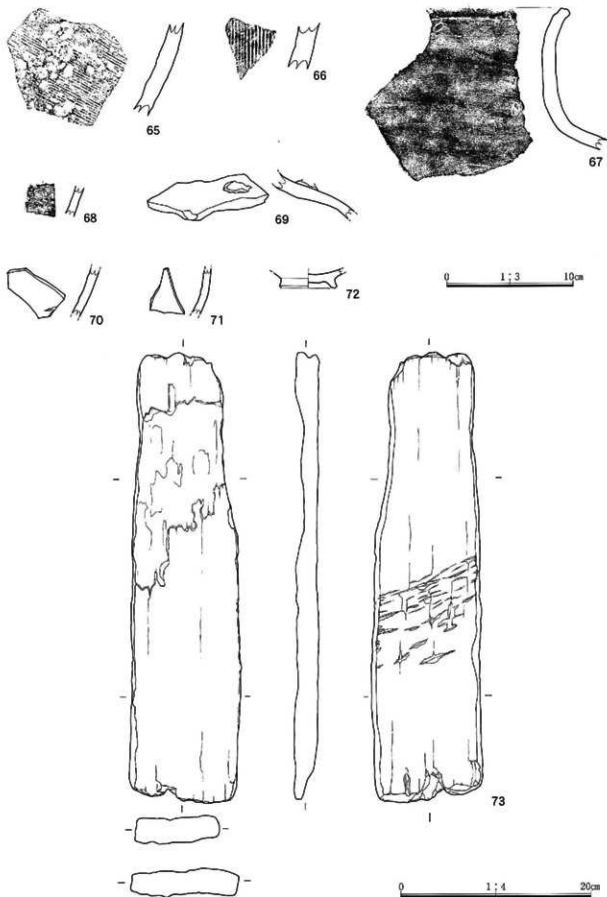
柱穴・堀・溝跡断面実測図



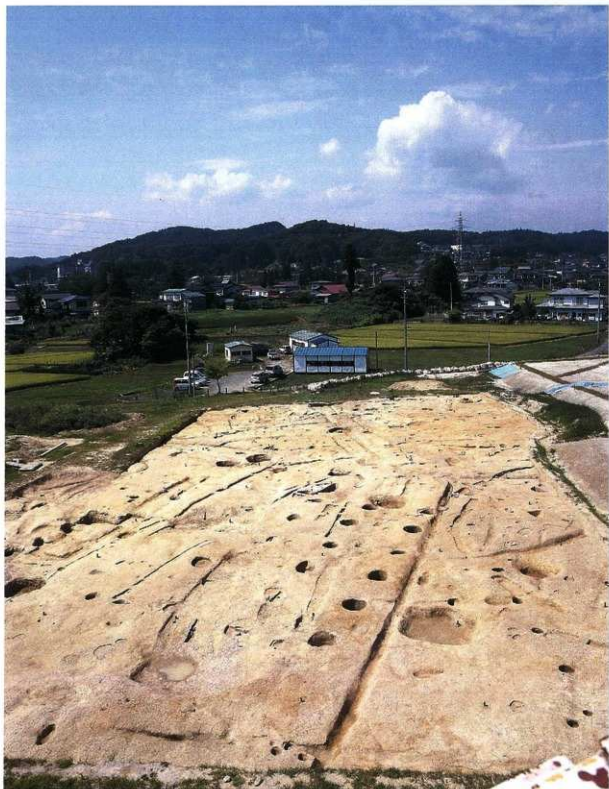
出土遺物実測図（かわらけ）



0 1:3 10mm



出土遺物拓本・実測図（国産陶器・中国産陶磁器・木製品）



西区全景（金鷄山をのぞむ）



1. 北区全景1 (南から)



2. 北区全景2 (東から)



1. 31SB5平面 (1)



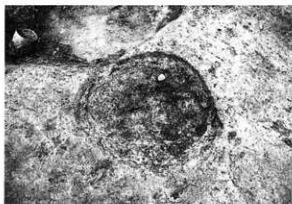
2. 31SB5平面 (2)



1. P146 検出



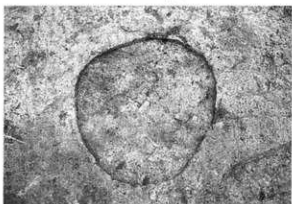
2. P146 断面



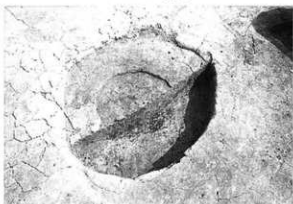
3. P147 検出



4. P147 断面



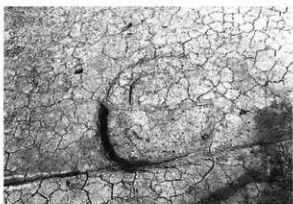
5. P171 検出



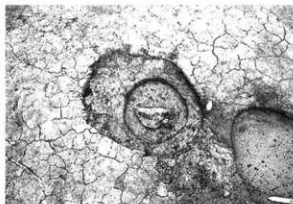
6. P171 断面



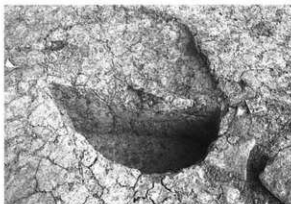
7. P181 検出



8. P181 断面



1. P167 検出



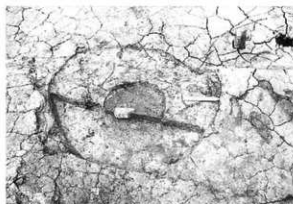
2. P167 断面



3. P180 検出



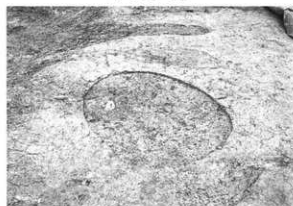
4. P180 断面



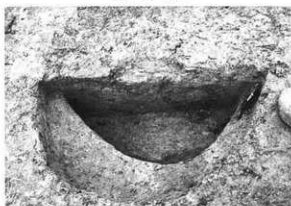
5. P250 検出



6. P250 断面



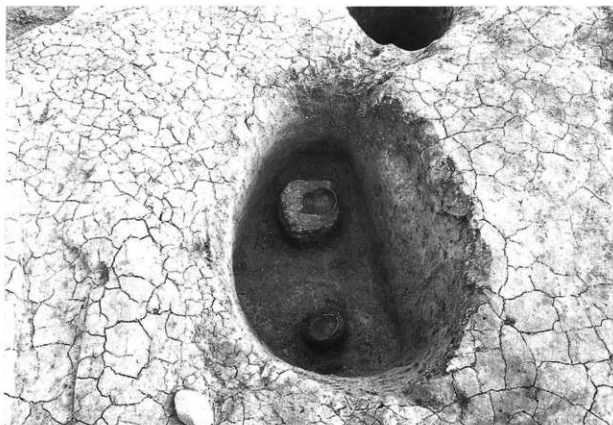
7. P234 検出



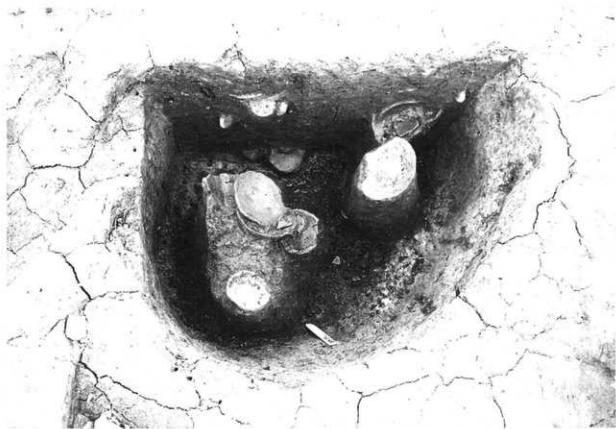
8. P234 断面



1. 65SK6 遺物出土状況



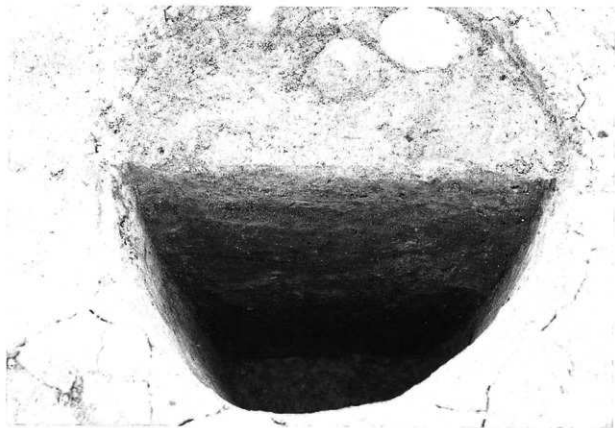
2. 65SK8 遺物出土状況



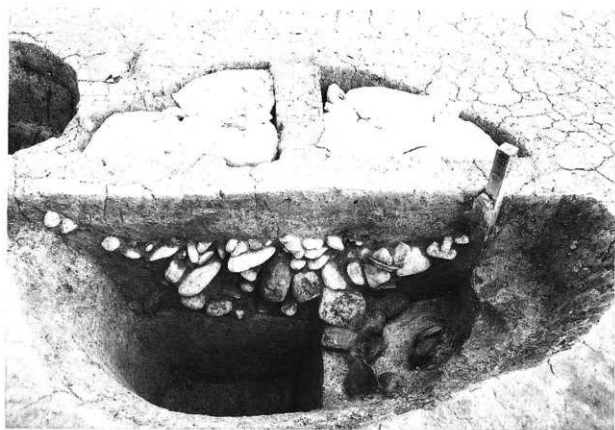
1. 65SK14 遺物出土状況



2. 65SK14 土層断面



1. 65SK2 土層断面



2. 65SK18 土層断面



1. 65SA1・65SA3



2. 65SA1・65SA3 (2)



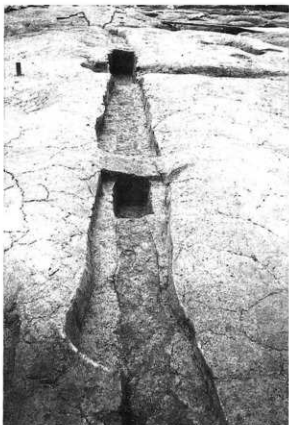
1. 65SA3 板痕跡 1



2. 65SA3 板痕跡 2



3. 65SA1 検出



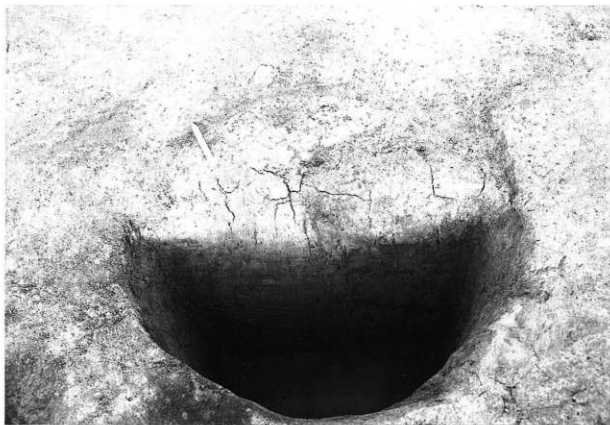
4. 65SA1 土層断面



1. 55SX2 P20 土層断面



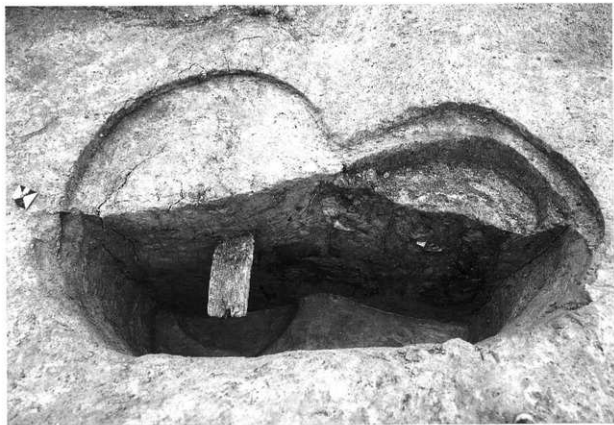
2. 55SX2 P21 土層断面



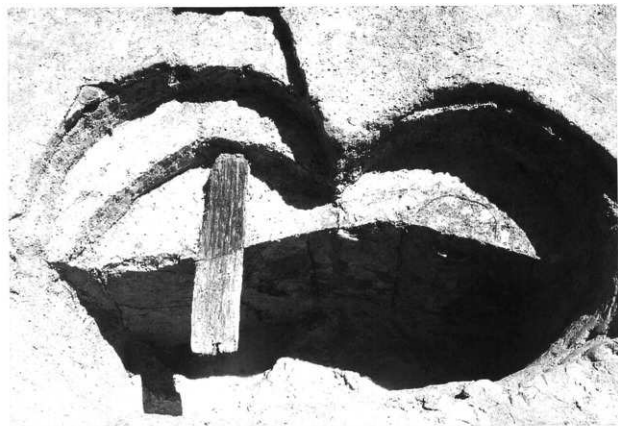
1. 55SX2 P 9 土層断面



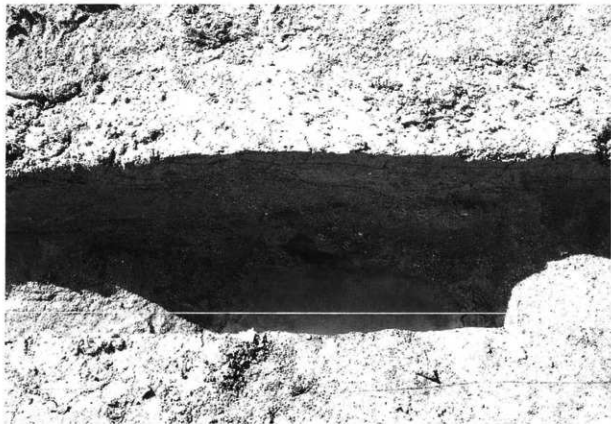
2. 55SX2 P22・23 土層断面



1. 55SX2 P29・10 土層断面



2. 55SX2 P29・10 板材出土状況



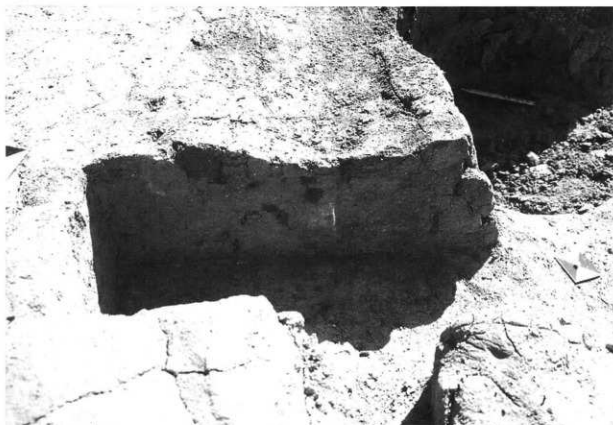
1. 55SX2 貼り床土層断面



2. 55SX2 貼り床土層断面 (拡大)



1. 55SA1 土層断面



2. 55SA1 サブトレンチ 土層断面



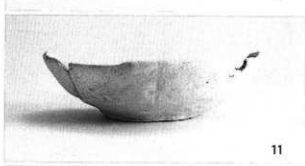
1



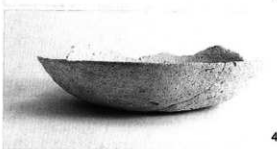
10



2



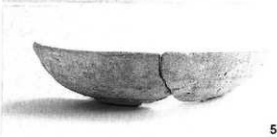
11



4



12



5



14



6



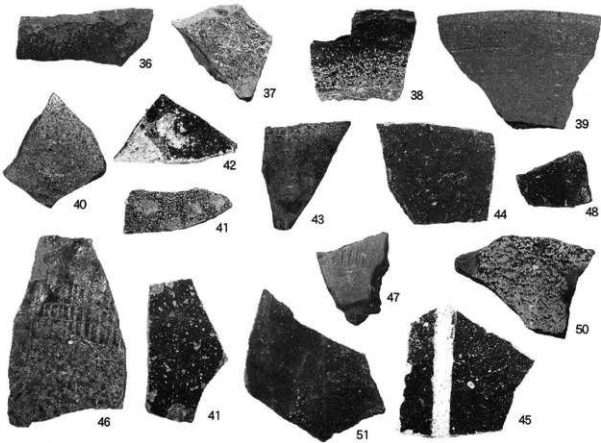
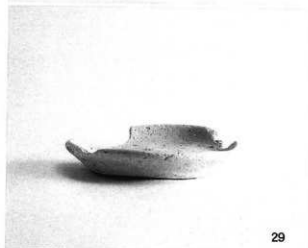
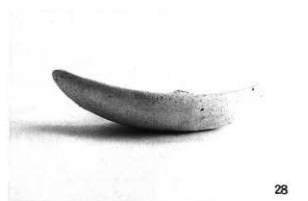
15



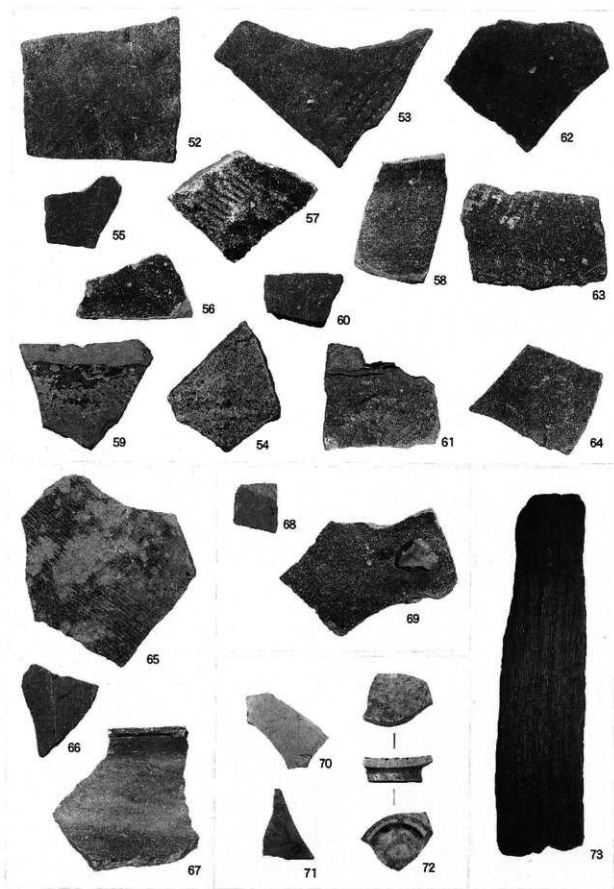
9

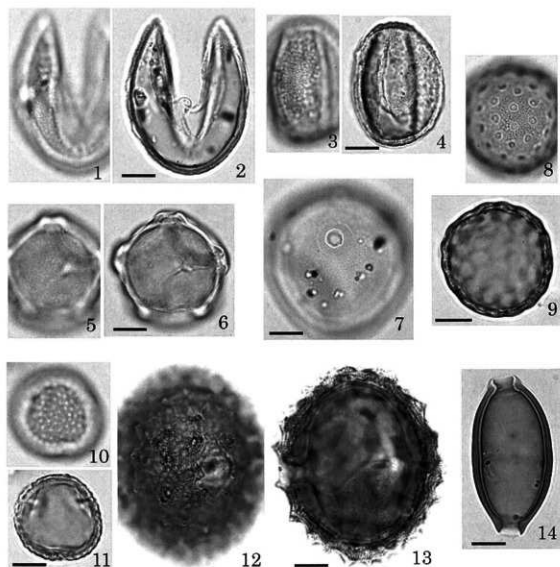


16



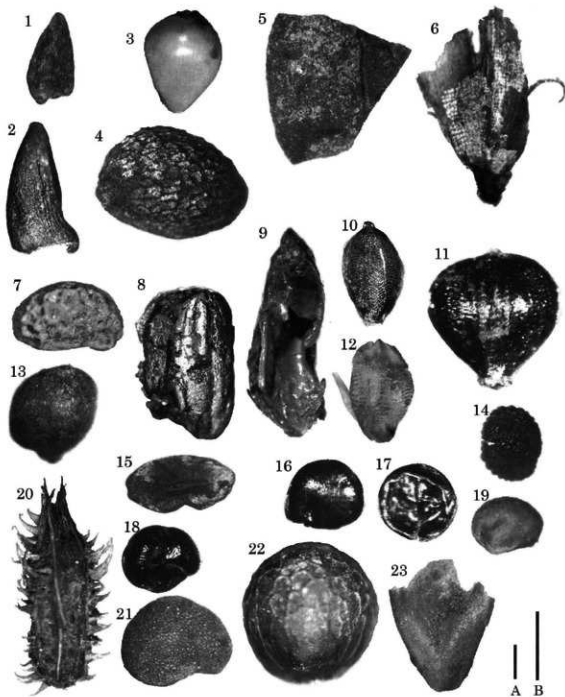
図版 34
出土遺物 (3)





柳之御所遺跡のSK2土坑より産出したバリノモルフ

1-2: スギ (*Cryptomeria japonica*), AFR.MY1719. 3-4: コナラ亜属 (*Lepidobalanus*), AFR.MY1715. 5-6: ハンノキ属 (*Alnus*), AFR.MY1719. 7: イネ属型 (*Oryza type*), AFR.MY1716. 8-9: アカザ科 (*Chenopodiaceae*), AFR.MY1717. 10-11: オナモミ属 (*Xanthium*), AFR.MY1719. 12-13: ペニバナ属 (*Carthamus*), AFR.MY1714. 14: 鞭虫卵 (*Trichuris*), AFR.MY1712. スケール=10 μ m.



SK2土坑より出土した大型植物化石

1. コナラ属、芽。2. フジ属、芽。3. キブシ、種子。4. サンショウ、内果皮。5. エゴノキ、内果皮破片。6. イネ、穎破片。7. キイチゴ属、核。8. イネ、炭化胚乳。9. キビ、穎破片。10. スゲ属、果実。11. ホタルイ属、果実。12. アワ、穎破片。13. カナムグラ、果実。14. ナデシコ科、種子。15. イボクサ、種子。16. ヒユ属、種子。17. ヒユ属、破損種子。18. シロザ近似種、種子。19. キジムシロ属、核。20. オヤブジラミ、果実。21. ナス属、種子。22. エゴマ、果実。23. メロン仲間、種子破片。

スケールAは1, 2, 5, 8, 13, 15, 21, 23 スケールBは3, 4, 6, 7, 9-11, 12, 14, 16-20, 22

附篇

掘立柱建物跡等出土遺物の検討数値

(目次)

本文	82
計測数値	84
遺物出土遺構図	
23SB1, 23SB2, 23SB3, 28SB1, 28SB2, 28SB3	110
28SB4, 31SB5, 31SB7, 50SB3, 50SB4, 50SB5	111
50SB6A, 50SB6B, 50SB9, 50SB10, 50SB16, 50SB17, 50SB23, 52SB14	112
52SB18, 52SB19, 52SB21, 52SB25, 55SB5, 55SB6	113
55BS8, 55BS9, 55SB10, 55SB11, 55SB12, 55SB13, 55SB14, 55SB16, 55SB17	114
55SB19, 55SB20, 55SB24, 55SB27, 55SB21, 55SB25, 55SB28, 55SB29, 55柱列1, 55柱列2	115
23SB4, 23SB5, 23SB6, 23SB7, 23SB8	116
31SB3, 31SB4, 31SB6, 41SB2	117
※ 次の遺構図(堀跡、溝跡、井戸跡、圍池跡、柱列跡)は各調査報告書を参考にすること。	
堀跡: 23SA1(23次調査第1号堀跡、以下同じ)、23SA2, 28SA1, 50SA1	
溝跡: 21SD4, 21SD7, 52SD10, 52SD29, 52SD32 井戸跡: 28SE3, 4, 11, 16, 52SE7, 8	
圍池跡: 23SG1 柱列跡: 55柱列6	

(表について)

- 附篇本文「2対象」で除外したデータは、各表の判定の△、×の資料である。他遺構との切り合い関係で、それが大きいものは×、弱程度以下のものを△として除外している。この場合備考欄に重複と記入している。また、建物跡を構成していない柱穴データも×とし、除外している(構成外と記入)。
- 表中「破片数比」列最下段にある数値は(ロクロ片点数/総点数)×100である。

出土かわらけ片データについて

1 経緯

ここに掲載するデータは、従来未報告であったかわらけ片についての重量及び数量である。検討作業及び報告の直接的契機は、出土遺物をもとに柳之御所遺跡堀内部地区の遺構変遷について検討するにあたり、掘立柱建物跡など、年代的根拠を示す十分な質・量の遺物が出土していない場合において、ロクロかわらけと手づくねかわらけの数量比率がもっとも有効と考えたことによるものである。作業期間は平成18年12月から平成19年6月である。

2 対象

遺跡堀内部地区に所在する遺構のうち、1) 掘立柱建物跡を構成する柱穴跡、2) 園池埋土及び園池構築土、3) 井戸跡のうち年輪年代測定結果が得られている折敷を出土しているもの、4) 塀跡及び道路遺構を構成していると考えられる溝跡、から出土した報告書非掲載かわらけ片である。発掘時のノイズが想定されることから、柱穴については、他の遺構と重複している場合、集計から除外した。

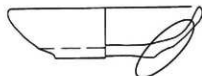
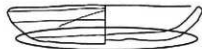
3 方法

かわらけ片をロクロかわらけ口縁部・ロクロかわらけ底部・手づくねかわらけ口縁部・手づくねかわらけ底部に区分し、識別可能な場合はそれぞれ大小に分けた。ロクロかわらけか不明な破片も一定量存在することから、それらは不明とした。部位の識別については、口縁部は、口端部を必ず含むもの、底部は、底面が認められるものとするが、底部から口縁部まで認められるものについては、口縁部に区分した。手づくねかわらけの場合は側面と底面の区分が漸移的な場合があるが、側面の割合が大きいと判断されたものについては、底部からは除外した。

底部についてのロクロと手づくねの識別については、1) 糸切痕が明瞭である場合 2) 磨滅等により糸切痕が不明瞭な場合は底部が明らかに平坦に仕上げられている場合、及び 3) 底部切り離しの際の「キズ」が観察される場合 についてはロクロとし、凹凸のある平坦面が連続する場合等を手づくねとしている。

上記分類にしたがって、それぞれの遺構ごとの破片数をカウントし、それぞれの重量を測定した。2以上の破片となっている場合においても、直接接合する場合は1とした。ただし、破片数については、十分な接合作業を行っていないことや、整理作業中の破損等の事故など不確定要素を伴っている。

集計及び結果の検討においては、磨耗の進んだかわらけ破片を扱った場合でも、識別の客観性が担保され、比較的信頼度の高い統計情報が得られるものは「ロクロかわらけ底部」であると考えた。また、破片数量より作業上の誤差が少ないと考えられる重量を重視した。



かわらけ底部範囲認定模式図

上段：手づくねかわらけ

下段：ロクロかわらけ

	口縁部	底部	不明
ロクロかわらけ			
手づくねかわらけ			
不明かわらけ			

かわらけ破片資料の分類と集計表

4 方法論上の課題

1) 破片識別の問題

口縁部についてはロクロと手づくねの識別が困難な場合が少なくなく、明らかにロクロナデが認められるものや手づくねのみに特有の口縁端の面取り調整が認められるものを除いては、多分に経験的な分類となっている。この製作技法や部位認識の程度の差により、ロクロ小皿口縁や手づくね大皿底部の数量が多くなるのに対し、ロクロ大皿口縁部や手づくね小皿底部の数量は相対的に少なくなる傾向となると考えられる。

2) 破片サイズの問題

井戸跡等は、柱穴跡に比して大型の破片を出土することが経験的に知られている。そのため、定義上、底部を含む破片であっても口縁部片としてカウントされる場合が多くなる可能性がある。

3) 遺構変遷検討への適用上の課題

ア 遺物採取時の問題

23・28・31各次調査においては、とくに重要な意味があると考えられた柱穴跡を除いて埋土の断面が記録として残されていない。また、遺物の出土層について、残されている記録から現在知りうる情報が限られ、遺物が柱掘方・柱痕跡・柱抜き取り痕のいずれから出土しているかが明らかでない場合がほとんどである。たとえば28SB4の一部の柱抜き取り痕には多量のかわけ片が投棄されているが、この場合、建物の下限を示す資料が多く含まれていることとなる。このため、データを解釈する際には、建物を構成している他の柱穴跡との相対的關係に十分留意する必要がある。

イ 遺構認定の問題

掘立柱建物跡の場合、個々の柱穴跡が、我々が想定している建物を構成しているかどうかという問題がある。この点については、建物ごとに統計的な検証がある程度可能である。

ウ データ量の問題

この方法によって得られるデータ量が十分である場合には問題がないが、37次以降の調査は遺構の保存を前提としているので、個々の遺構について完掘していない場合がほとんどであるなど、とくに柱穴跡の場合は、破片であっても出土数量に乏しい場合がある。どの程度の数量をもって十分かは難しい問題であるが、今回は、掘立柱建物を構成する柱穴から、大型の完形かわらけ1個体分の重量に見合うものとして、かわらけ片が150g以上出土している遺構について変遷案を示している。結果として、建物軸方位と対応していることから、ある程度有効な値であると考えている。

エ かわらけ型式の問題

破片の分類は、基本的にかわけの製作技法とサイズという、すでに十分知られている大分類のみ依っている。当面必要な検討作業には耐えうると考えたことによるものである。しかし当該期の平泉においては、例えば、手づくねかわらけの仕上げの際の調整方法として、口縁部付近を2段にナデるものと1段にナデるものとの区分が一般に行われている。そのような類の分類と、今回の製作技法による数量比がどのように関係しているのかについては、今後の課題である。

5 その他

この検討作業によって得られた結果及び課題等については、一部重複した内容を含んでいるが、「平泉文化研究年報」第7号(2007)及び「平泉文化研究年報」第8号で報告しているので、あわせて参照されたい。

23SB3

道場名	種火名	出士階級	月日	総点数 (個)	総重量 (g)	ロケット(個)			手つくり(個)			本器(個)			その他	ワカ成器 /全量	ワカ成器 重量比	判定	焼片 数比	備考								
						大	小	不明	大	小	不明	大	小	不明														
						100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%							100%	100%	100%					
23SB3	79.86-PP12	焼上	10/27	8	89										3	24.7	62	○										
23SB3	79.87-PP10	焼上	10/3	13	37										1	8	25.3	×	構成外									
23SB3	79.87-PP10	焼上	9/26	15	79										0	25.4	26	×	本器									
23SB3	79.87-PP10	焼上	10/2	2	6										2	0.0	0	×	本器									
23SB3	79.87-PP10	焼上	9/26	4	26										1	21.4	6	×	本器									
23SB3	79.87-PP10	焼上	9/26	8	26										2	23.0	28	○										
23SB3	79.88-PP10	焼上	10/7	7	22										1	7	0.0	×	本器									
23SB3	79.88-PP10	焼上	10/3	2	10										1	1	0.0	×	本器									
23SB3	79.88-PP10	焼上	9/26	5	46										1	1	0.0	×	構成外									
23SB3	79.89-PP10	焼上	10/6	6	15										3	9	11.1	○										
23SB3	80.86-PP14	焼上	10/25	67	308										9	41	12.6	25	×									
23SB3	80.87-PP14	焼上	9/21	3	24										1	14	13.4	6	×	本器								
23SB3	80.87-PP10	焼上	9/26	118	590										9	26	31.1	171	×	本器 西折れ								
23SB3	80.88-PP05	焼上	9/26	8	46										3	5	12.5	5	○	手つくり(本器)焼基								
23SB3	80.88-PP02	焼上	9/21	31	132										5	1	16.4	29	○									
23SB3	80.88-PP14	焼上	11/15	34	27										1	11	26.7	19	○									
23SB3	80.88-PP14	焼上	11/10	11	101										1	2	31.7	32	○	構成外								
23SB3	80.88-PP14	焼上	11/2	4	118										2	2	0.0	×	構成外									
23SB3	80.88-PP14	焼上	11/2	4	118										2	2	0.0	×	構成外									
焼片数比(100%焼片/総点数)×100				163	7131	0	6	2	0	1	44	9	7	12	6	21	7	0	0	0	20	1	236	28.2	49	31.3	100%のみ	
焼片数比(100%焼片/ワカ成器)×100				4	8										60													

23SB4

道場名	種火名	出士階級	月日	総点数 (個)	総重量 (g)	ロケット(個)			手つくり(個)			本器(個)			その他	ワカ成器 /全量	ワカ成器 重量比	判定	焼片 数比	備考								
						大	小	不明	大	小	不明	大	小	不明														
						100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%							100%	100%	100%					
23SB4	82.87-pp11	焼上	10	25											7	16.0	4	○										
23SB4	81.88-pp1	焼上	4	28											1	2	1	×	本器									
23SB4	81.88-pp1	焼上	10/26	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	7	16.0	4	10.0	100%のみ							
焼片数比(100%焼片/総点数)×100				10	0										1	0	7	16.0	4	10.0	100%のみ							
焼片数比(100%焼片/ワカ成器)×100				100											1													

23SB5

道場名	種火名	出士階級	月日	総点数 (個)	総重量 (g)	ロケット(個)			手つくり(個)			本器(個)			その他	ワカ成器 /全量	ワカ成器 重量比	判定	焼片 数比	備考							
						大	小	不明	大	小	不明	大	小	不明													
						100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%							100%	100%					
23SB5	83.91-pp10	焼上	36	70											22	3.3	4	○									
23SB5	83.91-pp10	焼上	21	122											30	37.7	46	○									
23SB5	83.91-pp10	焼上	32	379											2	50	4.7	18	○								
23SB5	83.91-pp10	焼上	103	541											27	12.7	76	○									
23SB5	83.91-pp11	焼上	5	44											3	68.9	49	×	構成外								
23SB5	83.91-pp11	焼上	2	10	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	100	13.1	4	7.3	100%のみ						
焼片数比(100%焼片/総点数)×100				242	1088	2	10	0	0	0	0	0	0	0	2	0	100	13.1	4	7.3	100%のみ						
焼片数比(100%焼片/ワカ成器)×100				15	0										111												

23SB6

道場名	種火名	出士階級	月日	総点数 (個)	総重量 (g)	ロケット(個)			手つくり(個)			本器(個)			その他	ワカ成器 /全量	ワカ成器 重量比	判定	焼片 数比	備考								
						大	小	不明	大	小	不明	大	小	不明														
						100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%							100%							
23SB6	78.85-pp1	焼上	163	712											72	27.0	200	×	構成外									
23SB6	78.85-pp1	焼上	411	2033											25	180	32.7	270	×	構成外								
23SB6	78.85-pp11	焼上	201	898											2	133	32.6	226	×	本器								
23SB6	78.85-pp11	焼上	202	482											2	143	22.3	133	×	本器								
23SB6	78.85-pp11	焼上	396	208											24	205	25.0	469	×	本器								
23SB6	78.85-pp11	焼上	298	1701											17	144	42.8	422	×	本器								
23SB6	78.85-pp2	焼上	1	8											1	0.0	0	○		本器								
23SB6	78.85-pp2	焼上	6	34											0	0.0	0	×		本器								
23SB6	78.85-pp2	焼上	13	38											1	11	0.0	0	×	本器								
23SB6	78.85-pp2	焼上	1	8											0	0.0	0	○		本器								
焼片数比(100%焼片/総点数)×100				0	0										0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
焼片数比(100%焼片/ワカ成器)×100				0	0										0													

23SB7

遺構名	柱状名	出土層位	月日	総点数 (個)	総重量 (g)	ロタリ(個)			手つく(個)			不明(個)			その他	ロタリ底面 /全重量	ロタリ底面 判定	鏡片 数比	備考
						大	小	不明	大	小	不明	大	小	不明					
23SB7-82-90-005	層上			8	96				3	3					2	19.8	19	○	
23SB7-82-91-004	層上			15	184				0	0					1	100.0	100	○	
23SB7-82-92-007	層上			16	192				3	0	0	0	0	1	8	54.4	132	○	
合計				39	472	0	0	0	0	3	0	0	0	1	10	57.6	163	40.0	
鏡片数比(手づく占点率・総点数)＊100)					全鏡片数(手づく) 4														
鏡片数比(手づく占点率・ロタリ占点)＊100)																			

23SB8

遺構名	柱状名	出土層位	月日	総点数 (個)	総重量 (g)	ロタリ(個)			手つく(個)			不明(個)			その他	ロタリ底面 /全重量	ロタリ底面 判定	鏡片 数比	備考		
						大	小	不明	大	小	不明	大	小	不明							
23SB8-82-91-001	層上			13	113			1							2	7	45.1	51	○		
23SB8-82-91-002	層上			3	4										2	0	0.0	0	○		
23SB8-82-91-001	層上			10	44										2	7	22.7	10	○		
23SB8-82-91-001	層上			39	192				6	5		1	2		21	53.8	63	○			
23SB8-82-92-003	層上			7	36										2	7	19.1	22	○		
23SB8-82-91-002	層上			7	31										1	5	15.1	1	△	鏡破 鏡片	
23SB8-82-91-003	層上			4	20										1	2	0.0	0	△		
23SB8-82-91-003	層上			4	15										2	0	0.0	0	○		
23SB8-82-91-003	層上			3	49				2						0	73.5	36	○			
23SB8-82-92-001	層上			12	61							1			7	48.4	44	○			
23SB8-82-91-003	層上			2	20										1	2	0.0	0	○		
23SB8-82-91-003	層上			3	39										1	30.0	0	○			
23SB8-82-91-007	層上			1	9										0	100.0	0	○			
23SB8-82-91-007	層上			2	88										1	38.9	8	○			
23SB8-82-91-001	層上			2	47										3	11	23.2	7	○		
23SB8-82-91-002	層上			10	58				1	3					1	5	8.6	3	○		
23SB8-82-91-002	層上			13	74										1	7	67.6	50	○		
23SB8-82-91-007	層上			11	145										1	31	41.5	4	△	鏡破 鏡片	
23SB8-82-91-007	層上			4	29			1		2					2	0	0.0	0	○		
23SB8-82-91-002	層上			9	32										4	15.6	3	○			
23SB8-82-91-002	層上			26	106										4	13	47.5	30	○		
23SB8-82-91-002	層上			31	131			3							12	36.6	48	△	鏡破 鏡片		
23SB8-82-91-002	層上			17	150	1	1								1	7	39.3	8	△	鏡破 鏡片	
23SB8-82-91-002	層上			28	106				1	1					2	9	47.2	32	△	鏡破 鏡片	
23SB8-82-91-002	層上			45	201			4	10						2	27	44.8	90	○		
23SB8-82-91-002	層上			26	156			1	2						1	11	32.1	30	○		
合計				262	1097	1	1	0	12	57	0	1	0	0	61	41	43.8	616	1.6	23.0	判定のみ
鏡片数比(手づく占点率・総点数)＊100)					全鏡片数(手づく) 21																
鏡片数比(手づく占点率・ロタリ占点)＊100)																					

28SB1

遺構名	柱状名	出土層位	月日	総点数 (個)	総重量 (g)	ロタリ(個)			手つく(個)			不明(個)			その他	ロタリ底面 /全重量	ロタリ底面 判定	鏡片 数比	備考			
						大	小	不明	大	小	不明	大	小	不明								
28SB1-66-82-PP6	層上(鏡破除外)			6	18										5	30	△	鏡破 鏡片				
28SB1-66-78-PP6	層上(鏡破除外)			9	369		1	1							3	26.3	97	△	鏡破 鏡片			
28SB1-66-78-PP7	層上(鏡破除外)			8	136	1									1	17.7	16	△	鏡破 鏡片			
28SB1-66-78-PP7	柱状			11	171		2		3	2					2	7	20.0	7	△	鏡破 鏡片		
28SB1-66-78-PP7	層上			12	220		2	0	0	2	3	0	0	0	0	0	6	38.1	39	○		
28SB1-66-78-PP3	層上			35	300										2	4	11	24	18.0	○		
28SB1-66-78-PP3	層上			4	29										1	1	10	12	12.0	○		
28SB1-66-78-PP3	層上(鏡破除外)			17	10										1	4	6.7	4	○			
28SB1-66-78-PP3	層上(鏡破除外)			9	54										2	3	20	30.0	○			
28SB1-66-78-PP3	層上(鏡破除外)			163	1082		2	7	2	0	3	0	0	0	0	10	2	168	34.5	148	○	
28SB1-66-78-PP1	層上(鏡破除外)			4	23										1	1	9	5	14	○		
28SB1-66-78-PP1	層上(鏡破除外)			145	873										10	1	100	25.8	50	△	鏡破 鏡片	
28SB1-66-78-PP1	層上(鏡破除外)			188	907	0	4	1	1	0	13	0	0	0	0	11	106	28.8	261	○		
28SB1-66-80-PP4	層上			5	21										2	3	0.0	0	○			
28SB1-66-80-PP4	層上			4	19										2	3	0.0	0	○			
28SB1-66-80-PP4	層上			5	24										2	7	0.0	0	○			
28SB1-66-80-PP4	柱状(鏡破除外)			10	47										2	7	18.5	7	○			
28SB1-66-80-PP4	柱状(鏡破除外)			4	29										2	2	0.0	0	○			
28SB1-66-80-PP4	柱状(鏡破除外)			8	35	1									1	5	8.6	3	○			

50SB17

通称名	柱穴名	出土層位	月日	総点数 (個)	総重量 (g)	ロタ石(個)			手づく石(個)			不明(個)			その他	ロタ石数 /全重量	ロタ石重 量率(%)	判定	焼片 数比	備考
						大	小	不明	大	小	不明	大	小	不明						
						100%	75%	50%	100%	75%	50%	100%	75%	50%						
50SB17	326			4	12										4	0.0	0	0	0.0	
平均値(1/25(点数)/総点数)・100				0	12	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
焼片数比(1/25(点数)/ロタ石数)・100				0																0

50SB19

通称名	柱穴名	出土層位	月日	総点数 (個)	総重量 (g)	ロタ石(個)			手づく石(個)			不明(個)			その他	ロタ石数 /全重量	ロタ石重 量率(%)	判定	焼片 数比	備考
						大	小	不明	大	小	不明	大	小	不明						
						100%	75%	50%	100%	75%	50%	100%	75%	50%						
50SB19	186			5	19										1	31.6	6	×		
平均値(1/25(点数)/総点数)・100				6	31	0	0	0	0	1	0	0	0	0	2	0	0	0	1	0
焼片数比(1/25(点数)/ロタ石数)・100				33.3											2	31.6	6	×	16.7	
焼片数比(1/25(点数)/ロタ石数)・100				0											2					

50SB23

通称名	柱穴名	出土層位	月日	総点数 (個)	総重量 (g)	ロタ石(個)			手づく石(個)			不明(個)			その他	ロタ石数 /全重量	ロタ石重 量率(%)	判定	焼片 数比	備考
						大	小	不明	大	小	不明	大	小	不明						
						100%	75%	50%	100%	75%	50%	100%	75%	50%						
50SB23	356			16	58										0	0.0	0	0	0.0	
平均値(1/25(点数)/総点数)・100				15	58	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
焼片数比(1/25(点数)/ロタ石数)・100				66.7																

52SB14

通称名	柱穴名	出土層位	月日	総点数 (個)	総重量 (g)	ロタ石(個)			手づく石(個)			不明(個)			その他	ロタ石数 /全重量	ロタ石重 量率(%)	判定	焼片 数比	備考
						大	小	不明	大	小	不明	大	小	不明						
						100%	75%	50%	100%	75%	50%	100%	75%	50%						
52SB14	P118			2	24										2	0.0	0	0	0.0	
52SB14	P119			6	36										2	36.0	26	○		
52SB14	P121			5	28										2	44.0	32	○		
52SB14	P123			16	88										14	43.2	38	○		
52SB14	P124			7	31										3	15.0	7	○		
52SB14	P139			21	115										1	14	28	×	重複	
52SB14	P145			3	27										2	30.0	13	○		
52SB14	P147			4	20										0	0.0	0	0	0.0	
52SB14	P172			5	19										3	62.0	10	○		
52SB14	P884			8	36										3	4.5	×		重複	
52SB14	P885			23	178										2	9	144	×	重複	
52SB14	P891			4	15										2	2	×		重複	
52SB14	P892			2	25										1	6	×		重複	
52SB14	P901			10	81										1	4	60	×	重複	
52SB14	P904			9	18										1	8	0	○		
52SB14	P905			9	19										1	8	0	○		
52SB14	P923			12	25										2	4	45.3	34	○	焼片数
平均値(1/25(点数)/総点数)・100				31	387	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	36	44.4	121	22.0	判定のみ
焼片数比(1/25(点数)/ロタ石数)・100				4.4											1					

52SB18

通称名	柱穴名	出土層位	月日	総点数 (個)	総重量 (g)	ロタ石(個)			手づく石(個)			不明(個)			その他	ロタ石数 /全重量	ロタ石重 量率(%)	判定	焼片 数比	備考
						大	小	不明	大	小	不明	大	小	不明						
						100%	75%	50%	100%	75%	50%	100%	75%	50%						
52SB18	291			8	136										6	83.0	72	○		
52SB18	298			1	26										1	100.0	26	○		
52SB18	300			2	4										2	0	0	0	0.0	
52SB18	301			1	6										1	0	0	0	0.0	
52SB18	304			1	17										1	14	14	○		
52SB18	359			1	4										1	0	0	0	0.0	
52SB18	874			30	6										1	3	0	○		
平均値(1/25(点数)/総点数)・100				5.0	204	0	0	0	0	0	0	0	0	0	15	295.7	121	20.0		
焼片数比(1/25(点数)/ロタ石数)・100				30											1					

52SB19

演題名	柱次名	浪土階位	月日	総点數 (個)	総重量 (g)	ロクロ(個)												その他	ロクロ成部 /全重量 重量(g)	ロクロ成部 重量(g)	判定	鏡片 數比	備考
						手つく(組)						不測(個)											
						大	小	不明	大	小	不明	大	小	不明	大	小	不明						
52SB19	570			2	3													0.0	6	○			
52SB19	687			2	3													0.0	6	○			
52SB19	931			2	3													0.0	6	○			
合計				6	9													0.0	18	○	0.0		
鏡片数比(手つく成部/総点數)＊100	0.0																						
鏡片数比(手つく成部/ロクロ成部)＊100	0																						

52SB21

演題名	柱次名	浪土階位	月日	総点數 (個)	総重量 (g)	ロクロ(個)												その他	ロクロ成部 /全重量 重量(g)	ロクロ成部 重量(g)	判定	鏡片 數比	備考
						手つく(組)						不測(個)											
						大	小	不明	大	小	不明	大	小	不明	大	小	不明						
52SB21	P164	柱判部分		5	33													4	60.0	21	○		
52SB21	P164	柱判部分		26	79													167	10.1	3	○		
52SB21	P89	柱判部分		4	13													2		0	×		
52SB21	P260	柱判部分		5	63													2	76.2	48	○		
52SB21	P36			3	13													1	61.3	8	○		
52SB21	P76			6	23													3		0	×		
52SB21	P102			10	16													10		0	×		
合計				49	208													33	41.3	82	○		
鏡片数比(手つく成部/総点數)＊100	14.3																						
鏡片数比(手つく成部/ロクロ成部)＊100	0																						

52SB25

演題名	柱次名	浪土階位	月日	総点數 (個)	総重量 (g)	ロクロ(個)												その他	ロクロ成部 /全重量 重量(g)	ロクロ成部 重量(g)	判定	鏡片 數比	備考
						手つく(組)						不測(個)											
						大	小	不明	大	小	不明	大	小	不明	大	小	不明						
52SB25	100			9/1	13													3	47.8	45	○		
52SB25	209			8/4	8													3	15.8	10	○		
52SB25	215			6/2	9													2	0.0	0	×		
52SB25	226			8/2	3													2	0.0	0	×		
52SB25	244			3	19													2	50.0	10	×		
52SB25	244			3	18													2	0.0	0	×		
52SB25	726			3	21													2	100.0	21	×		
52SB25	726			4	20													2	0.0	0	×		
52SB25	726			1	13													1	100.0	13	×		
52SB25	726			10	62													4	72.6	45	×		
52SB25	827		8/21	9	69													3	18.4	9	×		
52SB25	887		9/4	3	17													3	0.0	0	×		
52SB25	941		9/4	2	19													2	100.0	19	×		
52SB25	949		9/4	1	9													1	100.0	9	×		
52SB25	949			4	28													3	75.0	21	×		
合計	設計			66	430													11	31	47	○		
合計	設計			29	188													9	18	37.8	71	○	
鏡片数比(手つく成部/総点數)＊100	0.0																						
鏡片数比(手つく成部/ロクロ成部)＊100	0																						

55SB5

演題名	柱次名	浪土階位	月日	総点數 (個)	総重量 (g)	ロクロ(個)												その他	ロクロ成部 /全重量 重量(g)	ロクロ成部 重量(g)	判定	鏡片 數比	備考
						手つく(組)						不測(個)											
						大	小	不明	大	小	不明	大	小	不明	大	小	不明						
55SB5	K18		9/14	1	19													1	100	19	○		
55SB5	K22		9/14	2	11													1	100	11	○		
55SB5	K22			5	39													4	86.1	18	○		
55SB5	K24		9/14	5	31													1	0.0	0	×		
55SB5	K31		9/14	11	67													3	80.7	28	○		
55SB5	K31			3	21													1	0.0	0	×		
55SB5	K31		9/14	3	21													1	0.0	0	×		
55SB5	K38		9/14	1	3													1	100.0	3	○		
55SB5	K40			1	3													1	0.0	0	×		
55SB5	K54		9/14	2	15													2	0.0	0	×		
55SB5	K36		9/4	7	32													3	76.2	18	×		
55SB5	K32		9/14	8	48													2	25.2	44	○		
55SB5	K29			3	6													3	0.0	0	×		

55SB11

遊戯名	種別名	出上階位	月日	総点數 (個)	総重量 (g)	ロケ豆(個)			手つくお(個)			不明(個)			その他	ロケの戻り /全重量	ロケの戻り 重量(g)	判定	観片 数比	備考										
						大	小	不明	大	小	不明	大	小	不明																
						目録別 戻部	目録別 戻部	目録別 戻部	目録別 戻部	目録別 戻部	目録別 戻部	目録別 戻部	目録別 戻部	目録別 戻部																
55SB11	1011		10/12	10	44			1			1				8	13.6	6.×		構成体											
55SB11	1069		10/12	4	28						1				2	0	0													
55SB11	1099			3	19						1			1	0	0	0													
55SB11	1077			18	106			3			1			3	11	30.2	32.0													
55SB11	1082		10/12	3	51	1									4	0	0													
55SB11	1082			7	34			1						1	0	0	0													
55SB11	1082			6	25						1			0	0	0	0													
55SB11	1067		10/12	3	34			1						1	0	19.4	0													
55SB11	1097			3	38								1	1	0	0	0													
55SB11	1107		10/12	10	66			1					4	1	4	18.3	11.0													
55SB11	1107			14	38			1					1	0	10	15.8	8.0													
55SB11	1109			6	40			1					1	1	0	0	0													
55SB11	1127			7	37			3						1	4	40.8	15.0													
55SB11	1127			6	31								2	0	0	0	0													
55SB11	1181		10/12	4	13									2	0	0	0													
合計	合計			112	662	1	0	1	0	1	11	0	0	2	0	3	11	1	0	1	0	10	0	70	13.6	27		全計		
観片数比(トブお豆数/総点數) * 100				106	521	1	0	1	0	1	10	0	0	2	0	3	10	1	0	1	0	10	0	62	13.6	27		全計		
観片数比(トブお豆数/ロケ豆数) * 100				115																										全計

55SB12

遊戯名	種別名	出上階位	月日	総点數 (個)	総重量 (g)	ロケ豆(個)			手つくお(個)			不明(個)			その他	ロケの戻り /全重量	ロケの戻り 重量(g)	判定	観片 数比	備考									
						大	小	不明	大	小	不明	大	小	不明															
						目録別 戻部	目録別 戻部	目録別 戻部	目録別 戻部	目録別 戻部	目録別 戻部	目録別 戻部	目録別 戻部	目録別 戻部															
55SB12	1008			6	70			3	1					2	0	30	0			構成体									
55SB12	1096			2	9								1	0	0	0	0												
55SB12	1096			2	8								1	0	0	0	0												
55SB12	1082			9	53								1	0	0	0	0												
55SB12	1008			12	38			3				1	0	0	0	0	0			構成体									
55SB12	1073			1	7									1	0	0	0	0											
55SB12	1073			3	18			2						1	0	61.1	11	0		構成体									
55SB12	1081			1	13									1	0	0	0	0											
55SB12	1081			3	12								1	1	0	0	0												
55SB12	1086			7	6									1	0	0	0	0											
55SB12	1096			2	9								1	0	0	0	0												
55SB12	1111			3	9									1	0	0	0	0											
55SB12	1111			13	89			3					2	0	35.8	0	0												
55SB12	1129			1	12								1	0	25.6	0	0												
55SB12	1129			19	91			3					1	0	7	31.0	21.0												
55SB12	1135		10/15	15	60			2				1	0	0	8	18.7	10.0												
55SB12	1135			6	14			2					1	0	0	0	0												
合計	合計			30	425	0	0	0	0	18	1	0	4	0	6	16	0	0	0	0	4	0	30	14.3	84		全計		
観片数比(トブお豆数/総点數) * 100				28	355	0	0	0	0	17	0	0	4	0	6	11	0	0	0	0	4	0	24	23.7	84		18.7	判定のみ	
観片数比(トブお豆数/ロケ豆数) * 100				118																									全計

55SB13

遊戯名	種別名	出上階位	月日	総点數 (個)	総重量 (g)	ロケ豆(個)			手つくお(個)			不明(個)			その他	ロケの戻り /全重量	ロケの戻り 重量(g)	判定	観片 数比	備考									
						大	小	不明	大	小	不明	大	小	不明															
						目録別 戻部	目録別 戻部	目録別 戻部	目録別 戻部	目録別 戻部	目録別 戻部	目録別 戻部	目録別 戻部	目録別 戻部															
55SB13	1063			15	65			2						3	10	18.5	12.0												
55SB13	1063			9	23									1	0	6.0	20.0												
55SB13	1074			26	134			1					1	0	16	17.0	32.0												
55SB13	1074			5	23			3	1				2	0	0	0	0												
55SB13	1081			2	23								3	0	0	0	0												
55SB13	1081			18	78	1	1						1	2	0	23.0	21.0			構成体									
55SB13	1087			40	196	1		7						10	21	27.6	54.0			構成体									
55SB13	1090			2	25			1						1	0	0	0	0											
合計	合計			172	652	2	1	1	0	0	14	2	0	0	6	4	0	0	0	19	0	56	25.0	131		全計			
観片数比(トブお豆数/総点數) * 100				17	200	0	0	1	0	0	6	1	0	0	0	0	0	0	0	19	0	56	25.0	131		12.0	判定のみ		
観片数比(トブお豆数/ロケ豆数) * 100				71																									全計

55SB21

遺構名	柱穴名	出土層位	月日	総点數 (個)	総重量 (g)	ロタロ(個)												その他	ロタロ底面 /全重量	ロタロ底面 重量(g)	判定	鏡片 數比	備考
						大				手つくね(小)				不明(細)									
						大	小	不明	不明	大	小	不明	不明	大	小	不明	不明						
55SB22				3	20																		
55SB21				42	175					2	3												
55SB21				29	153																		
55SB21				1	7																		
55SB21				388	140					3													
55SB21			5/29	33	229																		
55SB21				12	50																		
55SB21				618	14						1												
55SB21			7/12	1	5																		
55SB21			10/18	18	79					1													
55SB21			10/18	14	81					4													
55SB21				1	5																		
合計				130	665	0	0	0	1	0	3	0	1	0	1	8	0	0	0	21	0	34.3	
鏡片数比(フラスコ鏡/総点數)●100				5.9												8	0	0	0	13	0	18	
鏡片数比(フラスコ鏡/ロタロ点數)●100				69												9	0	0	0	10	0	118	

55SB24

遺構名	柱穴名	出土層位	月日	総点數 (個)	総重量 (g)	ロタロ(個)												その他	ロタロ底面 /全重量	ロタロ底面 重量(g)	判定	鏡片 數比	備考
						大				手つくね(小)				不明(細)									
						大	小	不明	不明	大	小	不明	不明	大	小	不明	不明						
55SB24				4	19																		
55SB24				9	29					1													
55SB24				3	16																		
55SB24				4	24					1													
55SB24				4	25					2													
55SB24				2	19																		
55SB24				3	19																		
55SB24				328	6																		
55SB24				2	32																		
55SB24				778	12																		
55SB24				2	12																		
合計				38	188	0	0	0	0	1	5	0	0	2	0	0	1	0	0	0	4	0	22
鏡片数比(フラスコ鏡/総点數)●100				8.1						1	4	0	0	3	0	0	1	0	0	0	3	0	16
鏡片数比(フラスコ鏡/ロタロ点數)●100				69																3	0	0	16

55SB25

遺構名	柱穴名	出土層位	月日	総点數 (個)	総重量 (g)	ロタロ(個)												その他	ロタロ底面 /全重量	ロタロ底面 重量(g)	判定	鏡片 數比	備考
						大				手つくね(小)				不明(細)									
						大	小	不明	不明	大	小	不明	不明	大	小	不明	不明						
55SB25				4	21																		
55SB25				28	148					4													
55SB25				1	20					1													
55SB25				631	18																		
55SB25				632	18																		
合計				140	189	0	0	0	0	3	4	0	1	0	0	2	4	0	0	0	1	0	20
鏡片数比(フラスコ鏡/総点數)●100				71.4						0	0	0	0	0	0	4	0	0	0	0	0	0	2
鏡片数比(フラスコ鏡/ロタロ点數)●100				9																3	0	0	9

55SB27

遺構名	柱穴名	出土層位	月日	総点數 (個)	総重量 (g)	ロタロ(個)												その他	ロタロ底面 /全重量	ロタロ底面 重量(g)	判定	鏡片 數比	備考
						大				手つくね(小)				不明(細)									
						大	小	不明	不明	大	小	不明	不明	大	小	不明	不明						
55SB27				7	13																		
55SB27				1	1																		
55SB27				333	1																		
合計				9	15	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
鏡片数比(フラスコ鏡/総点數)●100				0.0																0	0	0	0
鏡片数比(フラスコ鏡/ロタロ点數)●100				0																0	0	0	0

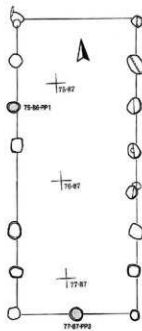
23SG1

選手名	杜穴名	馬士階級	月日	総点数 (個)	総重量 (g)	ロタ豆(個)								手づくね(個)								不明(個)		その他	ロタの尻尾 /全重量	ロタの尻尾 重量(g)	判定	破片 数比	備考			
						大		小		不明		大		小		不明		大		小		不明										
						口周	尻尾	口周	尻尾	口周	尻尾	口周	尻尾	口周	尻尾	口周	尻尾	口周	尻尾	口周	尻尾	口周	尻尾									
23SG1	T1d	7-10(1期)	10-15	100	897				1	6	9	2	2	2	14					1	56	6.8	35	○								
23SG1	T1d	7-10(1期)	10-15	83	292				1	2				6	9					7	61	7.7	9	○								
23SG1	T1d	7-10(1期)	10-15	58	179				2				1	2	4					7	42	7.9	32	○								
23SG1	T1d	7-10(1期)	10-15	115	726					4	4	3		14	16					3	62	7.1	32	○								
合計				352	586				2	6	3	0	1	15	13	6	13	0	24	43	0	0	0	11	0	241	7.2	142				
23SG1	T1d	9-10(1期)	10-18	109	104				1	1			1	7	8	3			9	29	29			9	115	10.1	105	○				
23SG1	T1d	9-10(1期)	10-18	99	345										5										83	2.9	15	○				
23SG1	T1d	9-10(1期)	10-18	83	677				2	1	1	1	1	3	4	7	4				8	16			5	30	11.8	80	○			
23SG1	T1d	9-10(1期)	10-18	130	1152				2	1	2	1		14	3	13				12	11			12	43	6.6	113	○				
合計				599	3222				2	3	3	1	2	17	29	13	31	0	53	52	0	0	0	22	0	271	7.5	337				
23SG1	T1d	3期(1期)	10-15	29	245				1	1	1			1	2				1	2				3	7	14.3	35	○				
23SG1	T1d	3期(1期)	10-15	6	36									3											1	1	20.0	28	○			
23SG1	T1d	3期(1期)	10-15	5	13																						1	5	8	○		
合計				35	417				1	1	2		0	4	0				2	0	2	2	2	0	0	0	4	0	8	15.9	71	
合計				884	6642				5	4	10	2	3	38	4	10	46	0	79	68	2	0	0	0	27	0	500	8.2	537			
破片数比(トマね豆粒/総豆粒)×100					32.9																											4.8
破片数比(トマね豆粒/ロタの豆粒)×100					475																											
選手名	杜穴名	馬士階級	月日	総点数 (個)	総重量 (g)	ロタ豆(個)								手づくね(個)								不明(個)		その他	ロタの尻尾 /全重量	ロタの尻尾 重量(g)	判定	破片 数比	備考			
						大		小		不明		大		小		不明		大		小		不明										
						口周	尻尾	口周	尻尾	口周	尻尾	口周	尻尾	口周	尻尾	口周	尻尾	口周	尻尾	口周	尻尾	口周	尻尾									
23SG1	T1d	5期(1期)	9-27	13	284				1				3	1											4	29.3	78	○				
23SG1	T1d	5-6(1期)	10-15	138	584								9	2	1	4				8	27				8	89	9.8	57	○			
23SG1	T1d	5-6(1期)	10-15	117	566								1	7	3	3									1	68	7.4	43	○			
23SG1	T1d	5-6(1期)	10-15	224	1579				2	3	3	2	3	19	7	4	6	1		18	27			4	1	191	26.7	421	○			
23SG1	T1d	5-6(1期)	10-15	83	844				2	2			2	6	5	4	9		18	6	1			7	7	23	13.2	128	○			
23SG1	T1d	5-6(1期)	10-15	30	212									2	2													16	4.7	10	○	
合計				607	3726				2	3	3	2	6	43	16	14	29	10		61	78	0	0	0	20	1	350	17.0	600			
合計				915	6589				2	4	3	2	6	45	19	15	27	19	5	85	85	0	0	0	20	1	524	53.0	727			
破片数比(トマね豆粒/総豆粒)×100					395																											8.3
選手名	杜穴名	馬士階級	月日	総点数 (個)	総重量 (g)	ロタ豆(個)								手づくね(個)								不明(個)		その他	ロタの尻尾 /全重量	ロタの尻尾 重量(g)	判定	破片 数比	備考			
						大		小		不明		大		小		不明		大		小		不明										
						口周	尻尾	口周	尻尾	口周	尻尾	口周	尻尾	口周	尻尾	口周	尻尾	口周	尻尾	口周	尻尾	口周	尻尾									
23SG1	T1d	1-4(1期)	10-15	20	848								1	1	2	1	11	9	7		7			6	1	27	19.5	165	○			
23SG1	T1d	1-4(1期)	10-15	23	688									1	2	1	8	4	2						4	1	18	26.1	126	○		
合計				142	1446				1	1	2	4	1	19	13	9	7	0		8	20	0	0	0	10	2	45	26.3	281		16.9	
破片数比(トマね豆粒/総豆粒)×100					49.1																											
破片数比(トマね豆粒/ロタの豆粒)×100					21																											

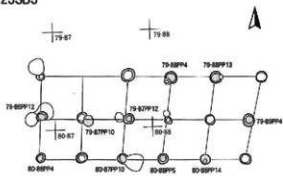
23SB1



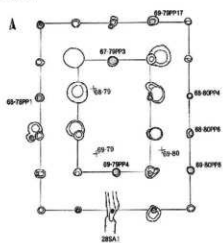
23SB2



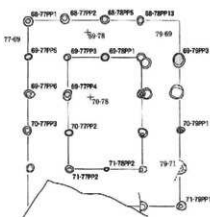
23SB3



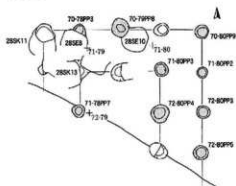
28SB1



28SB2

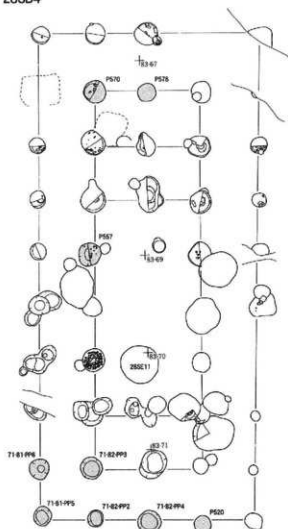


28SB3

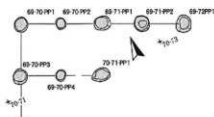


第1図 遺物出土遺構図(1)

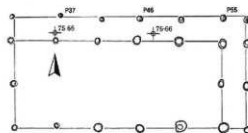
28SB4



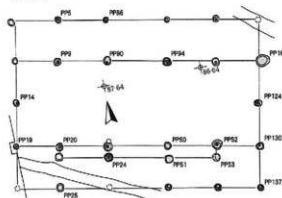
31SB5



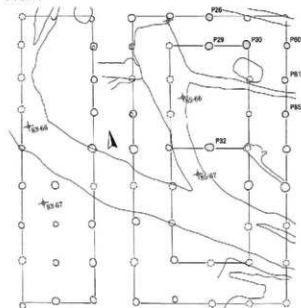
31SB7



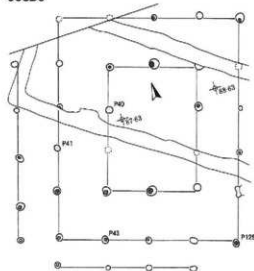
50SB3



50SB4

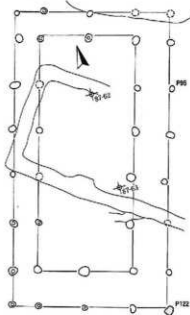


50SB5

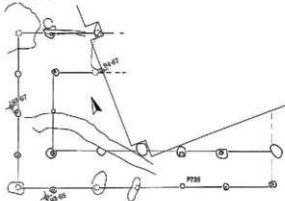


第 2 圖 遺物出土遺構圖 (2)

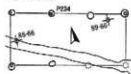
50SB6A



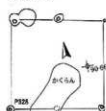
50SB9



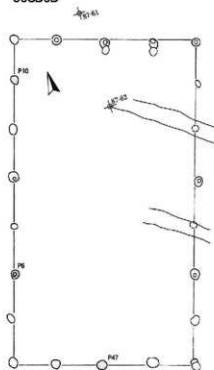
50SB16



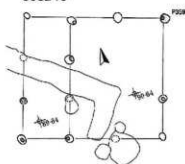
50SB17



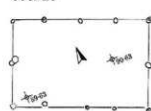
50SB6B



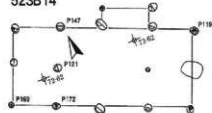
50SB10



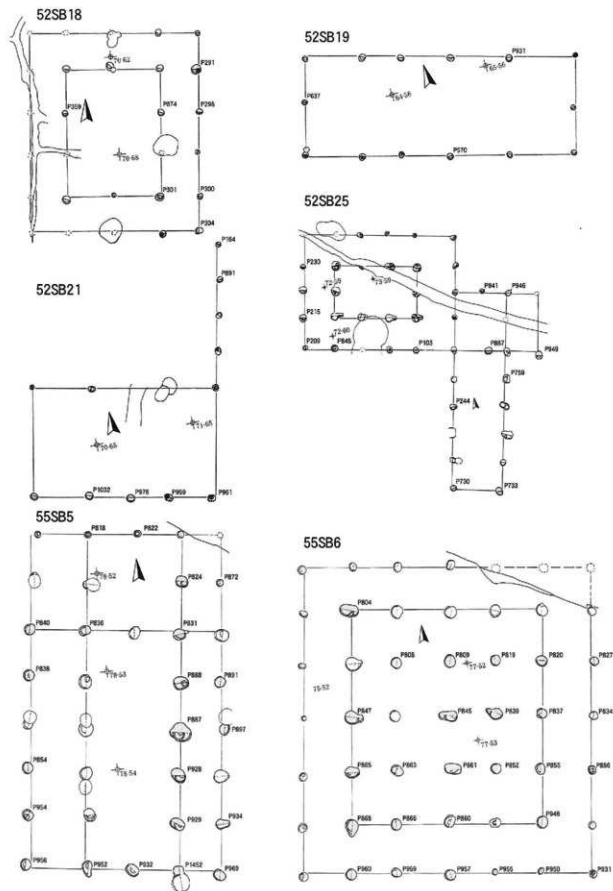
50SB23



52SB14



第3図 遺物出土遺構図(3)

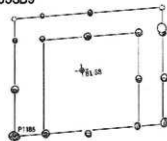


第 4 圖 遺物出土遺構圖 (4)

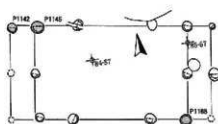
55SB8



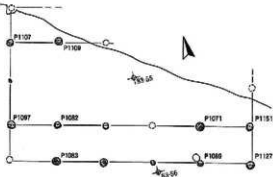
55SB9



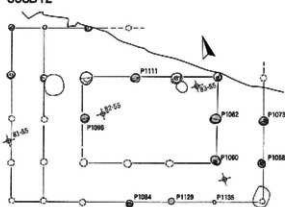
55SB10



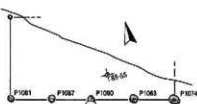
55SB11



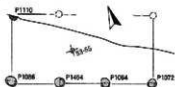
55SB12



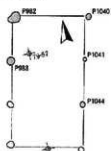
55SB13



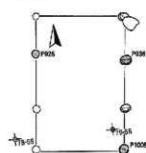
55SB14



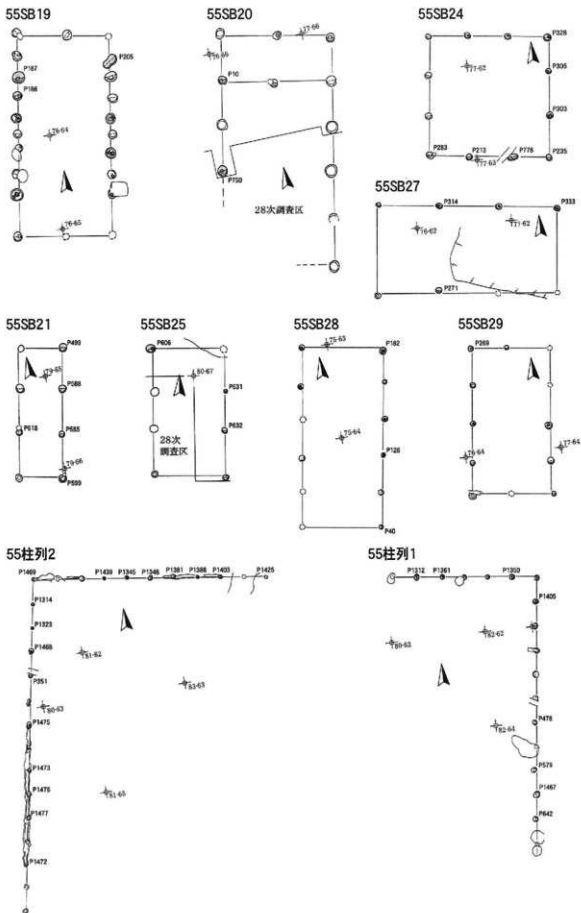
55SB16



55SB17

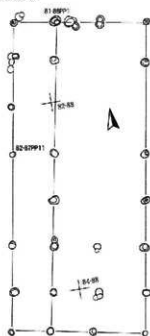


第5圖 遺物出土遺構圖(5)

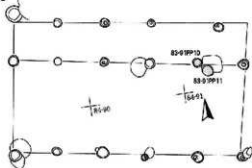


第 6 図 遺物出土遺構図 (6)

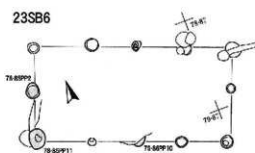
23SB4



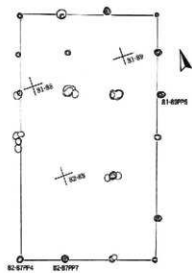
23SB5



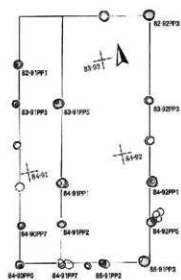
23SB6



23SB7

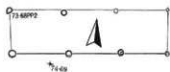


23SB8

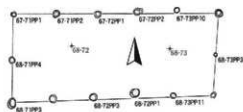


第7图 遺物出土遺構圖(7)

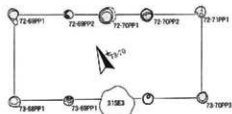
31SB3



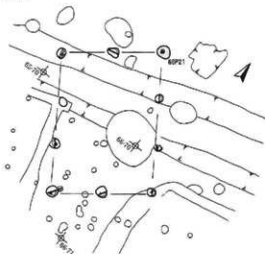
31SB6



31SB4



41SB2



第 8 図 遺物出土遺構図 (8)

報告書抄録

ふりがな	ひらいずみいせきぐんはつくつちょうさほうこくしょ やなぎのごしょいせき							
書名	平泉遺跡群発掘調査報告書 柳之御所遺跡							
副書名	第65次発掘調査概報							
巻次								
シリーズ名	岩手県文化財調査報告書							
シリーズ番号	第125集							
編著者名	大関真人 吉田 充 佐藤嘉広 西澤正晴(編)							
編集機関	岩手県教育委員会							
所在地	〒020-8570 岩手県盛岡市内丸10-1							
発行年月日	西暦2008年3月31日							
所収遺跡名	所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
柳之御所遺跡	西磐井郡 平泉町 平泉字 柳御所地内	03402	NE76-0190	38度 59分 28秒	141度 7分 35秒	2007.05.08 ～ 2007.10.30	2,500㎡	史跡整備に 向けた内容 確認調査
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
柳之御所遺跡	居館跡	平安時代	掘立柱建物跡 6棟 竪穴建物跡 1棟 土坑 7基 溝跡 21条 塀跡 4基 ピット 379個	かわらけ 国産陶器(瀬美・常滑など) 中国産陶磁器(白磁・青白磁・中国陶器) 木製品など		5間×2間の総柱構造の遺物跡の発見。「吾妻鏡」記載の「高屋」との関連も注目される。		
要約	<p>柳之御所遺跡の65回目の調査である。堀内部地区のうち中心城の西と北側の調査である。調査地はいずれも以前に調査を行った範囲であり、今回は2回目の調査となる。調査の結果、いくつかの遺構があらたに発見され、とくに5間×2間の総柱建物跡の検出が特筆される。この特徴的な形式の建物跡は平泉町内からも発見されており、今後のこれらに関連づけた研究が期待できる。</p> <p>また、竪穴建物跡の調査では、床面に構築された柱穴の形状が一部変更になり、直径1mの主柱穴4個から構成される構造をもつことが新たに判明した。</p>							

岩手県文化財調査報告書 第125集

平泉遺跡群発掘調査報告書

柳之御所遺跡

— 第65次発掘調査概報 —

印刷 平成20年3月31日

発行 平成20年3月31日

発行 岩手県教育委員会生涯学習文化課

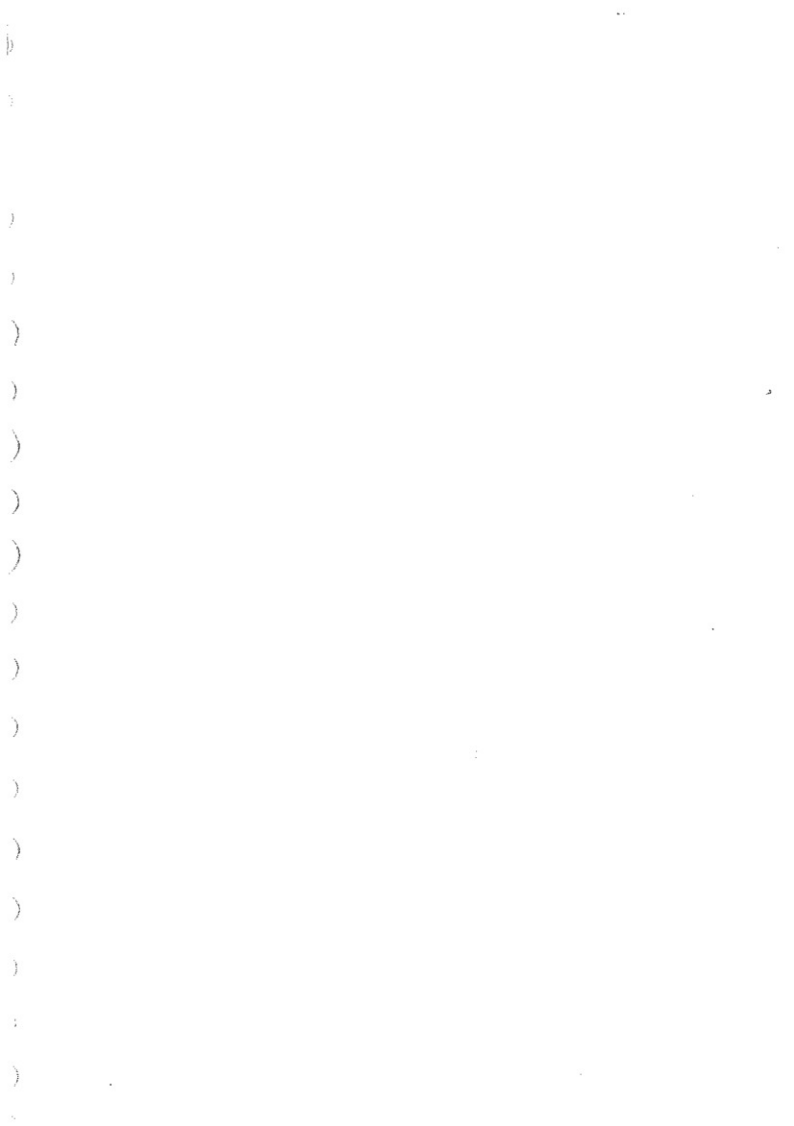
〒020-8570 岩手県盛岡市内丸10-1

電話 (019) 629-6171 (代表)

印刷 小松総合印刷株式会社

〒020-0827 岩手県盛岡市鈍屋町15-4

電話 (019) 624-1374



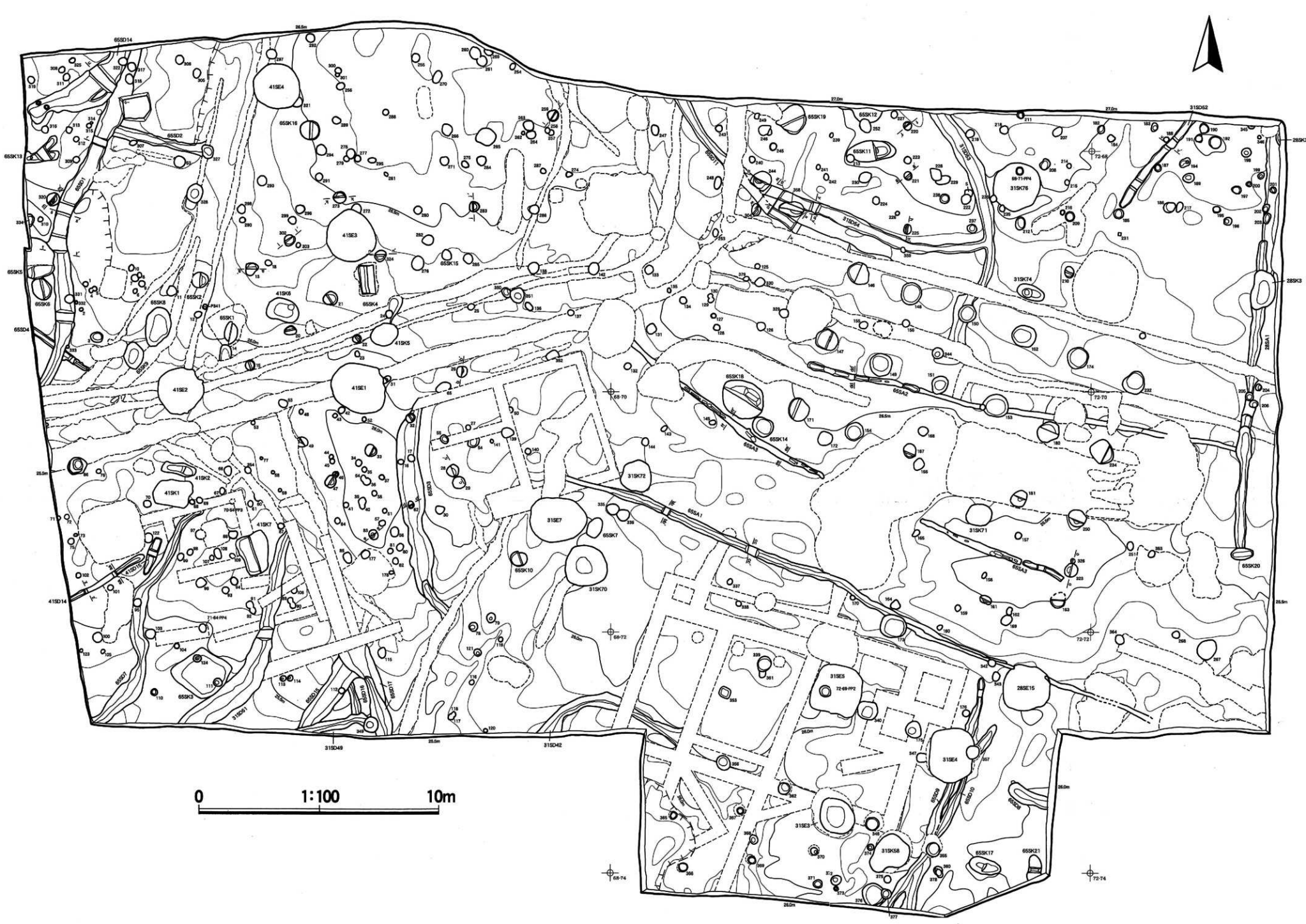
Yanaginogosho Site

The 65th Excavation Report of the Local Government Office in Hiraizumi of the 12th Century



2008

Iwate Board of Education , JAPAN



柳之御所遺跡第65次発掘調査遺構配置図